|--|

工種	種別	試験 区分	試験項目	·試験方法	試験基準	≛∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
1 セメン ト・コンク リート(転 圧コンク	材料	必須	アルカリシリカ反 応抑制対策	抑制対策について (平成14年7月31 日付け国官技第1	骨材試験を行う場合は、工事開始 前、工事中1回/6ヶ月以上及び産 地が変わった場合。		「アルカリ骨材反応抑制対策に ついて」(平成14年7月31日 付け国官技第112号、国港環 第35号、国空建第78号)」		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
リート・コン クリートダ ム・覆エ コンクリー ト・吹付				12号、国港環第3 5号、国空建第78 号)				0	確認箇所							
ト・吹り リートを 除く)			G++ 0 > 7 ()				50.51 (70.0)		コメント							
			骨材のふるい分 け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	工事開始前、工事中1回/月以上 及び産地が変わった場合。		設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		J I S						0	確認箇所							
		マーク表							コメント							
		さ れ	骨材の密度及び 吸水率試験	JIS A 1110 JIS A 5005	工事開始前、工事中1回/月以上 及び産地が変わった場合。	JIS A 5005(コンクリート用砕石 及び砕砂) JIS A 5011-1(コンクリート用スラ	細骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		たレディ		JIS A 5011-1~4 JIS A 5021		グ骨材 - 第1部: 高炉スラグ骨材) JJS A 5011-2(コンクリート用スラ グ骨材 - 第2部: フェロニッケル スラグ骨材)			確認箇所							
		ミクスト				A J J F H H J J I S A 5011-3(コンクリート用スラグ骨材 - 第3部: 銅スラグ骨材) JIS A 5011-4(コンクリート用スラグ骨材 - 第4部: 電気炉酸化スラグ		0	コメント							
		コンクリートも				グ骨材) JIS A 5021(コンクリート用再生骨材 H)										
			粗骨材のすりへり 試験	JIS A 5005	工事開始前、工事中1回/年以上 及び産地が変わった場合。 ただし、砂利の場合は、工事開始		砕石40%以下 砂利35%以下 舗装コンクリートは35%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		9る場合は			ただし、砂利の場合は、工事開始 前、工事中1回/月以上及び産地 が変わった場合		調袋コグパードは30%以下 ただし、積雪寒冷地の舗装コンク リートの場合は、25%以下	0	確認箇所							
		除く)							コメント							

工事名: 対象箇所:		品質証明者	
------------	--	-------	--

工種				·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
1 セメン ト・コンク リート(転	材料	その他	骨材の微粒分量 試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	工事開始前、工事中1回/月以上 及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週	粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒形 判定実績率が58%以上の場合		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
圧コンク リート・コン クリートダ ム・覆エ		J			以上)	は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材		確認箇所							
コンクリー ト・吹付 けコンク リートを		Sマーク				砕砂 9.0%以下(ただし、すり へり作用を受ける場合は5.0% 以下) スラグ細骨材 7.0%以下(ただ	0	コメント							
除()		表示された				し、すりくり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外(砂等) 5.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)									
		レディミ	砂の有機不純物 試験	JIS A 1105	工事開始前、工事中1回/年以上 及び産地が変わった場合。	縮 でも圧縮強度が90%以上の場		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		クストコ					0	確認箇所							
		ンクリー						コメント							
		を 使	モルタルの圧縮 強度による砂の 試験	JIS A 1142	試料となる砂の上部における溶液 の色が標準色液の色より濃い場 合。	圧縮強度の90%以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
		用する場					0	確認箇所							
		合は除く						コメント							
			骨材中の粘土塊 量の試験	JIS A 1137	工事開始前、工事中1回/月以上 及び産地が変わった場合。	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							0	確認箇所							
								コメント							

品質証明チェックシート(品質) (期間: 年 月 日<u>~</u> 年 月 <u>日</u>)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
•		•	-

工種	種別区	t験 ≤分	試験項目	・試験方法	試験基準	隼∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
1 セメン ト・コンク リート(転 圧コンク	料	のよ	流酸ナトリウムに よる骨材の安定 生試験		砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以 上及び産地が変わった場合。 砕砂、砕石:	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
リート・コン クリートダ ム・覆エ		J I S			工事開始前、工事中1回/年以上 及び産地が変わった場合。			0	確認箇所							
コンクリート・吹付 けコンク リートを 除く)		マーク表							コメント							
1,2,4		示も	セメントの物理試 検	JIS R 5201	工事開始前、工事中1回/月以上		JIS R 5210(ポルトランドセメント)		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		れたレディ					JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
		ミクスト							コメント							
			ポルトランドセメン ・の化学分析	JIS R 5202	工事開始前、工事中1回/月以上		JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント)		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		リートを					JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメ ント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
		使用するに							コメント							
		場合は	東混ぜ水の水質 式験	上水道水及び上 水道水以外の水 の場合:	工事開始前及び工事中1回/年以 上及び水質が変わった場合。	上水道を使用してる場合は試験 に換え、上水道を使用してること を示す資料による確認を行う。	懸濁物質の量:2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量:1g/L 以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		除 く )		JIS A 5308附属書 C		ENT SETTION OF MESSAGE 13 70	塩化物イオン量: 200ppm以下 セメントの凝結時間の差: 始発 は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7		確認箇所							
							及び28日で90%以上	0	コメント							

(期間: 年月日~年月日)

工種	種別	試験区分	試験項目	・試験方法	試験基準	≛•摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
1 セメン ト・コンク リート(転	料	の	練混ぜ水の水質 試験	回収水の場合: JIS A 5308附属書	工事開始前及び工事中1回/年以 上及び水質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は1回/日	その原水は、上水道水及び上水 道水以外の水の規定に適合する ものとする。	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発 は30分以内、終結は60分以内		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
圧コンク リート・コン クリートダ ム・覆エ	?	他(JIS		G	スプッン小の震及は「凹/ロ	も <i>のとする</i> 。	は30万以内、終結は00万以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7 及び28日で90%以上	0	確認箇所							
コンクリート・吹付 けコンク リートを 除く)		マーク表							コメント							
	411	示され			_ + 88 // + _ + + + + + + + + + + + + + + + +					ı	T					
	製造	たレ	計量設備の計量 精度		工事開始前、工事中1回/6ヶ月以 上	レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	水: ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨材 : ±3%以内		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
	( プラント	ディミク					混和材: ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は± 1%以内) 混和剤: ±3%以内	0	確認箇所							
	·	ストコン							コメント							
		クリー	ミキサの練混ぜ性 能試験	合:	工事開始前及び工事中1回/年以 上。	使用量が50m3未満の場合は1エ	公称容量の場合		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
		- トを使用		JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2		種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の 品質証明書等のみとすることができる。	コンクリート内のモルタル量の 偏差率:0.8%以下 コンクリート内の量の偏差率:5%以下 圧縮強度の偏差率:7.5%以		確認箇所							
		する場合				※小規模工種とは、以下の工種 を除く工種とする。(橋台、橋脚、 杭類(場所打成、井筒基礎等)、 橋梁上部工(桁、床版、高欄 等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠	下 コンクリート内空気量の偏差 率:10%以下 コンシステンシー(スランプ) の偏差率:15%以下	0	コメント							
		は除く)				工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、 幅2.0m以上)、 護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及 び特配仕様書で指定された工 種)					l					
				連続ミキサの場合:	工事開始前及び工事中1回/年以 上。		コンクリート中のモルタル単位容積質量差:0.8%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
				土木学会規準 JSCE- I 502- 2013			コンクリート中の単位粗骨材量 の差:5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランプ差:3cm以下	0	確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:		品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基準	≛∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認		チェック内容							
1 セメン ト・コング リート(車	造	ンの	細骨材の表面水 率試験	JIS A 1111	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外 の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0		
リート・コ クリートタ ム・覆コ コンクリー	プラント	J  トI  をS						0	確認箇所								
ト・吹ん けコング リートを 除く)		使用する							コメント								
		場示され	粗骨材の表面水 率試験	JIS A 1125	1回/日以上		設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0		
		除 く し ディ	:					0	確認箇所								
		ミクスト							コメント								
	施工	必須	塩化物総量規制	久性向上」	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以	総使用量が50m3未満の場合は1	原則0.3kg/m3以下		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆		
					下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回	場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総			確認箇所								
						・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502-2018)503-2018)または設計図書の規定により行う。			コメント								
						・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。 ※小規模工種とは、以下の工種											
						※小郊侯上性とは、以下の工程 ※小郊侯上性とは、以下の工程 結類 場所打杭、井筒基礎等)、 結理上都工(高、古川以上)、函渠 等)、擁壁工(高さ川以上)、函渠 工、穏門、積管、水門、水路(内 堰、トンネル、舗装、その他これら に類する工種及び特記仕様書で 指定された工種)											

品質証明チェックシート(品質) (期間: 年

対象箇所:

工事名:

(期間: 年月日~年月日)

品質証明者

試験成績 表等によ る確認 工種 種別 試験 区分 試験項目·試験方法 試験基準·摘要 規格値 チェック内容 備考 示方配合の単位水量の上限値 1)測定した単位水量が、配合 単位水量測定 「レディーミクスト 100m3/日以上の場合; 日付・チェック / 🗆 / 🗆 / 🗆 / 🗆 / 🗆 / 🗆 ト・コンク エ 須 2回/日(午前1回、午後1回)以 は、粗骨材の最大寸法が20mm~ コンクリート単位 設計±15kg/m3の範囲にある 水量測定要領 リート(転 上、重要構造物の場合は重要度 25mmの場合は175kg/m3、40mm 場合はそのまま施工してよい。 圧コンク (案)(平成16年3 に応じて100m3~150m3ごとに1 の場合は165kg/m3を基本とす 2) 測定した単位水量が、配合 リート・コン 月8日事務連絡)」 回、及び荷卸し時に品質変化が認る。 設計±15kg/m3を超え± 確認箇所 クリートダ められたときとし、測定回数は多い 20kg/m3の範囲にある場合は、 水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その **ム・覆工** 方を採用する。 コンクリー ト·吹付 運搬車の生コンは打設する。そ けコンク の後、配合設計±15kg/m3以 コメント リートを 内で安定するまで、運搬車の3 除く) 台毎に1回、単位水量の測定を なお、「15kg/m3以内で安定す るまで」とは、2回連続して 15kg/m3以内の値を観測するこ 3)配合設計±20kg/m3の指示 値を越える場合は、生コンを打 込まずに、持ち帰らせ、水量変 動の原因を調査し、生コン製造 業者に改善を指示しなければ ならない。その後の配合設計士 15kg/m3以内になるまで全運 搬車の測定を行う。 なお、測定値が管理値または 指示値を超えた場合は1回に限 月試験を実施することができ る。再試験を実施した場合は2 回の測定結果のうち、配合設 との差の絶対値の小さい方で 評価してよい。 スランプ試験 JIS A 1101 ・荷卸し時 ・小規模工種※で1工種当りの総 スランプ5cm以上8cm未満 日付・チェック / 🗆 / 🗆 / 🗆 / 🗆 / 🗆 / 🗆 ・1回/日以上、構造物の重要度 使用量が50m3未満の場合は1工 許容差±1.5cm と工事の規模に応じて20m3~ 種1回以上の試験、またはレ スランプ8cm以上18cm以下: 150m3ごとに1回、および荷卸し時 ディーミクストコンクリート工場の 許容差±2.5cm に品質変化が認められた時。ただ し、道路橋鉄筋コンリート床版にレ できる。1工種当たりの総使用量 確認筒所 できる。1工種当たりの総使用量 スランプ2.5cm: 許容差±1.0cm ディーミクスコンクリートを用いる場合は原 が50m3以上の場合は、50m3ごと 則として全運搬車測定を行う。 に1回の試験を行う。 ・道路橋床版の場合、全運搬車試 ※小規模工種とは、以下の工種 験を行うが、スランプ試験の結果が を除く工種とする。(橋台、橋脚、 コメント 安定し良好な場合はその後スランプが類(場所打杭、井筒基礎等)、 試験の頻度について監督職員と協 橋梁上部工(桁、床版、高欄 議し低減することができる。 等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠 工、樋門、樋管、水門、水路(内 幅2.0m以上)、護岸、ダム及び 堰、トンネル、舗装、その他これら に類する工種及び特記仕様書で 指定された工種)

(期間: 年月日~年月日)

工事名: 対象箇所: 品質

品質証明者	
四貝証明日	

工種	種別	種別 区分 試験項目·試験方法 試験基準·摘要				<b>维•</b> ·摘要	規格値 掲	試験成績 長等によ				チェック内容				備考
1 セメント・コンク	施工	必	コンクリートの圧 縮強度試験	JIS A 1108	・荷卸し時・・1回ノー・・1回ノー・・1回ノー・・1回ノー・・1回ノー・・1回ノー・・1回ノー・・1回ノー・・1回ノー・・・・・・・・・・		1回の試験結果は指定した呼び 強度の85%以上であること。	る確認	日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
リート(転 圧コンク リート・コン クリートダ ム・覆エ					150m3ごとに1回 なお、テストピースは打設場所で採 取し、1回につき6個(σ7…3個、 σ28…3個)とする。	できる。。1工種当たりの総使用量が50m3以上の場合は、50m3	3回の試験結果の平均値は、指 定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試 体の試験値の平均値)		確認箇所							
コンクリー ト・吹付 けコンク リートを 除く)					・早強セメントを使用する場合には、必要に応じて1回につき3個(σ3)を追加で採取する	を除く工種とする。(橋台、橋脚、 杭類(場所打杭、井筒基礎等)、 橋梁上部工(桁、床版、高欄			コメント							
						等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠 工、樋門、樋管、水門、水路(内 幅2.0m以上)、護岸、ダム及び										
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と 工事の規模に応じて20m3~	堰、トンネル、舗装、その他これら に類する工種及び特記仕様書で	±1.5%(許容差)		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
				0.0741120	150m3ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	指定された工種)			確認箇所							
									コメント							
			コンクリートの曲 げ強度試験 (コンクリート舗装	JIS A 1106	打設日1日につき2回(午前・午後) の割りで行う。なおテストピースは 打設場所で採取し、1回につき原		1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
			の場合、必須)		則として3個とする。		指定した呼び強度以上であること。		確認箇所							
									コメント							
		o o	コアによる強度試 験	JIS A 1107	品質に異常が認められた場合に 行う。		設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
		他							確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試験基準	隼∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
1 セメン ト・コンク リート(転	エ	その他	コンクリートの洗 い分析試験	JIS A 1112	品質に異常が認められた場合に 行う。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
圧コンク リート・コン クリートタ ム・覆エ コンクリー	٠								確認箇所							
ト・吹付 けコンク リートを 除く)									コメント							
	施工後	必須	ひび割れ調査	スケールによる測 定	本数 総延長 最大ひび割れ幅等	高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25m2以上の鉄筋コンクリートカルバート類、	0. 2mm		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	試験					橋梁上・下部工及び高さが3m以上の堰・水門・樋門を対象(ただしいづれの工種についてもプレキャスト製品およびプレストロンクリートは対象としない)とし構造			確認箇所							
						物躯体の地盤や他の構造物との 接触面を除く全表面とする。 フーチング・底版等で竣工時に地 中、水中にある部位については			コメント							
						竣工前に調査する。 ひび割れ幅が02mm以上の場合 は、「ひび割れ発生状況の調 査」を実施する										
			テストハンマーに よる強度推定調		鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類で行う。その他の構造物については強度が同じブロックを1構造	ト擁壁、内空断面積が25m2以上	設計基準強度		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
			д.		物の単位とし、各単位につき3ヶ所 の調査を実施。また、調査の結 果、平均値が設計基準強度を下 回った場合と、1回の試験結果が	橋梁上・下部工及び高さが3m以上の堰・水門・樋門を対象。(ただしいづれの工種についてもプレキャスト製品およびプレストレスト			確認箇所							
					設計基準強度の85%以下となった場合は、その箇所の周辺において、再調査を5ヶ所実施。 材齢28日~91日の間に試験を行う。	の強度が得られない場合、もしく は1ヶ所の強度が設計強度の 85%を下回った場合は、コアによ			コメント							
						る強度試験を行う。 工期等により、基準期間内に調査を行えない場合は監督職員と 協議するものとする。										

品質証明チェックシート(品質) (期間: 年 月 日<u>~</u> 年 月 <u>日</u>)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試験基準	隼∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
1 セメン ト・コンク リート(転 圧コンク	施工後試験	その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	所定の強度を得られない箇所付近 において、原位置のコアを採取。	コア採取位置、供試体の抜き取り 寸法等の決定に際しては、設置 された鉄筋を損傷させないよう十 分な検討を行う。 圧縮強度試験の平均強度が所	設計基準強度		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
ト・コン・・コン・・・コン・・・コン・・・・コン・・・・・・・・・・・・・・・	験					定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、監督職員と協議するものとする。			確認箇所							
けコンク リートを 除く)			Table to the						コメント							
			ぶり	「非破壊試験によるコンパート構造物中の配筋状態及 びかぶり測定要領	同左	同左 	同左		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
				<del>(案)</del> 」による					確認箇所							
									コメント							
				「微破壊・非破壊 試験によるコンクリート 構造物の強度測		同左	同左		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
				定要領 <del>(案)</del> 」によ る					確認箇所							
									コメント							

(期間: 年月日~年月日)

工種		試験 区分	試験項目		試験基準	隼∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
2 プ	材料	必須	JISマーク確認 又は「その他」の試 験項目の確認	目視 (写真撮影)					日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
フレキャス			SV-SK CI VV NEE BLU						確認箇所							
トコンクリ									コメント							
İ	施 工	須 (	製品の外観検査 (角欠け・ひび割れ 調査)	目視 (写真撮影)	全数		有害な角欠け・ひび割れの無いこと		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
製品 (JI			<u>H.</u> /						確認箇所							
S I 類									コメント							
3 プ	材料	須 (	(寸法・形状・外	JIS A 5363 JIS A 5371 JIS A 5372	製造工場の検査ロット毎		設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
フレキャス			※協議をした項目					0	確認箇所							
ハトコンク									コメント							
IJ I k		7	JISマーク確認 又は「その他」の試 験項目の確認	目視 (写真撮影)			設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
製品(J		a						0	確認箇所							
I S II 類									コメント							
	施 工	須 (	製品の外観検査 (角欠け・ひび割れ 調査)	目視 (写真撮影)	全数		有害な角欠け・ひび割れの無いこと		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
		a a	יעב. /					0	確認箇所							
									コメント							

(期間: 年月日~年月日)

工種	種別	式験 区分 試験項目	•試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
4 プ	材料	必 セメントのアルカ リシリカ反応抑制 対策	抑制対策について (平成14年7月	1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。	「アルカリ骨材反応抑制対策に ついて」 (平成14年7月31日付け国官		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
<b>ンレキャス</b>			31日付け国官技 第112号、国港 環第35号、国空 建第78号)		技第112号、国港環第35号、 国空建第78号)」	0	確認箇所							
トコンク:							コメント							
リート		コンクリートの塩化物総量規制	コンクリートの 耐久性向上」	1回/月以上 (塩化物量の多い砂の場合1回以 上/週)	原則0.3kg/m3以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
製品(そ						0	確認箇所							
他)							コメント							
		コンクリートのスラ ンプ試験/スランプ フロー試験	JIS A 1101 JIS A 1150	1回/日以上	製造工場の管理基準		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
		) — BA9A				0	確認箇所							
							コメント							
		コンクリートの圧縮 強度試験	JIS A 1108	1回/日以上	1回の試験結果は指定した呼び 強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
					定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	0	確認箇所							
							コメント							
		コンクリートの空気 量測定 (凍害を受ける恐	JIS A 1118	1回/日以上	JIS A 5364 4.5±1.5%(許容差)		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		れのあるコンクリート製品)	-			0	確認箇所							
							コメント							

(期間: 年月日~年月日)

工種	種別	試験 区分	試験項目	·試験方法	試験基準	隼∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
4 プ	料	の他	骨材のふるい分け 試験(粒度・粗粒 率)	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	1回/月以上および産地が変わった場合。		JIS A 5364 JIS A 5308		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
レキャス		U I S						0	確認箇所							
トコンク		マーク表							コメント							
リート製		示	骨材の密度及び吸 水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4	1回/月以上および産地が変わった場合。	JIS A 5005(砕砂及び砕石) JIS A 5011-1(高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2(フェロニッケルスラグ細 骨材)			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
品 へ そ		レディ		JIS A 5021		JIS A 5011-3(銅スラグ細骨材) JIS A 5011-4(電気炉酸化スラグ 細骨材) JIS A 5021(コンクリート用再生骨材		0	確認箇所							
の他)		ミクスト				H)			コメント							
		ンク	粗骨材のすりへり 試験	JIS A 1121 JIS A 5005	1回/年以上および産地が変わった場合。		JIS A 5364 JIS A 5308		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
		リートを						0	確認箇所							
		使用する							コメント							
		台は	骨材の微粒分量試 験	JIS A 1103 JIS A 5005	1回/月以上および産地が変わった場合。 (微粒分量の多い砂1回/週以		粗骨材:1.0%以下 細骨材:コンクリートの表面が すりへり作用を受ける場合		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		除く)			<b>E</b> )		3.0%以下、その他の場合5.0% 以下 (砕砂およびスラグ細骨材を用 いた場合はコンクリートの表面	0	確認箇所							
							がすりへり作用を受ける合 5.0%以下その他の場合7.0% 以下)		コメント							
		ļ	砂の有機不純物試 験	JIS A 1105	1回/年以上および産地が変わった場合	濃い場合は、JIS A 1142「有機 不純物を含む細骨材のモルタル圧 縮強度による試験方法」による。			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							

(期間: 年月日~年月日)

工種	種別 試験 区分	) 四級級口	•試験方法	試験基	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
4 プ	材での他	の試験	JIS A 1137	1回/月以上及び産地が変わった場合。		細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
フレキャス	) ! s マ						0	確認箇所							
トコンク	ク表示され							コメント							
IJ	れたレデ	航酸 よる骨材の安定性		砂、砂利: 製作開始前、1回/6ヶ月以上及 び産地が変わった場合。		細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
ト製品(そ	,ィミクスト			砕砂、砕石: 製作開始前、1回/年以上及び 産地が変わった場合。			0	確認箇所							
の他)	コンクリー					(18)		コメント							
	トを使用	セメントの物理試験	JIS R 5201	1回/月以上		JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント)		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	<u> </u>  -
	用する場合は					JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメ ント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
	除 〈 ·							コメント							
		セメントの化学分 析	JIS R 5202	1回/月以上		JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント)		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
						JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメ ント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
								コメント							
		コンクリート用混 和材 ・化学混和剤	JIS A 6201 JIS A 6202 JIS A 6204	1回/月以上 ただし、JIS A 6202(膨張材) は1回/3ヶ月以上、JIS A 6204	試験成績表による。	JIS A 6201(フライアッシュ) JIS A 5202(膨張材) JIS A 6204(化学混和剤)		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
			JIS A 6205 JIS A 6206 JIS A 6207	(化学混和剤)は1回/6ヶ月以上		JIS A 5205(防せい剤) JIS A 5206(高炉スラグ微粉末) JIS A 6207(シリカフューム)	0	確認箇所							
								コメント							
		練混ぜ水の水質試 験	上水道水及び上 水 道水以外の水の	1回/年以上及び水質が変わった 場合。	上水道を使用してる場合は試験 に換え、上水道を使用してること を示す資料による確認を行う。	懸濁物質の量:2g/L以下   溶解性蒸発残留物の量:1g/L   以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	_
			場合: JIS A 5308付属書 C			塩化物イオン量:200ppm以下セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、終結は60分以内モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で90%以上	0	確認箇所							
						X U 20 H C 30 70 M L		コメント							

品質証明チェックシート(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日)	
(H) C (H) C ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	( ) ( ) ( )		,,	_		,,		

工事名:	対象箇所:	•	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目・記		試験基準	隼∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
4 プレキャー	材料	必須	JI JI JI JI JI	IS G 3101 IS G 3109 IS G 3112 IS G 3117 IS G 3137 IS G 3506 IS G 3521	1回/月又は入荷の都度		JIS G 3101 JIS G 3109 JIS G 3112 JIS G 3117 JIS G 3506 JIS G 3506 JIS G 3521	0	田付・チェック確認箇所	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
ストコンクリ			JI JI JI JI.	IS G 3532 IS G 3536 IS G 3538 IS G 3551 IS G 4322 IS G 5502			JIS G 3532 JIS G 3536 JIS G 3538 JIS G 3551 JIS G 4322 JIS G 5502		コメント							
- ト製	施工	須	製品の外観検査 目 (角欠け・ひび割れ (写調査)	目視検査 写真撮影)	全数		有害な角欠け・ひび割れの無い こと		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
品(その									確認箇所							
他									コメント							

|--|

工種	種別	試験 区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
5 ガス 圧接	施工前	必須	外観検査 ・目視 圧接面の研磨状況 垂れ下がり	鉄筋メーカー、圧接作業班、鉄筋  ・モデル供試体の作成は、実際 径毎に自動ガス圧接の場合は各2 の作業と同一条件・同一材料で 本、手動ガス圧接の場合は各3本   行う。直径19mm未満の鉄筋に	①軸心の偏心が鉄筋径(径の異		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
	試験		焼き割れ 等 ・ノギス等による計測 (詳細外観検査)	のモデル供試体を作成し実施する。 ついて手動ガス圧接、熱間押抜 ガス圧接を行う場合、監督職員 と協議の上、施工前試験を省略 することができる。	1/5以下。 ②ふくらみは鉄筋径(径の異なる 場合は細いほうの鉄筋)の1.4倍 以上。ただし、SD490の場合は1.5		確認箇所							
			軸心の偏心 ふくらみ ふくらみの長さ 圧接部のずれ 折れ曲がり <sup>〜</sup>	る場合 ・手動ガス圧接及び熱間押抜ガ	筋)の1.1倍以上。ただし、SD490 の場合は1.2倍以上。		コメント							
			₹	う。 ・特に確認する必要がある場合とは、施工実績の少ない材料を使用する場合、過酷な気象条件・高所などの作業環境下での施工条件、圧接技量資格者の熟練度などの確認が必要な場合などである。	れが鉄筋径(径が異なる場合は、細い方の鉄筋の)(4以下 ⑤折れ曲がりの角度が2°以下 ⑥折なくらみの差が鉄筋径(径 が異なる場合は、細い方の鉄 筋)の1/5以下。 ⑦垂れ下がり、へこみ、焼き割れが著しくない。 ⑧その他有害と認められる欠陥									
				合手動ガス圧接、自動ガス圧 接 熱間押抜法のいずれにおい	熱間押抜法の場合 ①ふくらみを押抜いた後の圧接 面に対応する位置の割れ、へこ		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
				でも、施工前試験を行わなけれ ばならない。	みがない ②ふくらみの長さが鉄筋径の1.1 倍以上。ただし、SD490の場合は 1.2倍以上		確認箇所							
					③鉄筋表面にオーバーヒートによる表面不整があってはならない。 ④その他有害と認められる欠陥があってはならない。		コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工租	種別	試験 区分	試験項目	目·試験方法	試験基準	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
5 ガン 圧接	施工後試験	必須	外観検査	・目復接 正接 がり 焼き かい は かい り 焼き かいり 焼き 割れ を ・・ノギス 等による計 測 (詳細かれの 最小 かいらみ かいらみ かいらみ かいらみ かい また (詳細 中心 がいり 等	- 目視は全数実施する。 - 特に必要と認められたものに対してのみ詳細外観検査を行う。	よる。いずれの場合も監督職員 の承諾を得るものとし、処置後 は外観検査及び超音波探傷検 査を行う。。 ・①は、圧接部を切り取って再圧 接する。 ・(2)③は、再加熱し、圧力を加え	③ふくらみの長さが鉄筋径(径 が異なる場合は、細い方の鉄 筋)の1.1倍以上。ただし、両方又 はいずれか一方の鉄筋がSD490		日付・チェック 確認箇所 コメント	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ [	/ 0	
						下による。いずれの場合も監督 職員の承諾を得る。 ・①②③は、再加熱、再加圧、	熱間押抜法の場合 ①ふくらみを押抜いた後の圧接 面に対応する位置の割れ、へこ みがない ②ふくらみの長さが鉄筋径の1.1 倍以上。ただし、SD490の場合は 1.2倍以上 ③鉄筋表面にオーバーヒートによ る表面不整があってはならない。 ④その他有害と認められる欠陥 があってはならない。		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
			超音波探傷検査	JIS Z 3062	超音波探傷検査は技取検査を原則とする。 挑取検査の場合は、各ロットの 30ヶ所とし、「ロットの大きさは 200ヶ所程度を標準とする。ただし、1作業班が1日に施工した箇所 を1ロットとし、自動と手動は別ロットとする。	よる。 ・不合格ロットの全数について起音波深傷検査を実施し、その結果不合格となった箇所は、監督職員の承認を得て、圧接部を切	・各検査ロットごとに30ヶ所のランダムサンプリングを行い、超音波探傷検査を行った結果、不合格箇所数が1ヶ所以下の時はロットを合格とし、2ヶ所以上のときはロットを不合格とする。 ただし、合否判定レベルは基準レベルより・24db感度を高めたレベルとする。		日付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

C種 種	別区分	試験項目	・試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
既製 村 工 料	! ↓ 須	外観検査(鋼管 杭・コンクリート 杭・H鋼杭)	目視	設計図書による。	目視により使用上有害な欠陥 (鋼管杭は変形など、コンクリート杭はしび割れや損傷など)が		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					ないこと。	0	確認箇所							
							コメント							
		外観検査(鋼管 杭)	JIS A 5525	を2mm×π以下とする。	外径700mm未満: 許容値2mm以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
				<ul> <li>・外径700m以上1016m以下:し、 ぐし、と下ぐし、の外角長の差で表し、その差を3mm× π以下とする。</li> <li>・外径1016mmを超え2000mm以</li> </ul>	<ul> <li>外径700mm以上1016mm以下: 許容値3nm以下 外径1016nmを超え2000mm以下: 許容値4mm以下</li> </ul>		確認箇所							
				下: Lぐいと下でいの外周長の3 下: 上ぐいと下でいの外周長の3 で表し、その差を4mm×π以下と する。			コメント							
		鋼管杭・コンク リート杭・H鋼杭の 現場溶接	JIS Z 2343- 1,2,3,4,5,6	原則として全溶接箇所で行う。 ただし、施工方法や施工順序等 から全数量の実施が困難な場合	割れ及び有害な欠陥がないこと。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
		浸透深傷試験(溶 剤除去性染色浸 透探傷試験)		は監督員との協議により、現場状 況に応じた数量とすることができ る。なお、全溶接箇所の10%以 上は、JIS Z 2343-1,2,3,4,5,6によ			確認箇所							
				り定められた認定技術者が行うも のとする。 試験箇所は杭の全周とする			コメント							
		鋼管杭・H鋼杭の 現場溶接 放射線透過試験	JIS Z 3104	原則として溶接20ヶ所毎に1ヶ所 とするが、施工方法や施工順序 等から実施が困難な場合は現場	JIS Z 3104の1類から3類である こと		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		<b>加</b> 久列		等から失能が必要な場合は扱場 状況に応じた数量とする。なお、 対象箇所では鋼管杭を4方向か ら透過し、その撮影長は30cm/1 方向とする。			確認箇所							
				(20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を 20ヶ所施工した毎にその20ヶ所 から任意の1ヶ所を試験すること である。)			コメント							
	その	接	JIS Z 3060	原則として溶接20ヶ所毎に1ヶ所 中堀工法等で、放射線透過試場 とするが、施工方法や施工順序 が不可能な場合は、放射線透過	であること		日付・チェック	/ []	/ 0	/ []	/ 0	/ []	/ 0	
	他	超音波探傷試験		等から実施が困難な場合は現場 状況に応じた数量とする。なお、 対象箇所では鋼管杭を4方向か ら深傷し、その深傷長は30cm/1 方向とする。	=		確認箇所							
				(20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を 20ヶ所施工した毎にその20ヶ所 から任意の1箇所を試験すること である。)	コメント									
											<u> </u>			

工事名: 対象箇所: 品質証明者	5:
------------------	----

工科	重 種別	試験区分		・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
6 既	製施工工		リート杭 (根固め)	水セメント比の推 定	試料の採取回数は一般に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本	設計図書による。 また、設計図書に記載されてい ない場合は60%~70%(中堀り杭		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
			水セメント比試験		とする。	工法)、60%(プレボーリング杭 工法及び鋼管ソイルセメント杭 工法)とする。		確認箇所							
								コメント							
						50.51 CD 40 to 1. 7									
			鋼管杭・コンク リート杭 (根固め)	セメントミルク工法 に用いる根固め液 及びくい周固定液	供試体の採取回数は一般に単杭 参考値:20N/mm2 では30本に1回、継杭では20本に 1回とし、採取本数は1回につき3	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
			セメントミルクの	の圧縮強度試験 JIS A 1108	本とすることが多い。 なお、供試体はセメントミルクの 供試体の作成方法に従って作成 したのち×10emの円柱供試体に よって来めるものとする。			確認箇所							
					ようし水のも切とする。			コメント							

工事名: 対象箇所:

工種	種別	試験 区分	試験項目∙試験	験方法	試験基準	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
7 下層路盤	材料	必須		調査・試験法 [4]-68	<ul><li>・中規模以上の工事:施工前、材料変更時</li><li>・小規模以下の工事:施工前</li></ul>	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事を いい、舗装施工面積が10,000m2ある いは使用する基層及び表層用混合 物の総使用量が3,000t以上の場合	(クラッシャラン鉄鋼スラグは修		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理 に反映できる規模の工事をいい、同 一工種の施工が数日連続する場合 で以下のいずれかに該当するものを	用いる場合で、上層路盤、基層、表層の合計厚が以下に示す数値より小さい場合は30%以上とする。	0	確認箇所							
			骨材のふるい分 JIS A	Δ 1102	  -  ・中規模以上の工事:施工前、材	いつ。 ①施工面積で1,000m2以上10,000m2 未満 ②使用する基層及び表層用混合物	北/母追地力・・・・20cm		コメント							
			け試験		料変更時・小規模以下の工事:施工前	の総使用量が500t以上3,000t未満 (コンクリートでは400m3以上1,000m3 未満) ただし、以下に該当するものについ	表2参照		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						ても小規模工事として取り扱うものと する。 1)アスファルト舗装:同一配合の合 材が100t以上のもの		0	確認箇所							
									コメント							
			土の液性限界・塑 JIS A 性限界試験	A 1205	・中規模以上の工事:施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を 描いた上での管理が可能な工事を	塑性指数PI:6以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						いい、舗装施工面積が10,000m2ある いは使用する 基層および表層用混 合物の総使用量が3,000t以上の場 合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理			確認箇所							
						に反映できる規模の工事をいい、同 一工種の施工が数日連続する場合 で、以下のいずれかに該当するもの をいう。			コメント							
						()施工面積で1,000m2以上10,000m2 未満 (2)使用する基層および表層用混合 物の総使用量が500以上3,000は未満 (コンクリートでは400m3以上1,000m3 未満) ただし、以下に該当するものについ ても小規模工事として取り扱うものと	i	0								
						する。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材 が100t以上のもの										
			鉄鋼スラグの水浸 舗装 膨張性試験 便覧	調査・試験法 [4]-80	<ul><li>・中規模以上の工事:施工前、材料変更時</li><li>・小規模以下の工事:施工前</li></ul>	-CS: クラッシャラン鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を	1.5%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						描いた上での管理が可能な工事を いい、舗装施工面積が10,000m2ある いは使用する基層及び表層用混合 物の総使用量が3,000t以上の場合 が該当する。			確認箇所							
						・小規模工事は管理結果を施工管理 に反映できる規模の工事をいい、同 一工種の施工が数日連続する場合 で、以下のいずれかに該当するもの をいう。		0	コメント							
						(予施工面積で1,000m2以上10,000m2 未満 ②使用する基層及び表層用混合物 の総使用量が5000以上3,000t未満 (コンクリートでは400m3以上1,000m3 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものと する。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材 が100t以上のもの						,				

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別				規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
7 下層 路盤	材料	必須	道路用スラグの呈 JIS A 5015 色判定試験	・中規模以上の工事: 施工前、材 ・中規模以上の工事とは、管理図 料変更時 ・・小規模以下の工事: 施工前 い、舗装施工面積が10,000m28			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
				いは使用する 基層及び表層用混 物の終使用量が3,000に以上の場 が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工 に反映できる規模の工事をいい、	合 ? 理		確認箇所							
				ー 工種の施工が数日連続する場 で以下のいずれかに該当するもの いう。 ①施工面積で1,000m2以上10,000 未満	) (한	0	コメント							
				②使用する基層及び表層用混合 の終使用量が500に以上3,000に未 (コンクリートでは400m3以上1,000 未満) ただし、以下に該当するものにつ ても小規模工事として取り扱うもの する。 リアスファルト舗装:同一配合の名 が100t以上のもの										
		の	粗骨材のすりへり 試験	料変更時・中規模以上の工事とは、管理図	再生クラッシャランに用いるセメ シトコンクリート再生骨材は、す し減り量が50%以下とする。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
		他		- 小規模以下の工事:施工前 描いた上での管理が可能な工事 にい、舗装施工面積が10,000m2 いは使用する基層及び表層用混 物の総使用量が3,000t以上の場 が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管	7.63 合 合		確認箇所							
				に反映できる規模の工事をいい、 - 工種の施工が数日連続する場で、以下のいずれかに該当するも をいう。 ①施工面積で1,000m2以上10,000	司 合 の	0	コメント							
				未満 ②使用する基層及び表層用混合 の総使用量が500t以上3,000t未減 (コンクリートでは400m3以上1,000 未満) ただし、以下に該当するものにつ ても小規模工事として取り扱うもの する。 1)アスファルト競装:同一配合の名 が100t以上のもの	in3									

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別		試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認	チェック内容							備考
7 下層路	種別施工	現場密度の測定 舗装調査・試験法 便覧 [4]-256 砂置換法 (JIS A 1214) 砂置換法は、最大 粒径が53mm以下 の 場合のみ適用でき る	・締固め度は、個々の測定値が 最大乾燥密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値につい て以下を満足するものとする。 ・締固め度は、10孔の測定値の 平均値は70が規格値を満足する ものとする、また、10孔の測定値 が得がたい場合は3孔の測定値 が得がたい場合は3孔の測定値 の平均値は3が規格値を満足する ものとするが、23が規格値をはず れた場合は、さらに3孔のデータ を加えた平均値X6が規格値を満 足していればよい。・・・1工事あたり、0000㎡以下を1ロットと し、1ロットあたり10個(10孔)で測 定する。 (例) 3.001~10,000㎡、10孔優 10,001㎡以上の場合、10,000㎡ 毎に10孔優温加し、測定箇所が 均等になるように設定すること。 例えば12,000㎡の場合。6,000 ㎡/1ロット毎に10孔傷、合計20 孔傷 なお、1工事あたり3,000㎡以下 の場合(維持工事を除ぐ)は、1工 事あたり3個(3孔)以上で測定す る。	規格値 最大乾燥密度の93%以上 X10 95%以上 X3 97%以上 X3 97%以上 歩道箇所:設計図書による	表等による確認	田付・チェック 確認箇所	/ 0		チェック内容	/ 0			備考

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
•	-	_	•	

工種	種別	試験 区分	試験項目	·試験方法	試験基	準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
7 下層路盤	施工		プルーフローリン グ	舗装調査・試験法 便覧[4]-288	・全幅、全区間で実施する	・荷重車については、施工時に 用いた転圧機械と同等以上の締 固効果を持つローラやトラック等 を用いるものとする。			日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
									コメント							
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215	1,000m2につき2回の割で行う。	・セメントコンクリートの路盤に適 用する。			日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							
			骨材のふるい分 け試験	JIS A 1102	・中規模以上の工事:異常が認められたとき。	中規模以上の工事とは、管理図 を描いた上での管理が可能な工 事をいい、基層及び表層用混合			日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
						物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。			確認箇所							
									コメント							
			土の液性限界・塑 性限界試験	JIS A 1205	・中規模以上の工事:異常が認められたとき。	中規模以上の工事とは、管理図 を描いた上での管理が可能な工 事をいい、基層及び表層用混合	塑性指数PI:6以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
						物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。			確認箇所							
									コメント							
			含水比試験	JIS A 1203	・中規模以上の工事:異常が認められたとき。	・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能な 工事をいい、舗装施工面積が	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
						10,000m2あるいは使用する 基 層及び表層用混合物の総使用 量が3,000t以上の場合が該当す る。			確認箇所							
									コメント							

		•		
工事名:	対象箇所:		品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	1・試験方法	試験基準·摘要	7	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
8 上層 路盤	材料	必須		覧[4]-68	ル 担機 以下の マ本 サマサ たて事	描いた上での管理が可能	アスファルトコンクリート再		日付・チェック	/ 🗆	/ _	/	/	/ 0	/	
					が10.00 基層及 用量が 当する・・小規札	,000m2あるいは使用する 及び表層用混合物の総使 が3,000t以上の場合が該 る。 見模工事は管理結果を施	生育材含む場合90%以上 40℃で行った場合80%以上		確認箇所							
					事をい 数日連 いずれ う。	理に反映できる規模のエ いい、同一工種の施工が 連続する場合で、以下の れかに該当するものをい			コメント							
					10,000 ②使用 合物の 3,000년 400m3 ただし、 ついで 扱うむ	工面積で1,000m2以上 00m2未満 用する基層及び表層用混 の部使用量が500以上 い未減回ングリートでは 33以上1,000m3未満 1,以下に診せするものに ても小規模工事として取り 500とする。 スファルト舗装:同一配合材が100t以上のもの		0								
				覧[4]-68	11000	粒度調整鉄鋼スラグ及び :水硬性粒度調整鉄鋼ス :適用する。	修正CBR 80%以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
					・中規権 図を描 な工事 が100 基層及	見模以上の工事とは、管理 描いた上での管理が可能 事をいい、舗装施工面積 ,000m2あるいは使用する 及び表層用混合物の総使		0	確認箇所							
					当する ・小規札 工管理 事をい	が3,000t以上の場合が該る。 程模工事は管理結果を施理に反映できる規模のエ いい、同一工種の施工が連続する場合で、以下の			コメント							
					いずれ う。 ①施エ 10,000 ②使用 合物の 3,0005 40m3 ただし、 ついて 扱うもの	れかに該当するものをい 工面積で1,000m2以上 10m2未満 用する基層及び表層用混 の総使用量が500t以上 19末満(コンク)ートでは 33以上1,000m3未満) し、以下に該当するものに ても小規模工事として取り 5のとする。 こファルト舗装 同一配合の が100t以上のもの										

		•		
工事名:	対象箇所:		品質証明者	

工種	性加	試験 区分		•試験方法	試験基準	•摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認					チェック内容				備考
8 上層 路盤	材料	必須	骨材のふるい分 、 け試験	JIS A 1102	・中規模以上の工事:施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前	図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積	JIS A 5001 表2参照		日付・チェック	/ [	]	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
					7,000,000,100,000	が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該 当する。 ・小規模工事は管理結果を施		0	確認箇所								
						工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。			コメント								
						()施工面積で1,000m2以上 10,000m2未満 2使用する基層及び表層用混 合物の整使用量差が50では以上 3,000未満(コンクリートでは 400m3以上1,000m3未満) ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り 扱うものとする。 1)アスファルト舗装・同一配合 の合材が100t以上のもの					1						
			土の液性限界・塑 、 性限界試験	JIS A 1205	<ul><li>・中規模以上の工事:施工前、材料変更時</li></ul>	・ただし、鉄鋼スラグには適用 しない。	塑性指数PI:4以下		日付・チェック	/ [		/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積 が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該		0	確認箇所								
						当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下がいずれかに該当するものをい			コメント								
						う。 (3) 施工面積で1,000m2以上 10,000m2未満 10,000m2未満 (2) 使用する基層及び表層用混 6%的急使用量が500t以上 3,000t未満(コングリートでは 400m3以上 1,000m3未満) ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り 扱うものとする。 1)アスファルト舗装 同一配合 の合材が100t以上のもの											

丁重夕.	対象箇所:	品質証明者	
エザロ・	<b>对外回</b> 加。	<b>加良証</b> 切省	

工程	種別			目・試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
8 上原路盤	材料	必須	鉄鋼スラグの呈 色判定試験	舗装調査・試験法便	・中規模以上の工事:施工前、材 ・MS粒度調整鉄鋼スラグ及 料変更時 ・小規模以下の工事:施工前 のでは適用する。 ・中規模以上の工事とは「図を指いた上での管理が可な工事をいい、舗装施工面が10,000m2あるいは使用する。 ・現機では、一般では使用する場合が、10,00m2あるいは使用する場合が、10,00m2まるい、11,000m2までは、10,00m2は上で10,000m2以上で10,000m2以上で10,000m2以上で10,000m2以上で10,000m2以上で10,000m2以上で10,000m2以上で10,000m2以上で10,000m3未満 では、以下に該当するものをうる。 ・では、以下に該当するものとでは、以下に該当するものとでは、以下に該当するものとでは、10,000m2は、10,000m2には、10,000m3未満 ただに、以下に該当するものといても小規模でまとして1枚あるのとする。 ・リアスファルト舗装:同一配の合材が10のに以上のもの	ス 理能責る使該 適工がのハ 湿・ に以	0	日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
				舗装調査·試験法便 覧[4]-80		1.5%以下	0	田付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
								コメント							

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
------	-------	--	-------	--

工種	種別	試験 区分	試験項目	目・試験方法	試験基準·扌	簡要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
8上層路盤	材料	必須	鉄鋼スラグの一 軸圧縮試験	舗装調査・試験法便 覧[4]-75	・小規模以下の工事:施工前 E たたま	HMS:水硬性粒度調整スラグ ご適用する。 中規模以上の工事とは、管理 改工事をいい、舗装施工可格 が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000以上の場合が該 当する。	1.2Mpa以上(14日)	0	日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					コ 薄委 し 三〇 1 (3 名 3 4 方 1 形 1	工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が、取り工・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			コメント							
			鉄鋼スラグの単 位容積質量試験		・中規模以上の工事:施工前、材・料変更時	MS:粒度調整鉄鋼スラグ及び HMS:水硬性粒度調整鉄鋼ス	1.50kg/L以上		日付・チェック		/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
			区石铁县里的铁	토(J) 101	・小規模以下の工事: 施工前 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ラグに適用する。 中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 は工事をいい、舗装施工面積 が10.000m2あるいは使用する 基層および表層用混合物の総		0	確認箇所							
					(な) 最 ・ コ 神	東用量が3,000t以上の場合が 該当する。 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工程の施工が 数日連続する場合で、以下の			コメント							
					豆豆 1 億湯3 4 左三 數 1	いずれかに該当するものをいう。 う。 一節工面積で1,000m2以上 0,000m2未満 20使用する基層および表層用 混合物の総使用量が500以上 0,000未満(コンクリートでは 00m3以上1,000m3未満) ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り 扱うものとする。 ))アスファルト舗装:同一配合 の合材が100t以上のもの										

丁重夕.	対象箇所:	品質証明者	
エザロ・	<b>对外回</b> 加。	<b>加良証</b> 切省	

工種	種別	試験 区分		目・試験方法	試験基準	·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
8 上層 路盤	材料	その他	粗骨材のすりへり 試験	JIS A 1121	・中規模以上の工事:施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前	リート再生骨材を使用した再生 粒度調整に適用する。	50%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
		1E			7,36,22,1,0,2,4,1,6,2,1,9	・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積 が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該		0	確認箇所							
						当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下の			コメント							
						しずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上 10,000m2末満 10,000m2末満 2検用する基層及び表層用混合物の終使用量が500t以上 3,000は未満(コンクリートでは 4,00m3以上1,000m3未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り 扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの										
			硫酸ナトリウムに よる骨材の安定 性試験	JIS A 1122	・中規模以上の工事:施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積	20%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
			1主 3 年 3 年 3 年 3 年 3 年 3 年 3 年 3 年 3 年 3		「小が快以下の工事:旭工則	が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該 当する。 ・小規模工事は管理結果を施		0	確認箇所							
						工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。			コメント							
						①施工面積で1,000m2以上 10,000m2未満 2.健用する基層及び表層用混 合物の急使用量が500は以上 3,0001未満にユンリートでは 40m3以上1,000m3未満)。 ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り 扱うものとする。 リアスファルト舗装・同一配合 の合材が100t以上のもの										

品質証明チェックシート(品質) (期間: 年 月 日~ 年 月 <u>日</u>~ 日)

丁重夕.	対象箇所:	品質証明者	
エザロ・	<b>对外回</b> 加。	<b>加良証</b> 切省	

工種	種別	試験	試験項目·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績				チェック内容				備考		
8 上層		区分	現場密度の測定 舗装調査・試験法	・締固め度は、個々の測定値が	最大乾燥密度の93%以上	表等による確認		_	_		_	_	_	C. Bill		
路盤	Ĭ	9	便覧 [4]-256 砂置換法 (JIS A 1214) 砂置換法は、最大	最大乾燥密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0				
			粒径が53mm以下の 場合のみ適用でき る	が得がたい場合は3孔の測定値 の平均値X3が規格値を満足する ものとするが、X3が規格値をはず れた場合は、さらに3孔のデータ を加えた平均値X6が規格値を満 足していればよい。			コメント									
				・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。 (例)												
				3,001~10,000㎡・10孔 10,001㎡以上の場合、10,000㎡ 毎に10孔追加し、測定箇所が均 等になるように設定すること。 例えば12,000㎡の場合・16,000㎡ /1ロット毎に10孔、合計20個 なお、1工事あたり3,000㎡以下 の場合(維持工事を除く)は、1工 事あたり3孔以上で測定する。												
			粒度(2.36mmフル 舗装調査・試験法便 イ) = 16	・中規模以上の工事:定期的また は随時(1回~2回/日) ・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積	☑ 2.36mmふるい: ±15%以内		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆			
				はエキでいて、需要点に担何 が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総修 用量が3,000t以上の場合が該 当する。	5		確認箇所									
							コメント									

-= A	+1.4 m=r	D 55 = 7 pp +/	
↓ 工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	[四]		ョ・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
8 上層路盤	施工	必須	粒度(75μmフル イ)	舗装調査・試験法便 覧[2]-16	・中規模以上の工事: 定期的また は随時(1回~2回/日) 図を描いた上での管理が な工事をいい、舗装施工 が10,000m2あるいは使用 基層及び表層用混合物の 用量が3,000t以上の場合: 当する。	管理 75μmふるい: ±6%以内 可能 積 する 総使 が該		日付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
								コメント							
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215	1.000m2につき2回の割で行う。 セメントコンクリートの路に適用する。	盤		日付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
								コメント							
			土の液性限界・塑 性限界試験		観察により異常が認められたとき。	塑性指数PI:4以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			含水比試験	JIS A 1203	観察により異常が認められたとき。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							

品質証明チェックシート(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日)

工事名: 対象箇所: 品質証明者	対象箇所: 品質証明者
------------------	-------------

工種	種別	試験項目·試験方法 試験基準·摘要		規格値	試験成績 表等によ る確認	チェック内容									
9 アス ファル		スファルト舗装 準じる						日付・チェック	/	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
ファル ト安定 処理 路盤						確認包	確認箇所								
								コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分		・試験方法		<b>倹基準・摘要</b>	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
10 セメ ント 安 定 処理 路盤	材料	必須	一軸圧縮試験	便覧[4]-102	- 中規模以上の工事:施工 前: 材料変更時 - 小規模以下の工事:施工 前	・中規模以上の工事とは、管理図を描い た上での管理が可能な工事をいい、舗	0.98Mpa 上層路盤:一軸圧縮強さ[7 日間] 2.9Mpa(アスファルト舗装)、 2.0Mpa(セメントコンクリート		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
						のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上10,000m2未 満 ②使用する基層及び表層用混合物の総 使用量が500以上3,000未満0・コンク リートでは400m3以上1,000m3未満0・ ただし、以下に該当するものについても 小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が 100t以上のもの			コメント							
						・アスファルト舗装に適用する。	下層路盤:10%以上		D4 7 16		<i>,</i> ,	/ 0	/ 0	, <sub>E</sub>		
			試験	便覧[4]-63	前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工 前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量	上層路盤:20%以上		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ [	/ 🗆	
						が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に 反映できる規模の工事をいい、同一工 種の施工が数日連続する場合で、以下	にて下来未総総もも		確認箇所							
						のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上10,000m2未 満 ②使用する基層及び表層用混合物の総 使用量が500t以上3,000t未満(コンク		0	コメント							
						リートでは400m3以上1,000m3未満)。 ただし、以下に該当するものについても 小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が 100t以上のもの										
			土の液性限界・塑 性限界試験	舗装調査·試験法	前 材料変更時	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m2あるいは使用す	塑性指数PI:9以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					前	表施上面根が10,000 においませた。 る基層及び表層用混合物の総使用量 が3,000以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に 反映できる規模の工事をいい、同一工 種の施工が数日連続する場合で、以下 のいまたいませませませた。	塑性指数PI:9以下		確認箇所							
						のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上10000m2未 満 ②使用する基層及び表層用混合物の総 使用量が500t以上3,000t未満(コンク リートでは400m3以上1,000m3未満)。	:		コメント							
						ツートでは400m3x上1000m3x未満)。 ただし、以下に該当するものについても 小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が 100t以上のもの										

丁車名・	<b>対象笛</b> 正	品質証明者	
工事名:	対象固∭:	HI SCILL 77 LI	

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試	<b>験基準・摘要</b>	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
10 セメ ント安	施 工		粒度(2.36mmフル イ)	JIS A 1102	・中規模以上の工事:定期 的又は随時(1回~2回/ 日)	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工商籍が10,000m2を入りは使用す	2.36mmふるい: ±15%以内		日付・チェック	/ [	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
定処理 路盤					Ħ)	装施工面積が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。			確認箇所							
		_							コメント							
			粒度 (75 μ mフル イ)	JIS A 1102		・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m2あるいは使用す	75μmふるい: ±6%以内		日付・チェック	/ [	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						る基層及び表層用混合物の総使用量 が3,000t以上の場合が該当する。			確認箇所							
		_							コメント							
			現場密度の測定	便覧 [4]-256	・締固め度は、個々の測 定値が最大乾燥密度の 93%以上を満足するもの		最大乾燥密度の93%以上。 X10 95%以上 X6 95.5%以上		日付・チェック	/ [	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
			( 石 オ	砂置換法 (JIS A 1214) 砂置換法は、最大 粒径が53mm以下	とし、かつ平均値について 以下を満足するものとす る。 ・締固め度は、10孔の測 ・定値の平均値X10が規格 ・値を満足するものとする。 また、10孔の測定値が得 がたい場合は33元の測定 値の平均値X3が規格値を 満足するものとするが、X3	いてきず	X3 96.5%以上 歩道箇所:設計図書による		確認箇所							
									コメント							
					満足するものとするが、23 が規格値をはずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値が規格値をはがれた場合は、さらに3孔のが規格が高温をいる。11工事あたり3,000㎡を10,000㎡以下を10,01で10,000㎡は10,000㎡は10,000㎡は10,000㎡は10,000㎡は10,000㎡は10,000㎡は10,000㎡は10,000㎡は10,000㎡は10,000㎡は10,000㎡以上の10,000㎡以上の場合に10,000㎡以上の場合に10,000㎡以上の場合に10,000㎡以下の場上で10円、合計20孔は11工事あたり3,000㎡以下の場上工事あたり3,000㎡以下の場上工事あたり3,000㎡以下の場上工事あたり3,000㎡以下の場上工事あたり3,000㎡以下の場上工事あたり3,000㎡以下の場上工事あたり3,000㎡以下の場上工事あたり3,000㎡以下の場上で測定は11工事もたり3											

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

	重 種別	試験区分	験 試験項目·試験方法		試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認	チェック内容						備考	
10 セ ント学 定処 路盤	メール	その他	含水比試験	JIS A 1203	観察により異常が認められたとき。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
路盤	路盤							確認箇所							
								コメント							
				舗装調査・試験法 便覧[4]-293,[4]- 297	査・試験法 ・中規模以上の工事: 異常 ・中規模以上の工事とは、管理図を - 283.[4] - が認められたとき(1~2 描いた上での管理が可能な工事を 回/日) しい、舗装施工面積が10,000m2あ	理図を ±1.2%以内 工事を   Dm2あ		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
				237	るいは使用する基層及び表 合物の総使用量が3,000t以 合が該当する。	層用混 上の場		確認箇所							
								コメント							

丁事名:	対象箇所:	品質証明者	
Z74.	77. 多国77.	m 矣 皿 勿	

工種	種別	試験 区分	分 战员及日 战员为14			規格値	試験成績 表等によ る確認		チェック内容						備考	
11 アス ファルト 舗装		必須	骨材のふるい分 け試験	JIS A 1102	・中規模以上の工事:施工 前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工	・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積	JIS A 5001 表2参照		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
硼衣					前	が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該 当する。 ・小規模工事は管理結果を施		0	確認箇所							
						工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上			コメント							
			骨材の密度及び 吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110		10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用混	表層·基層 表乾密度: 2.45g/cm3以上 吸水率: 3.0%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					合物の総使用量が500t以上 3,000t未満(コンクリートでは 400m3以上1,000m3未満)。 ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り		0	確認箇所								
						扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合 の合材が100t以上のもの			コメント							
			骨材中の粘土塊 量の試験	JIS A 113/			粘土、粘土塊量:0.25%以下	-	日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
									0	確認箇所						
									コメント							
			粗骨材の形状試 験	舗装調査·試験法 便覧[2]-51			細長、あるいは偏平な石片: 10%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							
			フィラーの粒度試験	JIS A 5008			便覧 表3.3.17による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							

丁事名:	対象箇所:	品質証明者	
Z74.	77. 多国77.	m 矣 皿 勿	

工種	種別	試験 区分	験 試験項目·試験方法 対				規格値	試験成績 表等によ る確認		チェック内容						
11 アス ファルト 舗装	材料	必須	フィラーの水分試 験	JIS A 5008	・中規模以上の工事:施工 前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工 前	図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積 が10,000m2あるいは使用する			日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
						基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該 当する。 ・小規模工事は管理結果を施			確認箇所							
						工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。		0	コメント							
						①施工面積で1,000m2以上 10,000m2以上 10,000m2未満 (2使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500k以上 3,000t未満(コンクリートでは 400m3以上1,000m3未満)。ただし、以下に該当するものについても、功規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの		0								
			フィラーの塑性指 数試験	JIS A 1205	・中規模以上の工事:施工 前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工	・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理	4以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/	/ 0	/ 0	/ 0	
		le.			前 ·	図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が1000m2あるいは使用する基層及び表層用混合物の診験 当する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 使	0	確認箇所							
									コメント							
			フィラーのフロー 試験	舗装調査・試験法 便覧[2]-83			R.	0	日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
						ついても小規模工事として取り 扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合 の合材が100t以上のもの			コメント							
			フィラーの水浸膨 張試験	舗装調査・試験法 便覧[2]-74			3%以下		日付・チェック	/ 0	/ []	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
									確認箇所							
								0	コメント							

丁事名:	対象箇所:	品質証明者	
Z74.	77. 多国77.	m 矣 皿 勿	

工種	種別	試験区分	試験項目	•試験方法	試験基	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
11 ア スファ ルト舗		その他	フィラーの剥離抵 抗性試験	舗装調査·試験法 便覧[2]-78	・中規模以上の工事:施工 前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工	・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理	1/4以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
装					前	図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m2あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該			確認箇所							
						当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをい		0	コメント							
						つ。 ()施工面積で1,000m2以上 10,000m2未満 2使用する基層及び表層用混合物の能使用量が5000以上 3,0004未満(コングリートでは 400m3以上1,000m3未満)。 ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り 扱うものとする。 1)アスファルト舗装、同一配合 の会社が1,000以上を中心の										
			製鋼スラグの水浸 膨張性試験	舗装調査·試験法 便覧[2]-94	・中規模以上の工事:施工 前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工	・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積	水浸膨張比: 2.0%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					前	が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該 当する。 ・小規模工事は管理結果を施		0	確認箇所							
						工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。			コメント							
			製鋼スラグの密度 及び吸水率試験	JIS A 1110		①施工面積で1,000m2以上 10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用混	SS 表乾密度:2.45g/cm3以上 吸水率:3.0%以下		日付・チェック	\ 	/	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
						合物の総使用量が500t以上 3,000t未満(コンクリートでは 400m3以上1,000m3未満)。 ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り 扱うものとする。		0	確認箇所							
						がプラット舗装:同一配合の合材が100t以上のもの			コメント							
			粗骨材のすりへり 試験	JIS A 1121			すり減り量 砕石:30%以下 CSS:50%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							SS:30%以下	0	確認箇所							
									コメント							

丁 車 点 .	対象策所・	口质红田子	
工事石:	刈多固州:	品負証明石	

								試験成績								
工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法		基準•摘要	規格値	表等による確認				チェック内容				備考
11 アス ファルト 舗装	材料	ò	硫酸ナトリウムに よる骨材の安定 性試験	JIS A 1122	・中規模以上の工事:施工 前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工	・中規模以上の工事とは、 管理図を描いた上での管理 が可能な工事をいい、舗装	損失量:12%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
nm 42X		眶	I L DANS		前	施工面積が10,000m2あるい は使用する 基層及び表層 用混合物の総使用量が 3,000t以上の場合が該当す		0	確認箇所							
						る。 ・小規模工事は管理結果を 施工管理に反映できる規模 の工事をいい、同一工種の 施工が数日連続する場合			コメント							
			針入度試験	JIS K 2207		で、以下のいずれかに該当 するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上	<ul><li>舗装用石油アスファルト:</li></ul>		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用 混合物の総使用量が500t 以上3,000t未満(コンクリート では400m3以上1,000m3未	・ポリマー改質アスファルト: 表3.3.3 ・セミブローンアスファルト:	0	確認箇所							
						満)。 ただし、以下に該当するもの についても小規模工事とし て取り扱うものとする。			コメント							
			軟化点試験	JIS K 2207		1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							- ポリマー改質アスファルト: 表3.3.3	0	確認箇所							
									コメント							
			伸度試験	JIS K 2207			舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	\	/ 0	/ 0	/ 🗆	
							- ポリマー改質アスファルト: 表3.3.3	0	確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験区分		<b>Ⅰ・</b> 試験方法	試験基	<b>基準・摘要</b>	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
11 アス ファルト 舗装		の	トルエン可溶分試 験	JIS K 2207	・中規模以上の工事:施工 前、材料変更時		舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト:		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
胡表		他			・小規模以下の工事:施工 前	施工面積が10,000m2あるい は使用する 基層及び表層 用混合物の総使用量が 3,000t以上の場合が該当す	表3.3.1 ・セミブローンアスファルト: 表3.3.4	0	確認箇所							
						る。 ・小規模工事は管理結果を 施工管理に反映できる規模 の工事をいい、同一工種の 施工が数日連続する場合			コメント							
			引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3		で、以下のいずれかに該当 するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上	<ul><li>舗装用石油アスファルト:</li></ul>		日付・チェック	/	\	\	\	\	/ 🗆	
				JIS K 2265-4		10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用 混合物の総使用量が500t 以上3,000t未満(コンクリート では400m3以上1,000m3未	・ポリマー改質アスファルト: 表3.3.3 ・セミブローンアスファルト:	0	確認箇所							
						満)。 ただし、以下に該当するもの についても小規模工事とし て取り扱うものとする			コメント							
			薄膜加熱試験	JIS K 2207		1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							・ボリマー改質アスファルト: 表3.3.3 ・セミブローンアスファルト: 表3.3.4	0	確認箇所							
									コメント							
			蒸発後の針入度 比試験	JIS K 2207			舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							320.0.1	0	確認箇所							
									コメント							
			密度試験	JIS K 2207			舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							************************************	0	確認箇所							
									コメント							

丁事名:	対象箇所:	品質証明者	
Z74.	77. 多国77.	m 矣 皿 勿	

工種	種別	試験区分	試験項目	•試験方法	試験基	·	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
11 アス ファル 舗装		その他		舗装調査・試験法 便覧[2]-212	・中規模以上の工事:施工 前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工 前	・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積 が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該	舗装施工便覧参照 ・セミブローンアスファルト: 表3.3.4		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
						当する。 ・小規模工事は管理結果を施 工管理に反映できる規模の工 事をいい、同一工種の施工が 数日連続する場合で、以下の いずれかに該当するものをい う。		0	コメント							
			60℃粘度試験	舗装調査·試験法 便覧[2]-224		①施工面積で1,000m2以上 10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用混	舗装施工便覧参照 ・セミブローンアスファルト:		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
						合物の総使用量が500t以上 3,000t未満(コンクリートでは 400m3以上1,000m3未満)。 ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り 扱うものとする。	表3.3.4	0	確認箇所							
						が300と9 る。 1)アスファルト舗装:同一配合 の合材が100t以上のもの			コメント							
			タフネス・テナシ ティ試験	舗装調査·試験法 便覧[2]-289			舗装施工便覧参照 ・ポリマー改質アスファルト: 表3.3.3		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							
11 アス ファル 舗装			粒度(2.36mmフルイ)	舗装調査·試験法 便覧[2]-16	・中規模以上の工事:定期 的または随時。 ・小規模以下の工事:異常	・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積	2.36mmふるい: ±12%以内 基準粒度		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
	+				が認められたとき。 印字記録の場合:全数また は抽出・ふるい分け試験 1 ~2回/日	が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該 当する。 ・小規模工事は管理結果を施			確認箇所							
						工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。			コメント							
						(予施工面積で1,000m2以上10,000m2以上10,000m2未満12,000m2未満12,000未満(コングリートでは400m3以上1,000m3未満)。ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100k以上のもの		0								

丁事名:	対象箇所:	品質証明者	
Z74.	77. 多国77.	m 矣 皿 勿	

工種	種別	試験区分	試験項目	·試験方法	試験基	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
11 アス ファル 舗装		必須	粒度(75μmフル イ)	舗装調査・試験法 便覧[2]-16	・中規模以上の工事:定期 的または随時。 ・小規模以下の工事:異常	・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積	75μmふるい:±5%以内基 準粒度		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
	1				が認められたとき。 印字記録の場合:全数また は抽出・ふるい分け試験 1 ~2回/日	が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該 当する。 ・小規模工事は管理結果を施		0	確認箇所							
						工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上			コメント							
			アスファルト量抽 出粒度分析試験	舗装調査·試験法 便覧[4]-238		10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上	アスファルト量: ±0.9%以内		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						る例の総使用量か300亿以上 3,000t未満(コンクリートでは 400m3以上1,000m3未満)。 ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り 扱うものとする。		0	確認箇所							
						1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの			コメント							
			温度測定(アス ファルト・骨材・混 合物)	温度計による	随時		配合設計で決定した混合温度。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							
		その他	水浸ホイールト ラッキング試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-65	設計図書による	アスファルト混合物の耐剥 離性の確認	設計図書による		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		10						0	確認箇所							
			<del></del>	<u> </u>	=0.=1 cm +1 = 1.7	777 11 19 10 11 17			コメント							
			ホイールトフッキ ング試験	舗装調査·試験法 便覧 [3]-44	政計凶者による	アスファルト混合物の耐流 動性の確認	設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

_		_	T		1		T		. 11							
工利	重種類	訓 試験	試験項目	·試験方法	試験基	準∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
11 ア ファル 舗装	ト ラ	須	ラベリング試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-18	設計図書による	アスファルト混合物の耐摩 耗性の確認	設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
HIT 4X	<b> </b>							0	確認箇所							
									コメント							
11 ア ファル 舗装	ト設	須	現場密度の測定	舗装調査·試験法 便覧[3]-218	・締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以上を満足するものとし、かつ平	でAs合材量(プラント出荷数			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
丽衣	場				均値について以下を満足するものとする。 ・締固め度は、10孔の測定値の平均値X10が規格値を	の密度管理、または転圧回	X3 96.5%以上 歩道箇所:設計図書による。		確認箇所							
					満足するものとする。また、 10孔の測定値が得がたい 場合は3孔の測定値の平均 値X3が規格値を満足するも のとするが、X3が規格値を				コメント							
					はずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値なんが規格値を満足していればよい。 ・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。 (例) 3,001~10,000㎡:10孔10,001㎡以上の場合、10,000㎡は10孔追加して設定すること。例えば12,000㎡の場合に設定すること。例えば12,000㎡の場合に300㎡/1ロット毎に10孔、なお、1工事あたり3,000㎡以下の場合(維持工事を除く)は、1工事あたり3,000㎡以下の場合を除く)は、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事あたり3,000㎡以下の場合を終くりは、1工事を終くしていればいる。											

- = 2	11 <del>21 / 21 / 21 / 21 / 21 / 21 / 21 / 2</del>	D 55-7-10 +v	
工事名:	対象箇所:	品質証明者	

	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認		チェック内容					備考	
11 アン ファル 舗装	おおいます。	必須	温度測定(初転圧前)	温度計による	随時 測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)。	110℃以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
am4X	場							確認箇所							
								コメント							
			外観検査(混合 物)	目視	随時			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			すべり抵抗試験	舗装調査·試験法 便覧[1]-101	舗設車線毎200m毎に1回	設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		他						確認箇所							
								コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別区	験 試験項目·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
12 転 圧コン クリート	材业料组	ションシステンシー Q VC試験	当初	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
79-1	J I S			修正VC値:50秒		確認箇所							
	ク表示:					コメント							
	さ れ た	マーシャル突き固 転圧コンクリート8 め試験 装技術指針(案) ※いずれか1方法		舗装施工便覧8-3-3よる。 目標値 締固め率:96%		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	レディミ	7.00		**************************************		確認箇所							
	クストコン					コメント							
	クリ	ランマー突き固め 転圧コンクリート 試験 装技術指針(案) ※いずれか2方法		舗装施工便覧8-3-3による。 目標値		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
	ートを使用	XV 7 100 231A		締固め率:97%		確認箇所							
	す 場 合 は					コメント							
	除 く )	含水比試験 JIS A 1203	当初 含水比は、品質管理試験としてコンシステンシー試験が やむを得ず行えない場合に	<b>K</b>		日付・チェック	\ 	/ 🗆	/ -	/ 0	/ 0	/ 🗆	
			適用する。なお測定方法は 試験の迅速性から直火法に よるのが望ましい。	=		確認箇所							
						コメント							
		コンクリートの曲 げ強度試験 JIS A 1106	2回/日(午前·午後)で、3 本1組/回。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
						確認箇所							
						コメント							

		i e		-
工事名:	対象箇所:		品質証明者	

工種	種別 試験	競 試験項目·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
12 転 圧コン クリート	材をの他	け試験	細骨材300m3、粗骨材 500m3ごとに1回、あるいは 1回/日。	舗装施工便覧 細骨材表3-3-20 粗骨材表3-3-22		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
	J I S マ				0	確認箇所							
	ー ク 表 示					コメント							
	された	骨材の単位容積 質量試験	細骨材300m3、粗骨材 500m3ごとに1回、あるいは 1回/日。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
	レディミ				0	確認箇所							
	クストコン					コメント							
	ンクリー	骨材の密度及び 吸水率試験 JIS A 1109 JIS A 1110	工事開始前、材料の変更時	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
	- トを 使 用				0	確認箇所							
	用す場合は					コメント							
	除 く )	粗骨材のすりへり 試験	工事開始前、材料の変更時 ホワイトベースに使用する 場合:40%以下	35%以下 積雪寒冷地25%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
					0	確認箇所							
						コメント							
		骨材の微粒分量 試 JIS A 5005 験 JIS A 5308	工事開始前、材料の変更時	粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒 形判定実績率が58%以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
		5.577.000		の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下	0	確認箇所							
				細骨材 砕砂、スラグ細骨材 5.0% 以下 それ以外(砂等) 3.0%以下 (ただし、砕砂で粘土、シル ト等を含まない場合は 5.0%以下)		コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種 種			•試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
	オーその他	砂の有機不純物 試験	JIS A 1105	工事開始前、材料の変更時   濃い場合は、JIS A 1142   「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上 の場合は使用できる。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
				験方法」による。		0	確認箇所							
	フ 長 示						コメント							
	า ≃ /	モルタルの圧縮強 度による砂の試験		試料となる砂の上部におけ る溶液の色が標準色液の色 より濃い場合。	圧縮強度の90%以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	ディミ ラス			0.7%		0	確認箇所							
							コメント							
	l •	骨材中の粘土塊 量の試験	JIS A 1137	工事開始前、材料の変更時 観察で問題なければ省略で きる。	: 細骨材: 1.0%以下 粗骨材: 0.25%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
1	易					0	確認箇所							
1	含は余くし						コメント							
		硫酸ナトリウムに よる骨材の安定 性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	工事開始前、材料の変更時 寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	5 細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		上的人				0	確認箇所							
							コメント							

丁事名:	対象箇所:	品質証明者	
Z74.	77. 多国77.	m 矣 皿 勿	

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試験基	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
12 転 圧コン クリート	材料	その他	セメントの物理試 験	JIS R 5201	工事開始前、工事中1回/月 以上		JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント)		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
)) I	( J I Ø Þ.	112					JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメ ント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
	ーク表示・								コメント							
	された		ポルトランドセメン トの化学分析	JIS R 5202	工事開始前、工事中1回/月 以上		JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント)		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	レディミ						JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメ ント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
	クストコン								コメント							
	クリ		練混ぜ水の水質 試験	道水以外の水の	/年以上および水質が変	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用している場合	溶解性蒸発残留物の量:1g/I以		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
	ートを使			場合:JIS A 5308 付属書 <del>3C</del>	わった場合。	用していることを示す資料に よる確認を行う。	塩化物イオン量: 200ppm以トセメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、終結は60分以内 中	0	確認箇所							
	用す場合は						及び28日で90%以上		コメント							
	除 く			回収水の場合: JIS A 5308附属書	工事開始前及び工事中1回  /年以上および水質が変  わった場合。	その原水は上水道水及び 上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発 は30分以内、終結は60分以内		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
	)				スラッジ水の濃度は1回/日	1C. 地 日 チ も U い と チ も 。	モルタルの圧縮強度比: 材齢7 及び28日で90%以上	0	確認箇所							
									コメント							
	製造	その	計量設備の計量 精度		工事開始前、工事中1回 /6ヶ月以上。	・レディーミクストコンクリート の場合、印字記録により確 認を行う。			日付・チェック	/ 🗆	\	\ \	/ 0	/ 0	/ 0	
	(プラン	他				862177.	混和材: ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は± 1%以内) 混和剤: ±3%以内	0	確認箇所							
	۲)								コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	験 試験項目	·試験方法	試験基	基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
12 転 圧コン クリート	造	そ ミキサの練混ぜ性 の 能試験 也	バッチミキサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	工事開始前及び工事中1回 /年以上。	】総使用量が50m3未満の場合は1回以上の試験。またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合: コンクリート内のモルタル 量の偏差率:0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量		日付・チェック 確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
	ラント・・・					の偏差率:5%以下 圧縮強度の偏差率:7.5% 以下 コンクリート内空気量の偏 差率:10%以下 コンシステンシー(スラン	0	コメント							
	JISマーク表					ブ)の偏差率:15%以下									
	示 さ れ		連続ミキサの場合: 土木学会規準	工事開始前及び工事中1回 /年以上。		コンクリート中のモルタル単位容積質量差:0.8%以下コンクリート中の単位粗骨材		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
	たレディ		JSCE-I 502-2013		ト工場の品質証明書等のみ とすることができる。	量の差:5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランブ差:3cm以下	0	確認箇所							
	ミクストー							コメント							
	コンク	細骨材の表面水 率試験	JIS A 1111	2回/日以上	レディーミクスコンクリート以 外の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
	リートを 体						0	確認箇所							
	使用す場合							コメント							
	ー は 除 く	粗骨材の表面水 率試験	JIS A 1125	1回/日以上	レディーミクスコンクリート以 外の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
							0	確認箇所							
								コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験区分	試験項目	・試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
12 転 圧コン クリー		必須	コンシステンシー VC試験		1日2回(午前・午後)以上、 その他コンシステンシーの 変動が認められる場合など に随時実施する。 ただし連搬車ごとに目視観	修正VC値の±10秒		日付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
					察を行う。			コメント							
12 転 圧コン クリー	施工、	必須	マーシャル突き固め試験	便覧[3]-344	1日2回(午前・午後)以上、 その他コンシステンシーの 変動が認められる場合など	目標値の±1.5%		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					に随時実施する。 ただし連搬車ごとに目視観 察を行う。			確認箇所							
								コメント							
			ランマー突き固め 試験		1日2回(午前・午後)以上、 その他コンシステンシーの 変動が認められる場合など	目標値の±1.5%		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
					東朝が配められる場合など に随時実施する。 ただし連搬車ごとに目視観 察を行う。			確認箇所							
								コメント							
			コンクリートの曲 げ強度試験		2回/日(午前·午後)で、3 本1組/回(材令28日)。	・試験回数が7回以上(1回は3 個以上の供試体の平均値)の 場合は、		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
						全部の試験値の平均値が所定 の合格判断強度を上まわるも のとする。 ・試験回数が7回未満となる場 合は、		確認箇所							
						①1回の試験結果は配合基準 強度の85%以上 ②3回の試験結果の平均値は 配合基準強度以上		コメント							

品質証明チェックシート(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日)	
U  泉 叫 ワ」/ エノノノ								

그 보다. 시장 의가	工事名: 対象箇所:	品質証明者
-------------	------------	-------

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
12 転 圧コン クリート	施工	必須	温度測定(コンクリート)	温度計による。	2回/日(午前・午後)以上			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							
			現場密度の測定	RI水分密度計	40mに1回(横断方向に3ヶ 所)	基準密度の95.5%以上。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			コアによる密度測定	舗装調査·試験法 便覧[3]-353	1,000m2に1個の割合でコ アーを採取して測定			日付・チェック	/	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/	
								確認箇所							
								コメント							

- 1		-		-
	工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目·討	式験方法	試験基	準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
13 グー スアス	材料	必須	骨材のふるい分 JIS け試験	S A 1102	・中規模以上の工事:施工 前、材料変更時	管理図を描いた上での管理	JIS A 5001 表2参照	G Margo	日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
ファルト 舗装					- 小規模以下の工事: 施工 前	が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m2あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。		0	確認箇所							
						・小規模工事は管理結果を 施工管理に反映できる規模 の工事をいい、同一工種の			コメント							
			骨材の密度及び Jis 吸水率試験 Jis	S A 1109 S A 1110		施工が数日連続する場合 で、以下のいずれかに該当 するものをいう。	表層·基層 表乾密度: 2.45g/cm3以上 吸水率: 3.0%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						7 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		0	確認箇所							
						では400m3以上1,000m3未 満)。 ただし、以下に該当するもの			コメント							
			骨材中の粘土塊 JIS 量の試験	S A 1137		についても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配	粘土、粘土塊量:0.25%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
						合の合材が100t以上のもの		0	確認箇所							
									コメント							
			粗骨材の形状試 舗 験 便	i装調査・試験法 ፻覧[2]−51			細長、あるいは偏平な石片: 10%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							
			フィラーの粒度試 JIS 験	S A 5008			便覧 表3.3.17による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							
			フィラーの水分試 JIS 験	S A 5008			1%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							

下南 <i>和</i>			
工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験区分	試験項目・	試験方法	試験基	<b>準・摘要</b>	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
13 グー スアス ファルト 舗装	材料	その他	粗骨材のすりへり J 試験	IS A 1121	・中規模以上の工事:施工 前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工 前	・中規模以上の工事とは、 管理図を描いた上での管理 が可能な工事をいい、舗装 施工面積が10,000m2あるい	30%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
						は使用する 基層及び表層 用混合物の総使用量が 3,000t以上の場合が該当す る。		0	確認箇所							
						・小規模工事は管理結果を 施工管理に反映できる規模 の工事をいい、同一工種の 施工が数日連続する場合			コメント							
			硫酸ナトリウムに J よる骨材の安定 性試験	IS A 1122		で、以下のいずれかに該当 するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上	損失量:12%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
						10,000m2未満 (②使用する基層及び表層用 混合物の総使用量が500t 以上3,000t未満(コンクリート では400m3以上1,000m3未		0	確認箇所							
						満。 ただし、以下に該当するもの についても小規模工事とし て取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配 合の合材が100t以上のもの			コメント							
			針入度試験 J	IS K 2207		・規格値は、石油アスファルト(針入度20~40)にトリニ ダットレイクアスファルトを混	15~30(1/10mm)		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
						合したものの性状値である。 ・中規模以上の工事とは、 管理図を描いた上での管理 が可能な工事をいい、舗装		0	確認箇所							
						施工面積が10,000m2あるい は使用する基層及び表層 用混合物の総使用量が 3,000t以上の場合が該当す る。			コメント							
			軟化点試験 J	IS K 2207		・小規模工事は管理結果を 施工管理に反映できる規模 の工事をいい、同一工種の	58∼68°C		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
						施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上10,000m2未満		0	確認箇所							
						②使用する基層及び表層用 混合物の総使用量が500t 以上3,000t未満(コンクリート では400m3以上1,000m3未			コメント							
			伸度試験 J	IS K 2207		満)。 ただし、以下に該当するもの についても小規模工事とし	10cm以上(25°C)		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
						て取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの		0	確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種 種別	試験区分	試験項目·試験方法	試験基	準•摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
13 グー 材 スアス 料	o		前、材料変更時	・規格値は、石油アスファルト(針入度20~40)にトリニ	86~91%		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
ファルト 舗装	他		前	ダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。 ・中規模以上の工事とは、 管理図を描いた上での管理 が可能な工事をいい、舗装 施工面積が10,000m2あるい		0	確認箇所							
				ルエ 国 根 が 10,000m2のるい は使用する 基層及び表層 用混合物の総使用量が 3,000t以上の場合が該当す る。 ・小規模工事は管理結果を	0.1000 N. I.		コメント							
		引火点試験 JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3		・小規模工事は管理結果を 施工管理に反映できる規模 の工事をいい、同一工種の	240℃以上		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		JIS K 2265-4		施工が数日連続する場合 で、以下のいずれかに該当 するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上 10,000m2未満		0	確認箇所							
				②使用する基層及び表層用 混合物の総使用量が500t 以上3,000t未満(コンクリート では400m3以上1,000m3未			コメント							
		蒸発質量変化率 試験		満)。 ただし、以下に該当するもの についても小規模工事とし	0.5%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
				て取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの		0	確認箇所							
							コメント							
		密度試験 JIS K 2207			1.07~1.13g/cm3		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						0	確認箇所							
							コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目·試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
13 グー スアス ファルト	プラン	必須	便覧[3]-402	配合毎に各1回。ただし、同 一配合の合材100t未満の 場合も実施する。	貫入量(40°C)目標値 表層:1~4mm 基層:1~6mm		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
ファルト 舗装	) <del> </del>				<u> </u>	0	確認箇所							
							コメント							
			リュエル流動性試 験240℃ (電覧[3]-407	配合毎に各1回。ただし、同 一配合の合材100t未満の 場合も実施する。	3~20秒(目標値)		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
						0	確認箇所							
							コメント							
			ング試験 便覧[3]-44	配合毎に各1回。ただし、同 一配合の合材100t未満の 場合も実施する。	300以上		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
						0	確認箇所							
							コメント							
			便覧[3]-79	配合毎に各1回。ただし、同 一配合の合材100t未満の 場合も実施する。	破断ひずみ(-10℃、 50mm/min)8.0×10-3以上		日付・チェック	/	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
				- W		0	確認箇所							
							コメント							

工事名:	対象箇所:	•	品質証明者	
— <del></del>	7134EI/II		m2 m2 m2	

I	種種類	試験区分	試験項目	•試験方法	試験基	準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
13 / スア ファ	スラ	須	粒度(2.36mmフル イ)	舗装調査·試験法 便覧[2]-16	・中規模以上の工事:定期 的又は随時。 ・小規模以下の工事:異常	・中規模以上の工事とは、 管理図を描いた上での管理 が可能な工事をいい、舗装	2.36mmふるい: ±12%以内 基準粒度		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
舗装	ルトント				・小が保険にいる事: 乗帯 が認められたとき。 印字記録の場合:全数また は抽出・ふるい分け試験 1 ~2回/日	施工面積が10,000m2あるい は使用する 基層及び表層 用混合物の総使用量が 3,000t以上の場合が該当す		0	確認箇所							
						る。 ・小規模工事は管理結果を 施工管理に反映できる規模 の工事をいい、同一工種の 施工が数日連続する場合			コメント							
			粒度(75 μ mフル イ)	舗装調査·試験法 便覧[2]-14		で、以下のいずれかに該当 するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上	75μmふるい: ±5%以内基 準粒度		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/	/ 🗆	
						10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用 混合物の総使用量が500t 以上3,000t未満(コンクリート では400m3以上1,000m3未		0	確認箇所							
				Abit To the Throat		満)。 ただし、以下に該当するもの についても小規模工事とし て取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配			コメント							
			アスファルト量抽 出粒度分析試験	舗装調査・試験法 便覧[4]-318		合の合材が100t以上のもの			日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
								0	確認箇所							
				Nac-11-1-1	The put				コメント							
			温度測定(アス ファルト・骨材・混 合物)	温度計による	随時		アスファルト: 220°C以下 石 粉: 常温~150°C		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							
13 / スア ファ	ス設	須	温度測定(初転圧 前)	温度計による	随時	測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)			日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
舗装									確認箇所							
									コメント							

下南 <i>和</i>			
工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	·試験方法	試験基準	҈∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
14 路 床安定 処理工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	当初及び土質の変化したとき。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
处理工									確認箇所							
									コメント							
			CBR試験	舗装調査・試験法 便覧[4]-227,[4]- 230	当初及び土質の変化したとき。		設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/	/ -	\	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
	施工		現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれ	最大粒径≦53mm: 砂置換法(JIS A 1214)	500m3につき1回の割合で 行う。ただし、1,500m3未満 の工事は1工事当たり3回以		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
			かを実施する。	最大粒径>53mm:	上。 1回の試験につき3孔で測定 し、3孔の最低値で判定を行				確認箇所							
				**					コメント							
				または、 RI計器を用いた感	盛土を管理する単位(以下「・管理単位」)に分割して管理 に	こ適用する。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
				土の締固め管理要領(案)	単位ごとに管理を行うものとする。 1日の1層あたりの施工面積 を基準とする。管理単位の	右記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下いても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の			確認箇所							
					面積は1,500m2を標準とし、 1日の施工面積が2,000m2 以上の場合、その施工面積 を2管理単位以上に分割す るものとする。1管理単位あ たりの測定点数の目安を以	ta.			コメント							
					下に示す。 -500m2未満:5点 -500m2以上1000m2未満: 10点 -1000m2以上2000m2未満:											

下南 <i>和</i>			
工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目・試験方	ī法	試験基	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
14路床安定	施工	必須	SSを用し	いた盛土	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して		施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
処理工	-		領」による	٥ :	管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体 路床とも1日の1層当たりの 施工面積は1,500m2を標準 とする。また、1日の施工量 面積が2,000m2以上の場		だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から 1m以内と締固め機械が近 寄れない構造物周辺は除 く。		確認箇所							
					画像か2,000m2以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3.1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を				コメント							
				;   	及か場合でも「世年中位を 検数層にまたがらせること はしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質 状況が変わる場合には、新 規の管理単位として取り扱 うものとする。											
			プルーフローリン 舗装調査 グ 便覧[4]-		で実施する。	時に用いた転圧機械と同等			日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						以上の締固効果を持つロー ラやトラック等を用いるもの とする。			確認箇所							
									コメント							
		その他	平板載荷試験 JIS A 12		延長40mにつき1ヶ所の割で 行う。	・セメントコンクリートの路盤 に適用する。			日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/	/ 0	\	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
			現場CBR試験 JIS A122		各車線ごとに延長40mにつき1回の割で行う。		設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							

品質証明チェックシート(品質)	/ 廿月 日月 。	<b>Æ</b>		П	<b>Æ</b>			
品貝証明アエックン―ト(品貝)	(期間:	平	月	□~	74	月	<b>ロ</b> )	

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種				試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認	<b>対横</b> こよ 記					備考		
14 路 床安定 処理工	施工	その他		500m3につき1回の割合で 行う。ただし、1,500m3未満 の工事は1工事当たり3回以 上。	設計図書による。		日付・チェック 確認箇所	/ 🗆	/ -	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							コメント							
			たわみ量 舗装調査・試験法 便覧[1]-284	ブルーフローリングでの不 良個所について実施	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
			(ヘンゲ ルマンピーム)				確認箇所							
							コメント							

品質証明チェックシート(品質) (期間: <u>年 月 日</u>~ 年 <u>月 日</u>)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目・	試験方法	試験基準	•摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
15 表層 安定処 理工	材料	その他	土の一軸圧縮試 J 験	IIS A 1216	当初及び土質の変化したとき。	配合を定めるための試験である。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
(表層 混合処 理)									確認箇所							
									コメント							
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれ	少置換法	500m3につき1回の割合で行う。 但し、1,500m3未満の工事は1工 事当たり3回以上。		設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
			かを実施する。 最高	最大粒径>53mm:	1回の試験につき3孔で測定し、3 孔の最低値で判定を行う。				確認箇所							
									コメント							
			R	RI計器を用いた盛	盛土を管理する単位(以下「管理 単位」)に分割して管理単位ごと に管理を行うものとする。	・最大粒径<100mmの場合 に適用する。 ・右記の規格値を満たしてい	てい ====================================	日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆		
			ñ		1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は 1,500m2を標準とし、1日の施工 面積が2,000m2以上の場合、そ の施工面積を2管理単位以上に	ても、規格値を著しく下回っ ている点が存在した場合 は、監督職員との協議の上 で、(再)転圧を行うものとす			確認箇所							
					分割するものとする。1管理単位 あたりの測定点数の目安を以下 に示す。			コメント								
					-500m2未満:5点 -500m2以上1000m2未満:10点 -1000m2以上2000m2未満:15点											
			L.		1. 盛土を管理する単位(以下 「管理単位」)に分割して管理単 位毎に管理を行う。		施工範囲を小分割した管理 ブロックの全てが規定回数 だけ締め固められたことを		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
				管理要領」による	2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m2を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m2以上の場合、その施工面積が2,000m2以上の場合、その施工面積を2管理単位以		だけ締め固められたことを 確認する。ただし、路肩から 1m以内と締固め機械が近 寄れない構造物周辺は除 く。	確認箇所								
					上に分割するものとする。 3.1日の施工が複数層に及ぶ 場合でも1管理単位を複数層に またがらせることはしないものと			コメント								
					する。 4. 土取り場の状況や土質状況 が変わる場合には、新規の管理 単位として取り扱うものとする。											

品質証明チェックシート(品質) (期間: <u>年 月 日</u>~ 年 <u>月 日</u>)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	·試験方法	試験基準	• 摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
15 表層 安定処 理工 (表層 混合処	施工	必須	プルーフローリン グ	舗装調査·試験法 便覧[4]-288	路床仕上げ後、全幅,全区間で実施する。	荷重車については、施工時 に用いた転圧機械と同等以 上の締固効果を持つローラ やトラック等を用いるものと する。			日付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
理)									雑誌画が							
		の	平板載荷試験	JIS A 1215	各車線ごとに延長40mにつき1回の割で行う。				日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
		他							確認箇所							
									コメント							
			現場CBR試験	JIS A 1222	各車線ごとに延長40mにつき1回の割で行う。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							
			含水比試験	JIS A 1203	500m3につき1回の割合で行う。 ただし、1,500m3未満の工事は1 工事当たり3回以上。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							
			たわみ量	舗装調査・試験法 便覧[2]-16 (ベンゲルマンビーム)	プルーフローリングでの不良箇所 について実施。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							

工事名: 対象箇所: 品質証明者

工利	種別		試験項目・試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
16 固 結工	材料	必須	土の一軸圧縮試   JIS A 1216 験	当初及び土質の変化したとき。 配合を定めるための試験である。 ボーリング等により供試体を指	なお、1回の試験とは3個の 供試体の試験値の平均値		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
				取する。	で表したもの		確認箇所							
							コメント							
			ゲルタイム試験	当初及び土質の変化したとき。 配合を定めるための試験である。			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
							確認箇所							
							コメント							
	施工		改良体全長の連 ボーリングコアの 競 目視確認	改良体の上端から下端までの全・ボーリング等により供試体を 長をボーリングにより採取し、 採取する。			日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
			性確認	全長において連続して改良され ・			確認箇所							
				現場の条件、規模等により上記 によりがたい場合は監督職員の 指示による。			コメント							
			土の一軸圧縮試 JIS A 1216 験 (改良体の強度)	改良体500本未満は3本、500本 ・改良体の強度確認には、改 以上は250本増えるごとに1本追 体全長の連続性を確認したポ 加する。試験は1本の改良体に リングコアを利用してもよい。			日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
			(以及仲仍强及)	プンプンプライン できない。 ついて、よ・中、下それを作り 回、計3回とする。ただし、1本の 改良体で設計強度を変えている 場合は、各設計強度毎に3回と する。	立。 ②1回の試験結果は改良地盤設計強度以上。 なお、1回の試験とは3個の 供試体の試験値の平均値 で表したもの		確認箇所							
				する。 現場の条件、規模等により上記 によりがたい場合は監督職員の 指示による。	CACILEO		コメント							

下南 <i>和</i>			
工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験区分	試験項目	・試験方法	試験基	準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
17 アン カーエ	施工	必須	モルタルの圧縮強 度試験	JIS A 1108	2回(午前·午後)/日		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							
			モルタルのフロー 値試験	JIS R 5201	練りまぜ開始前に試験は2 回行い、その平均値をフ ロー値とする。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
					III III III III III III III III III II				確認箇所							
									コメント							
			クル確認試験)	グラウンドアンカー 設計・施工基準、 同解説	・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重は計画最大荷重	度の確認後に実施するこ	設計アンカーカに対して十 分に安全であること。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
					・初期何里は計画最大何里 の約0.1倍とし、引き抜き試 験に準じた方法で載荷と除 荷を繰り返す。	ځ.			確認箇所							
									コメント							
				グラウンドアンカー 設計・施工基準、 同解説	・多サイクル確認試験に用いたアンカーを除くすべて。 ・初期荷重は計画最大荷重	度の確認後に実施するこ	設計アンカーカに対して十 分に安全であること。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
					の約0.1倍とし、計画最大荷 重まで載荷した後、初期荷 重まで除荷する1サイクル 方式とする。				確認箇所							
									コメント							
		そのい		グラウンドアンカー 設計・施工基準、 同解説		・定着時緊張力確認試験 ・残存引張力確認試験 ・リフトオフ試験等があり、多	所定の緊張力が導入されて いること。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
		他		回用#就 (JGS4101-2012)		・リントイン スス シス シス シス シス シス シス シス シス サイクル 確認試験、1サイクル 確認試験の試験結果をもとに、監督員と協議し行う必要性の有無を判断する。			確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
------	-------	--	-------	--

工種			試験項目·		試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
18 補強 土壁工	材料	必 須	上の締固め試験 J	IS A 1210	当初及び土質の変化時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							
		J	ト観検査(ストリッ ネプ、鋼製壁面材、 言コンクリート製壁 (1)	十・施工マニュアル	補強土壁工法各設計・施工 マニュアルによる。	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
		面	面材等)	-0.0				確認箇所							
								コメント							
		面	面材のコンクリー 言	甫強土壁工法各設 計・施エマニュアル こよる	補強土壁工法各設計・施工 マニュアルによる。	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
			JAZUNA	-0.0			0	確認箇所							
								コメント							
		の	吉	補強土壁工法各設 汁・施エマニュアル こよる	設計図書による。	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
		他	,	~6·0				確認箇所							
								コメント							

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
------	-------	--	-------	--

工種 種別	試験区分	試験項目	・試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
18 補強 施土壁工 工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれ かを実施する。	最大粒径>53mm:	500m3につき1回の割合で行・橋台背面アブローチ部に う。ただし、1,500m3未満の 工事は1工事当たり3回以 上。 1回の試験につき3孔で測定 (JIS A 1210) C・D・B	が 能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上 法) (締固め試験(JIS A 1210)		日付・チェック 確認箇所	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
			舗装調査·試験法 便覧[4]-256 突砂法	し、3孔の最低値で判定を行 う。 平均92%以上、かつ最小 以上 【ベンテグラルアバット構造 台背面】 平均97%以上、かつ最小	C・D・E法) の橋 ただし、JIS A 1210 C・D・E 法での管理は、標準の施工		コメント							
				以上	ギーの大きな転圧方法(例 えば、標準よりも転圧力の 大きな機械を使用する場合 や1層あたりの仕上り厚を薄 くする場合)に適用する。									
					または、設計図書による。									
					能な範囲の含水比におい て、1管理単位の現場乾燥		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
			要領(案)」	にと 根格値を著しく下回って に管理を行うものとする。 路体・路床とも、日の1層あたりの施工面積を基準とす を行うものとする。 る、管理単位の面積は ・橋合普面アプローチ部に	督 度密度の97%以上(締固め 圧 試験(JIS A 1210)A・B法)も しくは92%以上(締固め試験		確認箇所							
				1,500m2を標準とし、1日の 施工面積が2,000m2以上の 場合、その施工面積を2管 理単位以上に分割するもの D・E法)	ただし、JIS A 1210 C・D・E 法での管理は、標準の施工 仕様よりも締固めエネル ギーの大きな転圧方法(例		コメント							
				-500m2未満:5点 -500m2以上1000m2未満: 10点 -1000m2以上2000m2未満: 15点	や1層あたりの仕上り厚を薄 の橋 くする場合)に適用する。 または、設計図書による。									
			た盛土の締固め管	管理単位毎に管理を行う。	施工範囲を小分割した管理 ブロックの全てが規定回数 だけ締め固められたことを		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/	/	
			理要領」による	2. 管理単位は築堤。路体 路床とも1日の1層当たりの 施工面積は1,500m2を標準 とする。また、1日の施工面 揺が2,000m2以上の場合、	確認する。ただし、路肩から 1m以内と締固め機械が近 寄れない構造物周辺は除 く。		確認箇所							
				その施工面積を2管理単位 以上に分割するものとする。 3.1日の施工が複数層に 及ぶ場合でも1管理単位を			コメント							
				複数層にまたがらせることはよしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質 状況が変わる場合には、新 規の管理単位として取り扱う ものとする。										
				規の管理単位として取り扱う										

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試験基準・	·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
19 吹 付工	材料		アルカリシリカ反 応抑制対策	抑制対策について	骨材試験を行う場合は、工 事開始前、工事中1回/6ヶ 月以上及び産地が変わった		「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、国空建		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
				12号、国港環第3 5号、国空建第78 号)	<b>→</b> 99 □ 0		第78号)」	0	確認箇所							
									コメント							
			骨材のふるい分 け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4	工事開始前、工事中1回/月 以上および産地が変わった 場合。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		J I S		JIS A 5021				0	確認箇所							
		マーク表							コメント							
		され	骨材の密度及び 吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005	工事開始前、工事中1回/月 JIS 以上および産地が変わった 砕 場合。 JIS	:石及び砕砂) S A 5011-1(コンクリート	絶乾密度:2.5以上 細骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
		たレディ		JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	ス・ JIS 用	ラグ骨材) S A 5011-2(コンクリート スラグ骨材 - 第2部:フェ	粗骨材の吸水率:30%以下 「(砕砂・砕石・高炉スラケ骨 材、フェロニッカルスラケ細骨材、 鋼スラケ細骨材の規格値につ いては摘要を参照)	確認箇所								
		ミクストー			JJS 用 ラ:	ニッケルスラグ骨材) S A 5011-3(コンクリート  スラグ骨材ー第3部:銅ス グ骨材) S A 5011-4(コンクリート		コメント								
		コンクリート			炉 JIS	スラグ骨材 - 第4部: 電気  酸化スラグ骨材) S A 5021(コンクリート用再生  材H)										
		を使用	骨材の微粒分量 試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	工事開始前、工事中1回/月 以上および産地が変わった 場合。		粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒形 判定実績率が58%以上の場合		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		する場合			(山砂の場合は、工事中1回 /週以上)		は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下(ただし、すり	0	確認箇所							
		は除く)					<ul> <li>砕砂 9.0%以下(ただし、すり へり作用を受ける場合は5.0% 以下)</li> <li>スラグ細骨材 7.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下)</li> </ul>	コメント								
							それ以外(砂等) 5.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)									

丁事名:	対象箇所:	品質証明者	
Z74.	77. 多国77.	m 矣 皿 勿	

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試験基	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
19 吹 付工	材料		砂の有機不純物 試験	JIS A 1105		機不純物を含む細骨材のモ ルタル圧縮強度による試験方			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		J				法」による。		0	確認箇所							
		マー ク表							コメント							
		され	モルタルの圧縮強 度による砂の試験		試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色 より濃い場合。	,	圧縮強度の90%以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		たレディ						0	確認箇所							
		ミクストコ							コメント							
		ンク	骨材中の粘土塊 量の試験	JIS A 1137	工事開始前、工事中1回/月 以上および産地が変わった 場合。		細骨材: 1.0%以下 粗骨材: 0.25%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
		リートを体						0	確認箇所							
		使用する場							コメント							
		合は	硫酸ナトリウムに よる骨材の安定 性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び産地が変	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
		<b>く</b> (			わった場合。 砕砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/ 年以上及び産地が変わった 場合。			0	確認箇所							
									コメント							
			セメントの物理試 験	JIS R 5201	工事開始前、工事中1回/月以上		JIS R 5210(ポルトランドセメ ント) JIS R 5211(高炉セメント)		日付・チェック	/	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
							JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュ セメント) JIS R 5214 (エコセメント)	0	確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	重別	試験 区分	試験項目	・試験方法		準·摘要	規格値	試験成約 表等によ る確認	:			チェック内容				備考
	料	の 他	ルトランドセメン )化学分析	JIS R 5202	工事開始前、工事中1回/月 以上		JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント)		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		J I S					JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
		マー ク表							コメント							
		さ 就 れ		道水以外の水の 場合:	工事開始前及び工事中1回 /年以上および水質が変 わった場合。	試験に換え、上水道を使用 してることを示す資料による			日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
		た レ ディ		JIS A 5308付属書 C		確認を行う。	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始 発は30分以内、終結は60分		確認箇所							
		ミクスト					以内 モルタルの圧縮強度比:材 齢7及び28日で90%以上	0	コメント							
		コンクリー														
		ト を 使		回収水の場合: JIS A 5308附属書	   工事開始前及び工事中1回   /年以上および水質が変わった場合。	・その原水は上水道水及び 上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		用する場合			1/フルー物口。	に辿らするでいとする。	発は30分以内、終結は60分 以内 モルタルの圧縮強度比:材 齢7及び28日で90%以上	0	確認箇所							
		は 除 く )							コメント							
			骨材の表面水 試験	JIS A 1111	2回/日以上	レディーミクストコンクリート 以外の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
	(プラン								確認箇所							
	<u>۲</u>								コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験区分	試験項目	·試験方法	試験基	準•摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
19 吹 付工	製造	必須	粗骨材の表面水 率試験	JIS A 1125	1回/日以上	レディーミクストコンクリート 以外の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
	(プラン								確認箇所							
	C) (7								コメント							
	I S マ	その他	計量設備の計量 精度		工事開始前及び工事中1回 /6ヶ月以上。	<ul><li>・レディーミクストコンクリート の場合、印字記録により確認を行う。</li></ul>	水: ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨材 : ±3%以内		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
	一 ク表示さ	16				<ul><li>急結剤は適用外</li></ul>	混和材:±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合 は±1%以内) 混和剤:±3%以内	0	確認箇所							
	されたレデ								コメント							
	۲ <u>=</u>		ミキサの練混ぜ性 能試験	: バッチミキサの場合: JIS A 1119	工事開始前及び工事中1回 /年以上。	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m3未満の場合は1工種1回以上の試	公称容量の場合: コンクリート内のモルタル量の		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
	クストコ			JIS A 8603-1 JIS A 8603-2		験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明 書等のみとすることができる。	偏差率:0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の 偏差率:5%以下 圧縮強度の偏差率:7.5%以下		確認箇所							
	ンクリー					<ul><li>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁</li></ul>	コンクリート内空気量の偏差率:10%以下 コンシステンシー(スランプ)の 偏差率:15%以下		コメント							
	- を使用する場合は除く					工(高さ1m以上)、函渠工、 樋門、樋管、水門、水路(内 幅20m以上)、護岸、ダム及 び堰、トンネル、舗装、その 他これらに類する工種及び 特記仕様書で指定された工 種)		0								
	`)			連続ミキサの場	工事開始前及び工事中2回		コンクリート中のモルタル単位容積質量差:0.8%以下		日付・チェック	/ []	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
				合: 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	/年以上。		谷頂貝里左:0.0%以下 コンクリート中の単位粗骨材量 の差:5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランブ差:3cm以下	0	確認箇所	, ]	, <u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>	, ]	, u	, ]	, u	
									コメント							

丁事名:	対象箇所:	品質証明者	
Z74.	77. 多国77.	m 矣 皿 勿	

工種	種別	試験 区分	試験項目	·試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
19 吹 付工	施工	そのい	塩化物総量規制	「コンクリートの耐 久性向上」	コンクリートの打設が午前と・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	易		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		他			に行い、その試験結果が塩 またはレディーミクストコン化物総量の規制値の1/2以 リート工場の品質証明書下の場合は、午後の試験を のみとすることができる。省略することができる。(1試 工種当たりの総使用量が	・ク 等 I		確認箇所							
					験の測定回数は3回とする) 50m3以上の場合は、50m 試験の判定は3回の測定値 の平均値。 ・骨材に海砂を使用するか 合は、「海砂の塩化物イオ 含有率試験方法」(JSCE	易 :ン -		コメント							
					C502-2018,503-2018)ま は設計図書の規定により う。 ・用心鉄筋等を有さない乳 筋構造物の場合は省略で 2	行 ŧ									
					る。 ※小規模工種とは、以下 工種を除く工種とする。(付金・橋脚、杭頼(海所打材) 井筒基礎等)、橋梁上部 (析、床版・高欄等)、操型 工(高さ1m以上)、護岸、安ム び堰、トンネル、舗に、シネル、舗工種及 特配仕様書で指定された 種)	喬 (人 に 全 (大 及 の び び									
			スランプ試験 (モルタル除く)	JIS A 1101	・荷卸し時 ・小規模工種※で1工種当 1回/日以上、構造物の重の総使用量が50m3未満の			日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					要度と工事の規模に応じて 場合は1工程1回以上の記20~150m3ごとに1回、およ	→コ 許容差±2.5cm 目 :		確認箇所							
					は、50m3ごとに1回の試覧 を行う。 ※小規模工種については 塩化物総量規制の項目を 照			コメント							
			コンクリートの圧 縮強度試験	JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-2013	吹付1日につき1回行う。 ・小規模工種※で1工種当なお、テストピースは現場に の総使用量が50m3未満配置された型枠に工事で使 場合は1工種1回以上の記	D 28日で設計強度以上とす		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
				2010	用するのと同じコンクリート (モルタル)を吹付け、現場 で28日養生し、直径50mの コアーを切取りキャッピング る。1工種当たりの総使用	>⊐ 1 1		確認箇所							
					を行う。原則として1回に3本 が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種については塩化物総量規制の項目を照			コメント							

品質証明チェックシー	-ト(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日)

그 보다. 시장 의가	工事名: 対象箇所:	品質証明者
-------------	------------	-------

工租	種別			試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
19 吹 付工	施工	の	空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重 の総使用量が50m3未満の			日付・チェック	/	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/	
		他	JIS A 1128	要度と工事の規模に応じて 20m3~150m3ごとに1回、及 び荷卸し時に品質変化が認 められた時。			確認箇所							
				が50m3以上の場合は、 50m3ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種については、 塩化物総量規制の項目を参			コメント							
				無										
			コアによる強度試 JIS A 1107 験	品質に異常が認められた場 合に行う。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
------	-------	--	-------	--

工種	工種 種別 試験 試験項目・試験方法		i·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認		チェック内容						備考
		必 アルカリシリカ反 須 応抑制対策	抑制対策について		「アルカリ骨材反応抑制対 策について」(平成14年7月 31日付け国官技第112 号、国港環第35号、国空建 第78号)」		田付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							コメント							
		そ 骨材のふるい分にの 試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4	工事開始前、工事中1回/月 以上及び産地が変わった場	設計図書による。	0	日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		他 ( J I S	JIS A 5021	□ ·			確認箇所							
		マ   ク 表					コメント							
		示 情材の密度及ひ 改水率試験	JIS A 1110	工事開始前、工事中1回/月   JIS A 5005(コンクリート用砕   以上及び産地が変わった場	報情材の吸水率:3.5%以下 租情材の吸水率:3.0%以下 大 (辞砂・辞石・高炉スラケ骨 材、フェロニッケルスラケ 細骨材、 銀スラゲ細骨材の規格値については摘要を参照) スラ は、では摘要を参照) スラ		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		れ た レ ディ		グ骨材 - 第1部: 高炉スラグ作材)			確認箇所							
		シスト		JIS A 5011-3(コンクリート用. グ骨材 - 第3部: 銅スラグ骨札 JIS A 5011-4(コンクリート用. グ骨材 - 第4部: 電気炉酸化			コメント							
		コンクリ		ラグ骨材) JIS A 5021(コンクリート用再生骨 H)										
		骨材の微粒分量   試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	工事開始前、工事中1回/月   以上及び産地が変わった場合。	粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒 形判定実績率が58%以上	Ē	日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		を 使 用 す る	JIS A 3506	日。 (山砂の場合は、工事中1回 /週以上)	の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下	0	確認箇所							
		場合は除			細骨材 砕砂 9.0%以下(ただし、す りへり作用を受ける場合は 5.0%以下 スラグ細骨材 7.0%以下		コメント							
					(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外(砂等) 5.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)	<b>受</b> ↓下								

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	験 試験項目·試験方法		試験基準・摘要		規格値	試験成績 表等によ る確認		チェック内容						備考
20 現場 : 吹付法 : 枠工	材料	の他(JISマーク表示されたレディ	砂の有機不純物 試験	JIS A 1105	工事開始前、工事中1回/年 以上及び産地が変わった場 合。	車 濃い場合は、JIS A 1142「有機不 婦 純物を含む細骨材のモルタル圧縮 強度による試験方法」による。	「標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上 の場合は使用できる。	17	日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
								0	確認箇所							
									コメント							
			モルタルの圧縮強 度による砂の試験		試料となる砂の上部におけ る溶液の色が標準色液の色 より濃い場合。		圧縮強度の90%以上	0	日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
		ミクストコ							コメント							
		2	骨材中の粘土塊 量の試験	JIS A 1137	工事開始前、工事中1回/月 以上及び産地が変わった場 合。		細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	0	日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		リートを使用する場合は							確認箇所							
									コメント							
			硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	生 JIS A 5005	砂、砂利: エ事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び産地が変 わった場合。 砕砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/ 年以上及び産地が変わった 場合。	Ė	粗骨材:12%以下	0	日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
		,	セメントの物理試 験	JIS R 5201	工事開始前、工事中1回/月以上		JIS R 5210(ポルトランドセッ ント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセ メント) JIS R 5214(エコセメント)		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							

工事名: 対象箇所: 対象箇所: 品質証明者	
------------------------	--

工種	超別 試区	験分	試験項目	・試験方法	試験。	基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
	料 (	か し J I S	ルトランドセメン の化学分析		工事開始前、工事中1回/月 以上		JIS R 5210(ポルトランドセメ ント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセ メント) JIS R 5214(エコセメント)	0	日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ [	/ 0	
	7	マーク表示さ							コメント							
	į	れ  - 練試	験	道水以外の水の場 合:	/年以上及び水質が変わっ	上水道を使用してる場合は試験 に換え、上水道を使用してること を示す資料による確認を行う。	溶解性蒸発残留物の量: 1g/L以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	1	ライミクス		JIS A 5308付属書 C			塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始 発は30分以内、終結は60分 以内	0	確認箇所							
	1	トコンク					モルタルの圧縮強度比:材 齢7及び28日で90%以上		コメント							
		J														
	1	ト を 吏		JIS A 5308附属書 C	/年以上及び水質が変わっ た場合。	・その原水は上水道水及び上水 道水以外の水の規定に適合する ものとする。	下 セメントの凝結時間の差:始		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
	i t	用 す る 湯			スラッジ水の濃度は1回/ 日		発は30分以内、終結は60分 以内 モルタルの圧縮強度比:材 齢7及び28日で90%以上	0	確認箇所							
	β	合は徐くし							コメント							
					• -											
	製造	込 細 率	骨材の表面水 試験	JIS A 1111	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外 の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
								0	確認箇所							
									コメント							

	工事名:	対象箇所:		品質証明者	
--	------	-------	--	-------	--

工種	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試馬	験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
20 現場 吹付法 枠工	製造(		粗骨材の表面水 率試験	JIS A 1125	1回/日以上	レディーミクストコンクリート以外 の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
	J I S Z							0	確認箇所							
	一ク表示な								コメント							
	された		計量設備の計量 精度		工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上	<ul><li>・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。</li></ul>	セメント: ±1%以内 骨材 : ±3%以内		日付・チェック	/	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	レディミク						混和材: ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合 は±1%以内) 混和剤: ±3%以内	0	確認箇所							
	ノストコン								コメント							
	クリー		ミキサの練混ぜ性 能試験	合: JIS A 1119	工事開始前及び工事中1 /年以上。	回・小規模工種※で1工種当りの総 使用量が50m3未満の場合は1工 種1回以上の試験、またはレ	公称容量の場合: コンクリート内のモルタル		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
	トを使用			JIS A 8603-1 JIS A 8603-2		ディーミクストコンクリート工場の 品質証明書等のみとすることが できる。 ※小規模工種とは、以下の工種	コンクリート内の粗骨材量 の偏差率:5%以下 圧縮強度の偏差率:7.5%		確認箇所							
	する場合					を除く工種とする。(橋台、橋脚、 杭類(場所打杭、井筒基礎等)、 橋梁上部工(桁、床版、高欄	コンクリート内空気量の偏 差率:10%以下 コンシステンシー(スランプ)の偏差率:15%以下		コメント							
	は除く)					渠工、樋門、樋管、水門、水路 (内幅20m以上)、護岸、ダム及 び堰、トンネル、舗装、その他こ れらに類する工種及び特記仕様 書で指定された工種)		0								
				連続ミキサの場合: 土木学会規準			コンクリート中のモルタル単位容積質量差:0.8%以下コンクリート中の単位粗骨材		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
				JSCE-I 502-2013			量の差:5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランプ差:3cm以下	0	確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
------	-------	--	-------	--

工種	種別	試験 区分	試験項目∙讀	試験方法	試験。	基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
20 現場 吹付法 枠工	施工	その他	スランプ試験 Ji (モルタル除く)		要度と工事の規模に応じて	・小規模工種で1工種当りの総使 用量が50m3未満の場合は1工種 1回以上の試験、またはレディー	許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下:		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					び荷卸し時に品質変化が認められた時。	ミクストコンクリート工場の品質 証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が 50m3以上の場合は、50m3ごとに 1回の試験を行う。			確認箇所							
						回の試験を行う。   ※小規模工種とは、以下の工種 を除く工種とする。(橋台、橋脚、 杭類(場所打杭、井筒基礎等)、			コメント							
						橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、糠壁工(高さIm以上)、函 等)、糠壁工(高さIm以上)、函 渠工、樋門、樋管、水門、水路 (内幅2.0m以上)、護洋、ダム及 び堰、トンネル、舗装、その他こ れらに類する工種及び特記仕様 書で指定された工種)										
		必須		IS A 1108	行う。	·参考值:18N/mm2以上(材令28日)			日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
				SCE F561-2013	配置された型枠に工事で使用するのと同じコンクリート (モルタル)を吹付け、現場で7日間および28日間放置	ディーミクストコンクリート工場の 品質証明書等のみとすることが			確認箇所							
					りキャッピングを行う。1回に 6本(σ7…3本、σ28…3 本、)とする。	できる。1工種当たりの総使用量が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種については、スラ			コメント							
						ンプ試験の項目を参照			1		,			,	,	

事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	·試験方法	試験	基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
20 現場 吹付法 枠工		その他	塩化物総量規制	「コンクリートの耐 久性向上」	午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を	・小規模工種※で1工種当りの総 使用量が50m3未満の場合は1工 種1回以上の試験、またはレ ディーミクストコンクリート工場の 品質証明書等のみとすることが できる。1工種当たりの総 使用量が50m3以上の場合は、	原則0.3kg/m3以下		日付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					験の測定回数は3回)試験	50m3ごとに「回の試験を行う。 ・骨材に海砂を使用する場合は、 「海砂の塩化物イオン含有率試 験方法」(JSCE-C502-2018,503- 2018)または設計図書の規定に より行う。			コメント							
						※小規模工種については、スランプ試験の項目を参照										
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて	・小規模工種※で1工種当りの総 使用量が50m3未満の場合は1工 種1回以上の試験、またはレ			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					20m3~150m3ごとに1回、お	ディーミクストコンクリート工場の 品質証明書等のみとすることが できる。1工種当たりの総使用量 が50m3以上の場合は、50m3ごと に1回の試験を行う。			確認箇所							
						※小規模工種については、スランプ試験の項目を参照			コメント							
			ロックボルトの引 抜き試験	参考資料「ロックボルトの引抜試験」 による	設計図書による。		引抜き耐力の80%程度以 上。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
			コアによる強度試 験	JIS A 1107	品質に異常が認められた場 合に行う。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目∙試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
21 河川 土工	材 料	必須	土の締固め試験 JIS A 1210	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							
		その他	土の粒度試験 JIS A 1204	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
		怛					確認箇所							
							コメント							
			土粒子の密度試 JIS A 1202 験	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							
			土の含水比試験 JIS A 1203	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							
			土の液性限界・塑 JIS A 1205 性限界試験	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
							確認箇所							
							コメント							

工事名: 品質証明者		対象箇所:			
------------	--	-------	--	--	--

工種	種別	試験 区分	試験項目·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
21 河川 土工	l 材 料	その	土の一軸圧縮試 JIS A 1216 験	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
		他					確認箇所							
							コメント							
			土の三軸圧縮試 地盤材料試験の方 験 法と解説	i 必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							
			土の圧密試験 JIS A 1217	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							
			土のせん断試験 地盤材料試験の方法と解説	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							
			土の透水試験 JIS A 1218	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
							確認箇所							
							コメント							

品質証明チェックシート(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日)
881只叫ラノ・エノノイ ! 1881只/	(2011b) ·	_	73		_	73	н,

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工科	重 種別		試験項目∙試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認		チェック内容				備考		
21 河 土工	施工	必須	かを実施する。 最大粒径>53mm:	施する。 は、監督職員と協議の上 1回の試験につき3孔で測定し、3 孔の平均値で判定を行う。	ただし、上記により難い場合は、飽和度または空気間隙率の規定によることができる。		日付・チェック 確認箇所 コメント	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
			1

ı	種種	別区	) 試験項目	•試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
21 土	河川 旅			または、 「RI計器を用いた 盛土の締固め管理	盛土を管理する単位(以下「管理 単位」)に分割して管理単位ごと に管理を行うものとする。 ・右記の規格値を満たし	平均値が最大乾燥度密度の		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
				要領(案)」による	築堤は、1日の1層あたりの施工 ても、規格値を着く不写自面積を基準とする。管理単位の ている点が存在した場合 面積は1,500m <sup>2</sup> を標準とし、1日 の施工面積が2,000m <sup>2</sup> 以上の場 で、(再)転圧を行うもの。	っ ただし、上記により難い場合 は、飽和度または空気間隙率 の規定によることができる。 す 【砂質土(25%≦75μmふるい		確認箇所							
					合、その施工面積を2管理単位 以上に分割するものとする。1管 理単位あたりの測定点数の目安 を以下に示す。	通過分<50%)】 空気間隙率VaがVa≦15% 【粘性土(50%≦75μmふるい 通過分)】 飽和度Srが85%≦Sr≦95%		コメント							
					- 500m2未満: 5点 - 500m2以上1000m2未満: 10点 - 1000m2以上2000m2未満: 15点	または空気間隙率Vaが2%≦ Va≦10% または、設計図書による。									
				または、	1. 盛土を管理する単位(以下	施工範囲を小分割した管理ブ									
				「TS・GNSSを用	「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2.1日の施工が複数層に及ぶ	ロックの全てが規定回数だけ 締め固められたことを確認する		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
				B-12/W11-0.0	場合でも1管理単位を複数層に またがらせることはしないものと する。 3. 土取り場の状況や土質状況			確認箇所							
					が変わる場合には、新規の管理 単位として取り扱うものとする。			コメント							
21 土	河川が	西 そ こ の 他		JIS A 1203	含水比の変化が認められたとき。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							
			コーン指数の測定	舗装調査·試験法 便覧[1]-273	トラフィカビリティが悪いとき。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							

工事名:	丁車名・ 対象節所・ 品質証明者
------	------------------

工種	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
22 海岸 土工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
		の	土の粒度試験	JIS A 1204	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		他						確認箇所							
			土粒子の密度試 JIS A 1202 当初及び土質の変化した時。 験			コメント									
			土粒子の密度試 JIS A · 験	JIS A 1202	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
			土の含水比試験 JIS A					確認箇所							
								コメント							
			土の液性限界・塑 性限界試験	JIS A 1205	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							

工事名: 対象箇所:		品質証明者	
------------	--	-------	--

工種				試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考	
22 海岸 土工	材料	その	土の一軸圧縮試 験	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0		
		他					確認箇所								
							コメント								
			生の三軸圧縮試 地盤材料試験の方 験	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆		
							確認箇所								
							コメント								
			土の圧密試験 JIS A 1217	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/	/ 0	/	/	/ 0	/ 🗆		
							確認箇所								
					=n.=  m ++ i.e.   . 7		コメント								
			土のせん断試験 地盤材料試験の方法と解説	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆		
								確認箇所							
							コメント								
			土の透水試験 JIS A 1218	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆		
							確認箇所								
							コメント								

工事名: 対象箇所: 品質証明者
------------------

工種	種別	試験 区分	試験項目	·試験方法	試験基準・摘要		規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
22 海岸 土工	施工	須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれ かを実施する。	砂置換法(JIS A 1214)	築堤は、1,000m³に1回の割合、ま ・右記の規格 たは堤体延長20mに3回の割合のでも、規格値 内、測定頻度の高い方で実施す よ 、監督戦員	を著しく下回っ 存在した場合 員と協議の上	または設計図書に示された値。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
				最大粒径>53mm: 舗装調査·試験 法便覧[4]-256 突砂法	1回の試験につき3孔で測定し、3 孔の平均値で判定を行う。	を行うものとす			確認箇所							
									コメント							
				または、 「RI計器を用いた 感+の締固め管理	盛土を管理する単位(以下「管理 ・最大粒径 < 単位」)に分割して管理単位ごと に適用する。 に管理を行うものとする。 ・右記の規格		1管理単位の現場乾燥密度 の平均値が最大乾燥度密 度の90%以上。または、設		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
				要領(案)」による	築堤は、1日の1層あたりの施工 面積を基準とする。管理単位の 面積は1,500m <sup>2</sup> を標準とし、1日の 施工面積が2,000m <sup>2</sup> 以上の場合、 で、(再)転日 で、(再)転日	を著しく下回っ	計図書による。		確認箇所							
					その施工面積を2管理単位以上 に分割するものとする。1管理単 位あたりの測定点数の目安を以 下に示す。											
				または、	- 500m2未満: 5点 - 500m2以上1000m2未満: 10点 - 1000m2以上2000m2未満: 15点		施工範囲を小分割した管理									
				「TS・GNSSを用 いた盛土の締固め	理単位」)に分割して管理単位毎		ルエ製匠をバカ剤した管理 ブロックの全てが規定回数 だけ締め固められたことを 確認する。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
					2. 1日の肥上が保め間に及か場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理		印度 配名 タ つう。		確認箇所							
					単位として取り扱うものとする。				コメント							

品質証明チェックシー	ート(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日)

工事名:	対象箇所:	•	品質証明者	

	重 種別			試験基準·摘要		試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
22 海 土工	岸 施工	の	土の含水比試験 JIS A 1203	含水比の変化が認められたとき。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
		他					確認箇所							
							コメント							
			コーン指数の測定 舗装調査・試験法 便覧[1]-273	トラフィカビリティが悪いとき。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基	準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
23 砂 防土工	材 料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	当初及び土質の変化時。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれ	砂置換法	1,000m3に1回の割合、また は設計図書による。 1回の試験につき3孔で測定	いても、規格値を著しく下	最大乾燥密度の85%以上。 または設計図書に示された 値。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
			かを実施する。	最大粒径>53mm: 舗装調査·試験法 便覧[4]-256	し、3孔の平均値で判定を行う。		1820		確認箇所							
				突砂法					コメント							
				または、 「RI計器を用いた 感土の締固め管理	盛土を管理する単位(以下「 管理単位」)に分割して管理 単位ごとに管理を行うものと	に適用する。	1管理単位の現場乾燥密度 の平均値が最大乾燥度密 度の90%以上。又は、設計		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					する。 築堤は、1日の1層あたりの 施工面積を基準とする。管 理単位の面積は1,500㎡を	いても、規格値を著しく下 回っている点が存在した場 合は、監督職員と協議の上	図書による。		確認箇所							
					標準とし、1日の施工面積が 2,000m <sup>2</sup> 以上の場合、その 施工面積を2管理単位以上 に分割するものとする。1管 理単位あたりの測定点数の 目安を以下に示す。	<b>ప</b> .			コメント							
					·500m2未満:5点 ·500m2以上1000m2未満: 10点 ·1000m2以上2000m2未満: 15点											
				または、 「TS・GNSSを用 いた感+の締固め	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。		施工範囲を小分割した管理 ブロックの全てが規定回数 だけ締め固められたことを		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
					2. 1日の施工が複数層に 及ぶ場合でも1管理単位を 複数層にまたがらせること はしないものとする。		確認する。		確認箇所							
					3. 土取り場の状況や土質 状況が変わる場合には、新 規の管理単位として取り扱 うものとする。				コメント							
											1					

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種				•試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
24 道路 土工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	当初及び土質の変化した時(材料が岩砕の場合は除く)。ただし、法面、路肩部の土量は除く。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
		_						コメント							
			CBR試験 (路床)	JIS A 1211	当初及び土質の変化した時。 (材料が岩砕の場合は除く)	設計図書による。		日付・チェック 確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
		7	<b>→ ○ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆</b>	JIS A 1204	当初及び土質の変化した	設計図書による。		コメント							
		その他	土の粒度試験	JIS A 1204	当初及び工具が多れたに時。	既前凶音にみる。		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
			土粒子の密度試	HC A 1202	当初及び土質の変化した	設計図書による。		コメント							
			エ和子の名及試 験	JIS A 1202	当初及び工具の変化した時。	改訂図書による。		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
			土の含水比試験	HC A 1202	当初及び土質の変化した	設計図書による。		コメント							
			エジロ小儿 訊歌	0.5 A 1205	当初及び工具の変化した時。	改名   凶害にみる。		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
								コメント							

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
------	-------	--	-------	--

工種					試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
24 道路 土工	材料	その他	土の液性限界・塑 J 性限界試験	IIS A 1205	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
		16						確認箇所							
								コメント							
			土の一軸圧縮試 J 験		当初及び土質の変化した 時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			土の三軸圧縮試 地 験 注	也盤材料試験の方 まと解説	当初及び土質の変化した 時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			土の圧密試験 J	IIS A 1217	当初及び土質の変化した 時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			土のせん断試験 地流		当初及び土質の変化した 時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							

	工事名: 対象箇所:	品質証明者	Í
--	------------	-------	---

工種	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
24 道路 土工	材料	ō	土の透水試験	JIS A 1218	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
		他						確認箇所							
								コメント							
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれ	最大粒径≦53mm: 砂置換法 (JIS A1214)	路体の場合、1,000m3につき 1回の割合で行う。ただし、 5,000m3未満の工事は、1エ	【砂質土】 ・路体:次の密度への締固めが可能な範囲の含水比にお		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
			かを実施する。	最大粒径>53mm: 舗装調査·試験法 便覧[4]-256	事当たり3回以上。 路床及び構造物取付け部の 場合、500m31につき1回の割 合で行う。ただし、1,500m3	いて、最大乾燥密度の90%以 上(締固め試験(JIS A 1210) A·B法)。 ·路床及び構造物取付け部:		確認箇所							
				突砂法	未満の工事は1工事当たり3 回以上。1回の試験につき3 孔で測定し、3孔の最低値で 判定を行う。	次の密度への締固めが可能 な範囲の含水比において、最 大乾燥密度の95%以上(締固 め試験(JIS A 1210)A-B法) もしくは90%以上(締固め試験		コメント							
						(JIS A 1210) C・D・E法) ただし、JIS A 1210 C・D・E法 での管理は、標準の施工仕様 よりも締固めエネルギーの表 いたきな転圧方法(例えば、標準の性 用する場合や1層あたりの血 する。 【粘性土】・路体・目然会水比またはもうる。 い路体・目然会水比において、空気はたいた。 い路体・医がいる当の場合が、18年のででいる。 い路体・区域とは、砂質生のよりにできる。 ただし、締団が登りる。 ただし、締団が登りる。 ただし、締団が登りる。 ただし、締団が登りる。 ただし、総合は、砂質土の基でを なっただし、総合は、砂質土の基でを なったといてきる。 その他、設計図書による。									

工事名: 対象箇所: 品質証明者	工事名:	対象箇所:		品質証明者		
------------------	------	-------	--	-------	--	--

工種	種別	試験 区分	試験項目	·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
24 道道 土工	格 施 工		※右記試験方法	または、 「RI計器を用いた 盛土の締固め管理	盛土を管理する単位(以下「・最大粒径<100mmの場合管理単位」)に分割して管理 に適用する。 単位ごとに管理を行うものと・右記の規格値を満たしてし	・路体:次の密度への締固め		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
				要領(案)」	する。 路体・路床とも、1日の1層あ たりの施工面積を基準とす る。管理単位の面積は で、(再)転圧を行うものとす で、(再)転圧を行うものとす	いて、1管理単位の現場乾燥 密度の平均値が最大乾燥度 密度の92%以上(締固め試験 (JIS A 1210)A・B法)。		確認箇所							
					1,500m <sup>2</sup> を標準とし、1日の施 工面積が2,000m <sup>2</sup> 以上の場 合、その施工面積を2管理 単位以上に分割するものと する。1管理単位あたりの測	・路床及び構造物取付け部: 次の密度への締固めが可能 な範囲の含水比において、1 管理単位の現場乾燥密度の 平均値が最大乾燥度密度の		コメント							
					定点数の目安を以下に示す。 ・500m2未満:5点	97%以上(締固め試験(JIS A 1210)A・B法)もしくは92%以上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法)。									
					- 500m2以上1000m2未満: 10点 - 1000m2以上2000m2未満: 15点	ただし、JIS A1210 C・D・E法で の管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大き な転圧方法(例えば、標準より も転圧力の大きな機械を使用 する場合や1層あたりの仕り厚を薄くする場合)に適用す									
						る。 【粘性土】 ・路体、路床及び構造物取付け部:自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる 含水比において、1管理単位									
						の現場空気間隙率の平均値が8%以下。 ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。 または、設計図書による。									
					管理単位毎に管理を行う。	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ 締め固められたことを確認す		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
				理要領」による	2. 1日の施工が複数層に 及ぶ場合でも1管理単位を 複数層にまたがらせること はしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質	<b>δ</b> .		確認箇所							
					3. エ取り扱いなんで工具 状況が変わる場合には、新 規の管理単位として取り扱う ものとする。			コメント							

		i		
工事名:	対象箇所:		品質証明者	

工種	種別			・試験方法		準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
24 道路 土工		必須	プルーフローリン グ	舗装調査・試験法 便覧[4]-288	路床仕上げ後全幅、全区間 について実施する。ただし、 現道打換工事、仮設用道路 維持工事は除く。	に用いた転圧機械と同等以			日付・チェック 確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									コメント							
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215	各車線ごとに延長40mについて1ヶ所の割で行う。	・セメントコンクリートの路盤に適用する。			日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
			現場CBR試験	JIS A 1222	各車線ごとに延長40mについて1回の割で行う。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
			含水比試験	JIS A 1203	路体の場合、1,000m3につき 1回の割合で行う。ただし、 5,000m3未満の工事は、1エ		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
					事当たり3回以上。 路床の場合、500m3につき1 回の割合で行う。ただし、 1,500m3未満の工事は1工 事当たり3回以上。				確認箇所							
									コメント							
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法 便覧[1]-273	必要に応じて実施。 (例)トラフィカビリティが悪い 時		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
			たわみ量	舗装調査・試験法 便覧[1]-284 (ベンゲルマンピーム)	プルーフローリングでの不良 箇所について実施		設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							

品質証明チェックシート(品質) (期間: <u>年</u>月 日~ 年 <u>月</u>日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験区分	試験項目	·試験方法	試験基	準·摘要	規格値	試験成績表等によ				チェック内容				備考
25 捨 石工	施工	必須	岩石の見掛比重	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及 び岩質の変化時。	・500m3以下は監督職員承 諾を得て省略できる。 ・参考値:	設計図書による。	る確認	日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
						・硬石 : 約2.7~2.5g/cm3 ・準硬石 : 約2.5~2g/cm3 ・軟石 : 約2g/cm3未満		0	確認箇所							
									コメント							
			岩石の吸水率	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及 び岩質の変化時。	・500m3以下は監督職員承 諾を得て省略できる。 ・参考値:	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
						- 硬石 : 5%未満 - 準硬石: 5%以上15%未満 - 軟石 : 15%以上		0	確認箇所							
									コメント							
			岩石の圧縮強さ	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及 び岩質の変化時。	<ul><li>・500m3以下は監督職員承諾を得て省略できる。</li><li>・参考値:</li></ul>	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
						· 硬石: 4903N/cm2以上 · 準硬石: 980.66N/cm2以上 4903N/cm2未満 · 軟石: 980.66N/cm2未満		0	確認箇所							
									コメント							
		その他	岩石の形状	JIS A 5006	5,000m3につき1回の割で行う。 ただし、5,000m3以下のもの	500m3以下は監督職員承諾 を得て省略できる。	うすっぺらなもの、細長いも のであってはならない。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					は1工事2回実施する。				確認箇所							
								0	コメント							

品質証明チェックシート(品質) (期間: 年月日~年月四)

		1		
工事名:	対象箇所:		品質証明者	

工種	種別	試験 試験	頁目·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
26 コン クリート ダム	材料(	必 アルカリシリス 須 応抑制対策	抑制対策について (平成14年7月3	骨材試験を行う場合は、エ 事開始前、工事中1回/6ヶ 月以上及び産地が変わった	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、国		日付・チェック	/ 0	/	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	J I S マ		1日付け国官技第 112号、国港環第 35号、国空建第7 8号)		空建第78号)」	0	確認箇所							
	一 ク 表示						コメント							
	された	そ 骨材の密度 2 の 吸水率試験 他	び JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005	工事開始前、工事中1回/ 月以上及び産地が変わった 場合。 JIS A 5005(コンクリー 砕石及び砕砂) JIS A 5011-1(コンク	-ト用 絶乾密度:2.5以上 吸水率:【2013年制定】コンクリート標準 リート 示方書 ダムコンクリート編による。		日付・チェック	/ 0	/	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	レディミ		JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	用スラグ骨材一第1 炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンク 用スラグ骨材 一第24 ロニッケルスラグ骨末	Jート 3:フェ		確認箇所							
	クストコ			JIS A 5011-3(コンク 用スラグ骨材 - 第3章 スラグ骨材) JIS A 5011-4(コンク	Jート 3:銅 Jート	0	コメント							
	ンクリート			用スラグ骨材 一第4指 気炉酸化スラグ骨材 JIS A 5021(コンクリートF 骨材H)					·					
	を使	骨材のふるい け試験	分 JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5021	工事開始前、工事中1回/ 月以上及び産地が変わった 場合。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
	用する場合					0	確認箇所							
	口は除く)						コメント							
		セメントの物理験	型試 JIS R 5201	工事開始前、工事中1回/月 以上	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント)		日付・チェック	/ 0	/	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
					JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)		確認箇所							
						0	コメント							
									•					

|--|

工種	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考		
26 コン クリート ダム	材料(	その他	ポルトランドセメン トの化学分析	JIS R 5202	工事開始前、工事中1回/月 以上		JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント)		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆			
	リ I S マ	10					JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所									
	一ク表示								コメント									
	された		砂の有機不純物 試験	JIS A 1105	工事開始前、工事中1回/ 年以上及び産地が変わった 場合。	「有機不純物を含む細骨材	標準色より淡いこと。濃い場合でも 圧縮強度が90%以上の場合は使用 できる。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0			
	レディミ					験方法」による。		0	確認箇所									
	クストコ								コメント									
	ンクリ		モルタルの圧縮 強度による砂の 試験	JIS A 1142	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。		圧縮強度の90%以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆			
	ートを使							0	確認箇所									
	用する場へ								コメント									
	合は除		骨材の微粒分量 試験	JIS A 1103	工事開始前、工事中1回/ 月以上及び産地が変わった 場合。		粗骨材:1.0%以下。ただし、砕石の 場合、微粒分量試験で失われるも のが砕石粉のときには、3.0%以		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0			
	< ~				(山砂の場合は、工事中1 回/週以上)		下。 細骨材: ・7.0%以下。ただし、すりへり作用 を受ける場合は3.0%以下。		下。 冊骨材: 7.0%以下。ただし、すりへり作用 を受ける場合は3.0%以下。		確認箇所							
							・砕砂の場合、微粒分量試験で失われるものが砕石粉であって、粘土、シルトなどを含まないときには9.0%以下。 ただし、同様の場合で、すりへり作用を受ける場合は	0	コメント									
							5.0%以下。											

|--|

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試験基	準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
26 コン クリート ダム	材 料	その他	骨材中の粘土塊 量の試験	JIS A 1137	工事開始前、工事中1回/ 月以上及び産地が変わった 場合。		細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
	J I S	16			-99 14 0			0	確認箇所							
	一 ク表示:								コメント							
	された		硫酸ナトリウムに よる骨材の安定 性試験	JIS A 5005	6ヶ月以上及び産地が変	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	細骨材:10%以下  粗骨材:12%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
	レディミ				わった場合。 砕砂、砕石 工事開始前、工事中1回/ 年以上及び産地が変わった 場合。			0	確認箇所							
	クストコン								コメント							
	ンクリ		粗骨材のすりへり 試験	JIS A 1121	工事開始前、工事中1回/ 年以上及び産地が変わった 場合。		40%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
	ートを使用							0	確認箇所							
	用する場合								コメント							
	は除		試験	水道水以外の水 の場合:	工事開始前及び工事中1回 /年以上及び水質が変わっ た場合。	試験に換え、上水道を使用 してることを示す資料による	溶解性蒸発残留物の量:1g/L以下 塩化物イオン量:200ppm以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
	<b>⟨</b>			JIS A 5308付属書 <del>3</del> C		確認を行う。	セメントの凝結時間の差: 始発は30 分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び 28日で90%以上	0	確認箇所							
								J	コメント							
						7.0 F 1/1 L 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2						,				
26 コン クリート ダム	材料	その他		С	/年以上及び水質が変わっ た場合。	・その原水は上水道水及ひ 上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30 分以内、終結は60分以内		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					スラッジ水の濃度は1回/日		モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び 28日で90%以上	0	確認箇所							
									コメント							
											•	•	1			

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別区	験 試験項目	•試験方法	試験基	準•摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
26 コン クリート ダム	製造(	計量設備の計量 ) 精度 h		設計図書による	・レディーミクストコンクリー トの場合、印字記録により 確認を行う。	水:±1%以内 セメント:±1%以内 骨材:±3%以内		日付・チェック	/ [	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
	゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚ヺント					混和材:±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1% 以内) 混和剤:±3%以内	0	確認箇所							
	J						O	コメント							
	S 7 -		<b>.</b>												
	- ク 表	ミギザの練混ぜ性 能試験	: ハッチミキサの場合:	工事開始前及び工事中1回 /年以上。		コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合 コンクリート内のモルタル量の偏		日付・チェック	/ [	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	示された		JIS A 8603-1 JIS A 8603-2			差率:0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差 率:5%以下 圧縮強度の偏差率:7.5%以下		確認箇所							
	レディミク					コンクリート内空気量の偏差率: 10%以下 コンシステンシー(スランプ)の偏差率:15%以下		コメント							
	/ ストコンクリートを使用する場						0								
	合は		連続ミキサの場合: 土木学会規準	工事開始前及び工事中1回 /年以上。		コンクリート中のモルタル単位容積 質量差:0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の		日付・チェック	/ [	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	除 く )		JSCE- I 502- 2013			差:5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランブ差:3㎝以下	0	確認箇所							
								コメント							

工事名: 対象箇所: 品質証明者	T 車 夕
------------------	-------

種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
製造	o o	細骨材の表面水 率試験	JIS A 1111	2回/日以上	レディーミクストコンクリート 以外の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
プラン	怛						0	確認箇所							
)								コメント							
		粗骨材の表面水 率試験	JIS A 1125	1回/日以上	レディーミクストコンクリート 以外の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
							0	確認箇所							
								コメント							
施工	必須		久性向上」	午後にまたがる場合は、午	の総使用量が50m3未満の	原則0.3kg/m3以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
				に行い、その試験結果が塩 化物総量の規制値の1/2以 下の場合は、午後の試験を 省略することができる。(1	験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明 書等のみとすることができ る。1工種当たりの総使用量			確認箇所							
				る)試験の判定は3回の測	50m3ごとに1回の試験を行う。 ・骨材に海砂を使用する場			コメント							
					ン含有率試験方法」 (JSCE-C502-2018,503- 2018)または設計図書の規			•		•					
					※小規模工種とは、以下の 工種を除く工種とする。(橋 台、橋脚、杭類(場所打杭 井筒基健等)、橋梁上部工 (桁、床版、高欄等)、糖壁 工(桁、床版、高間以上)、函渠工 樋門、樋管、水門、水路(内 幅20町以上)、護洋・ダム及 び堰、トンネル、舗装、その 他しれらに類する工種及び										
	製造(プラント	製造(ブラント)	製造 さの他 をのが をである。 をできる。 をで。 をできる。 をでをでをできる。 をでをできる。 をでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをで	製造       その他         細率試験       JIS A 1111         租業試験       和学材の表面水         財政 A 1125       工業試験         施工       必須	連載	# 2回/日以上	(プラント)	#	型	受して	報告報の表面水   JIS A 1111   2回/日以上   レディーミクストコンクリート 放射図書による	#			변경 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전

品質証明チェックシート(品質) (期間: 年月日~年月四)

|--|

工種	種別	試験 区分	試験項目·詞	式験方法	試験基準	维•摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
26 コン クリート ダム		必須	コ. 水 (3	、量測定要領 案)(平成16年3  8日事務連絡)」	2回/日(午前1回、午後1	限値は、粗骨材の最大寸法 が20mm~25mmの場合は	1)測定した単位水量が、配合設計 ±15kg/m3の範囲にある場合はそ のまま施工してよい。 2)測定した単位水量が、配合設計 ±15kg/m3を超え±20kg/m3の範 囲にある場合は、水量変動の原因 を調査し、生コン製造者に改善を消		日付・チェック確認箇所	/ 0	/ [	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
					多い方を採用する。		示し、その連搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m3 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。なが、「15kg/m3以内で安定するまで」とは、2回連続して		コメント							
							15kg/m3以内の値を観測することをいう。 33配合設計±20kg/m3の指示値を 超える場合は、生コンを打込まず に、持ち帰らせ、水量変形の原因を 調査し、生コン製造業者に改善後 の指示し、生コン製造業者に改善後の 配合設計±15kg/m3以内になる なお、測定値が管理値または指示 値を超えた場合は1回に限り再試験を実施することができる。測定結 果のうち、配合設計との差の絶対 値の小さい方で評価してよい。									
			スランプ試験 JI	S A 1101		の総使用量が50m3未満の	スランプ5cm以上8cm未満:許容差 ±1.5cm		日付・チェック	/ 0	/ [	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					て20m3~150m3ごとに1 回、及び荷卸し時に品質変 化が認められた時。	験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50m3以上の場合は、	スランブ8cm以上18cm以下: 許容差 ±2.5cm		確認箇所							
						50m3ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の 工種を除く工種とする。(橋 台、橋脚、杭類(場所打杭、 井筒基礎等)、橋梁上部工			コメント							
						(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、 樋門、樋管、水門、水路(内幅20m以上)、 難崇 ダル及										
			JI	S A 1116 S A 1118 S A 1128		び堰、トンネル、舗装、その 他これらに類する工種及び 特記仕様書で指定されたエ	±1.5%(許容差)		日付・チェック	/ 0	/ [	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
						種)			確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
			1

工種	種別	試験 区分	試験項目·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
26 コン クリート ダム		必須	コンクリートの圧 JIS A 1108 縮強度試験	1.1ブロック1リフトのコンク リート量500m3未満の場合1 場合は1工種1回以上。また			日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
				ブロック1リフト当り1回の割 で行う。なお、1ブロック1リフト トのコンクリート量が150m3 以下の場合及び数種のコン することができる。1工種当	強度を1/4以上の確率で下回らた		確認箇所							
				クリート配合から構成される たりの総使用量が50m3以 場合は監督職員 協議する ものとする。 2.1ブロック1リフトコンクリー			コメント							
				ト量500m3以上の場合「ブロックリフト当り2回の割で行う。なお、数種のコンクリート配合から構成される場合は監督職員と協議する、場合、精脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部に大力とのコンクリートは、打設日1日につき2回の割で行う。 4上記に示す基準は、コンクリートの品質が安定した場合の標準を示すものであり、打ち込み列期段階においては、2~3時間に1回の割合で行う。										
			温度測定(気温・温度計によるコンクリート)	1回供試体作成時各ブロック打込み開始時終了時。			日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
							確認箇所							
							コメント							
26 コン クリート ダム			コンクリートの単 JIS A 1116 位容積質量試験	1回2ヶ 当初及び品質に 参考値:2.3t/m3以上 異常が認められる場合に 行う。	設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
							確認箇所							
							コメント							
			コンクリートの洗 い分析試験 JIS A 1112	1回 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
							確認箇所							
							コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
26 コン クリート ダム	施工	その他	コンクリートのブ JIS A 1123 リージング試験	1回1ヶ 当初及び品質に 異常が認められる場合に 行う。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
		į					確認箇所							
							コメント							
			コンクリートの引 JIS A 1113 張強度試験	1回3ヶ 当初及び品質に 異常が認められる場合に 行う。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
				1170			確認箇所							
							コメント							
			コンクリートの曲 げ強度試験 JIS A 1106	1回3ヶ 当初及び品質に 異常が認められる場合に	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
				নিই.			確認箇所							
							コメント							

工事名:	丁車名・ 対象節所・ 品質証明者
------	------------------

工種	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
22 海岸 土工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
		の	土の粒度試験	JIS A 1204	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		他						確認箇所							
								コメント							
			土粒子の密度試 験	JIS A 1202	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			土の液性限界・塑 性限界試験	JIS A 1205	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							

工事名: 対象箇所:		品質証明者	
------------	--	-------	--

工種				試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
22 海岸 土工	材料	その	土の一軸圧縮試 験	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
		他					確認箇所							
							コメント							
			生の三軸圧縮試 地盤材料試験の方 験	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							
			土の圧密試験 JIS A 1217	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/	/ 0	/	/	/ 0	/ 🗆	
							確認箇所							
					設計図書による。		コメント							
			土のせん断試験 地盤材料試験の方法と解説	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							
			土の透水試験 JIS A 1218	必要に応じて。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							

工事名: 対象箇所: 品質証明者
------------------

工種	種別	試験 区分	試験項目	·試験方法	試験基準・摘要		規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
22 海岸 土工	施工	須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれ かを実施する。	砂置換法(JIS A 1214)	築堤は、1,000m³に1回の割合、ま ・右記の規格 たは堤体延長20mに3回の割合のでも、規格値 内、測定頻度の高い方で実施す よ 、監督戦員	を著しく下回っ 存在した場合 員と協議の上	または設計図書に示された値。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ [	/ 0	/ 0	
				最大粒径>53mm: 舗装調査·試験 法便覧[4]-256 突砂法	1回の試験につき3孔で測定し、3 孔の平均値で判定を行う。	を行うものとす			確認箇所							
									コメント							
				または、 「RI計器を用いた 感+の締固め管理	盛土を管理する単位(以下「管理 ・最大粒径 < 単位」)に分割して管理単位ごと に適用する。 に管理を行うものとする。 ・右記の規格		1管理単位の現場乾燥密度 の平均値が最大乾燥度密 度の90%以上。または、設		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
				要領(案)」による	築堤は、1日の1層あたりの施工 面積を基準とする。管理単位の 面積は1,500m <sup>2</sup> を標準とし、1日の 施工面積が2,000m <sup>2</sup> 以上の場合、 で、(再)転日 で、(再)転日	を著しく下回っ	計図書による。		確認箇所							
					その施工面積を2管理単位以上 に分割するものとする。1管理単 位あたりの測定点数の目安を以 下に示す。				コメント							
				または、	- 500m2未満: 5点 - 500m2以上1000m2未満: 10点 - 1000m2以上2000m2未満: 15点		施工範囲を小分割した管理									
				「TS・GNSSを用 いた盛土の締固め	理単位」)に分割して管理単位毎		ルエ製匠をバカ剤した管理 ブロックの全てが規定回数 だけ締め固められたことを 確認する。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
					2. 1日の肥上が保め間に及か場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理		印度 配名 タ つう。		確認箇所							
					単位として取り扱うものとする。				コメント							

品質証明チェックシー	ート(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日)

工事名:	対象箇所:	•	品質証明者	

	重 種別			試験基準·摘要		試験成績 表等によ る確認		チェック内容				備考		
22 海 土工	岸 施工	の	土の含水比試験 JIS A 1203	含水比の変化が認められたとき。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
		他					確認箇所							
							コメント							
			コーン指数の測定 舗装調査・試験法 便覧[1]-273	トラフィカビリティが悪いとき。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基	準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
23 砂 防土工	材 料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	当初及び土質の変化時。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれ	砂置換法	1,000m3に1回の割合、また は設計図書による。 1回の試験につき3孔で測定	いても、規格値を著しく下	最大乾燥密度の85%以上。 または設計図書に示された 値。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
			かを実施する。	最大粒径>53mm: 舗装調査·試験法 便覧[4]-256	し、3孔の平均値で判定を行う。		1820		確認箇所							
				突砂法					コメント							
				または、 「RI計器を用いた 感土の締固め管理	盛土を管理する単位(以下「 管理単位」)に分割して管理 単位ごとに管理を行うものと	に適用する。	1管理単位の現場乾燥密度 の平均値が最大乾燥度密 度の90%以上。又は、設計		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					する。 築堤は、1日の1層あたりの 施工面積を基準とする。管 理単位の面積は1,500㎡を	いても、規格値を著しく下 回っている点が存在した場 合は、監督職員と協議の上	図書による。		確認箇所							
					標準とし、1日の施工面積が 2,000m <sup>2</sup> 以上の場合、その 施工面積を2管理単位以上 に分割するものとする。1管 理単位あたりの測定点数の 目安を以下に示す。	<b>ప</b> .			コメント							
					·500m2未満:5点 ·500m2以上1000m2未満: 10点 ·1000m2以上2000m2未満: 15点											
				または、 「TS・GNSSを用 いた感+の締固め	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。		施工範囲を小分割した管理 ブロックの全てが規定回数 だけ締め固められたことを		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
					2. 1日の施工が複数層に 及ぶ場合でも1管理単位を 複数層にまたがらせること はしないものとする。		確認する。		確認箇所							
					3. 土取り場の状況や土質 状況が変わる場合には、新 規の管理単位として取り扱 うものとする。				コメント							
											1					

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種				•試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
24 道路 土工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	当初及び土質の変化した時(材料が岩砕の場合は除く)。ただし、法面、路肩部の土量は除く。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
		_						コメント							
			CBR試験 (路床)	JIS A 1211	当初及び土質の変化した時。 (材料が岩砕の場合は除く)	設計図書による。		日付・チェック 確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
		7	♣の蛤布≅÷E◆	JIS A 1204	当初及び土質の変化した	設計図書による。		コメント							
		その他	土の粒度試験	JIS A 1204	当初及び工具が多れたに時。	既前凶音による。		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
			土粒子の密度試	HC A 1202	当初及び土質の変化した	設計図書による。		コメント							
			エ和子の名及試 験	JIS A 1202	当初及び工具の変化した時。	改訂図書による。		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
			土の含水比試験	HC A 1202	当初及び土質の変化した	設計図書による。		コメント							
			エジロ小儿 訊歌	0.5 A 1205	当初及び工具の変化した時。	改名   凶害にみる。		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
								コメント							

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
------	-------	--	-------	--

工種					試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
24 道路 土工	材料	その他	土の液性限界・塑 J 性限界試験	IIS A 1205	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
		16						確認箇所							
								コメント							
			土の一軸圧縮試 J 験		当初及び土質の変化した 時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			土の三軸圧縮試 地 験 注	也盤材料試験の方 まと解説	当初及び土質の変化した 時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			土の圧密試験 J	IIS A 1217	当初及び土質の変化した 時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
			土のせん断試験 地流		当初及び土質の変化した 時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							

	工事名: 対象箇所:	品質証明者	Í
--	------------	-------	---

工種	種別	試験 区分	試験項目・試験方法		試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認	チェック内容							備考
24 道路 土工	材料	ō	土の透水試験	JIS A 1218	当初及び土質の変化した時。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
		他						確認箇所							
								コメント							
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれ	最大粒径≦53mm: 砂置換法 (JIS A1214)	路体の場合、1,000m3Iこつき 1回の割合で行う。ただし、 5,000m3未満の工事は、1エ	【砂質土】 ・路体:次の密度への締固めが可能な範囲の含水比にお		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
			かを実施する。	最大粒径>53mm: 舗装調査·試験法 便覧 [4]-256 突砂法	事当たり3回以上。 路床及び構造物取付け部の 場合、500m3につき1回の割 合で行う。ただし、1,500m3	いて、最大乾燥密度の90%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)。 ・路床及び構造物取付け部:		確認箇所							
				大切広	回以上。1回の試験につき3 孔で測定し、3孔の最低値で 判定を行う。	次の密度への締固めが可能 大範囲の含水比において、最 大乾燥を度の95%以上(締固) め試験(JIS A 1210) A・B法 もしく(190%以上(締固) ただし、JIS A 1210 C・D・E 法 もしく(190%以上(締固) ただし、JIS A 1210 C・D・E 法 よりも総正力、大きな様と よりも総正力、大きな様り、大きな様の は、標準の施工ネルギ、標準を 用する。 【粘性土】 ・路体:自身合ったは、標準を 用する。 【粘性土】 ・路体:自身合ったは ・路体:自身合ったは ・路体:自身合ったは ・路体:自身合ったは ・路体:自身の一体で、 をは、自身では、 ・路体ので、 ・路に、 ・路に、 ・ といる。 ・ ・路で、 ・ ので、 ・ ので		コメント							

工事名: 対象箇所: 品質証明者		対象箇所:		品質証明者	
------------------	--	-------	--	-------	--

工種	種別	試験 区分	試験項目・試験方法		試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認	チェック内容						備考	
24 道記 土工	格 施 工		※右記試験方法	または、 「RI計器を用いた 盛土の締固め管理	盛土を管理する単位(以下「・最大粒径<100mmの場合管理単位」)に分割して管理 に適用する。 単位ごとに管理を行うものと・右記の規格値を満たしてし	・路体:次の密度への締固め		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
				要領(案)」	する。 路体・路床とも、1日の1層あ たりの施工面積を基準とす る。管理単位の面積は で、(再)転圧を行うものとす	いて、1管理単位の現場乾燥 密度の平均値が最大乾燥度 密度の92%以上(締固め試験 (JIS A 1210)A-B法)。 ・路床及び構造物取付け部: 次の密度への締固めが可能 な範囲の含水比において、1 管理単位の現場乾燥密度の 平均値が最大乾燥度密度の 97%以上(締固め試験(JIS A 1210)A-B法)もしくは92%以 上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法)。		確認箇所							
					1,500m <sup>2</sup> を標準とし、1日の施 工面積が2,000m <sup>2</sup> 以上の場 合、その施工面積を2管理 単位以上に分割するものと する。1管理単位あたりの測			コメント							
					定点数の目安を以下に示す。 す。										
					- 500m2以上1000m2未満: 10点 - 1000m2以上2000m2未満: 15点	ただし、JIS A1210 C・D・E法で の管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大き な転圧方法(例えば、標準より も転圧力の大きな機械を使用 する場合や1層あたりの仕り厚を薄くする場合)に適用す									
						る。 【粘性土】 ・路体、路床及び構造物取付け部:自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる 含水比において、1管理単位									
						の現場空気間隙率の平均値が8%以下。 ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。 または、設計図書による。									
				た盛土の締固め管	管理単位毎に管理を行う。	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ 締め固められたことを確認す		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
				理要領」による	2.1日の施工が複数層に 及ぶ場合でも1管理単位を 複数層にまたがらせること はしないものする。 3.土取り場の状況や土質 状況が変わる場合には、新 規の管理単位として取り扱う ものとする。	<b>.</b>		確認箇所							
								コメント							

		i		
工事名:	対象箇所:		品質証明者	

工種	種別			・試験方法		準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
24 道路 土工		必須	プルーフローリン グ	舗装調査・試験法 便覧[4]-288	路床仕上げ後全幅、全区間 について実施する。ただし、 現道打換工事、仮設用道路 維持工事は除く。	に用いた転圧機械と同等以			日付・チェック 確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									コメント							
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215	各車線ごとに延長40mについて1ヶ所の割で行う。	・セメントコンクリートの路盤に適用する。			日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
			現場CBR試験	JIS A 1222	各車線ごとに延長40mについて1回の割で行う。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
			含水比試験	JIS A 1203	路体の場合、1,000m3につき 1回の割合で行う。ただし、 5,000m3未満の工事は、1エ		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
					事当たり3回以上。 路床の場合、500m3につき1 回の割合で行う。ただし、 1,500m3未満の工事は1工 事当たり3回以上。				確認箇所							
									コメント							
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法 便覧[1]-273	必要に応じて実施。 (例)トラフィカビリティが悪い 時		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							
			たわみ量	舗装調査・試験法 便覧[1]-284 (ベンゲルマンピーム)	プルーフローリングでの不良 箇所について実施		設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							

品質証明チェックシート(品質) (期間: <u>年</u>月 日~ 年 <u>月</u>日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験区分	試験項目	·試験方法	試験基	準·摘要	規格値	試験成績表等によ				チェック内容				備考
25 捨 石工	施工	必須	岩石の見掛比重	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及 び岩質の変化時。	・500m3以下は監督職員承 諾を得て省略できる。 ・参考値:	設計図書による。	る確認	日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
						・硬石 : 約2.7~2.5g/cm3 ・準硬石 : 約2.5~2g/cm3 ・軟石 : 約2g/cm3未満		0	確認箇所							
									コメント							
			岩石の吸水率	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及 び岩質の変化時。	・500m3以下は監督職員承 諾を得て省略できる。 ・参考値:	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
						• 硬石 : 5%未満 • 準硬石: 5%以上15%未満 • 軟石 : 15%以上		0	確認箇所							
									コメント							
			岩石の圧縮強さ	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及 び岩質の変化時。	<ul><li>・500m3以下は監督職員承諾を得て省略できる。</li><li>・参考値:</li></ul>	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
						· 硬石: 4903N/cm2以上 · 準硬石: 980.66N/cm2以上 4903N/cm2未満 · 軟石: 980.66N/cm2未満		0	確認箇所							
									コメント							
		その他	岩石の形状	JIS A 5006	5,000m3につき1回の割で行う。 ただし、5,000m3以下のもの	500m3以下は監督職員承諾 を得て省略できる。	うすっぺらなもの、細長いも のであってはならない。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					は1工事2回実施する。				確認箇所							
								0	コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
			4

工種	種別	式験 区分 試験項目	·試験方法	試験基	準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考			
	料	必 アルカリシリカ反 応抑制対策	抑制対策について	骨材試験を行う場合は、工 事開始前、工事中1回/6ヶ 月以上及び産地が変わった		「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆				
	J S Z		日付け国官技第1 12号、国港環第3 5号、国空建第78 号)	月以上及び座地が変わった 場合。		国空建第78号)」	0	確認箇所										
	一ク表示さ							コメント										
	されたレ	<ul><li>そ 骨材のふるい分けの 試験</li><li>他</li></ul>	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4	工事開始前、工事中1回/月 以上及び産地が変わった場合。		設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆				
	ディミ		JIS A 5021				0	確認箇所										
	クストコン							コメント										
	クリー	骨材の密度及び 吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005	工事開始前、工事中1回/月 以上及び産地が変わった場合。		絶乾密度:2.5以上 細骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆				
	ートを使用		JIS A 5011-1~4 JIS A 5021		用スラグ骨材一第1部:高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2(コンクリート 用スラグ骨材一第2部:フェ	フェロニッケルスラグ細骨材、銅ス ラグ細骨材の規格値については 適用を参照) 砕石 40%以下 砂利 35%以下		確認箇所										
	Rする場合				ロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3(コンクリート 用スラグ骨材 - 第3部:銅ス ラグ骨材) JIS A 5011-4(コンクリート					0	コメント							
	は 除 く )				用スラグ骨材 - 第4部: 電気 炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021(コンクリート用再生 骨材H)													
		粗骨材のすりへり 試験	JIS A 1121 JIS A 5005	工事開始前、工事中1回/年 以上及び産地が変わった場合。ただし、砂利の場合は、				日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0				
				工事開始前、工事中1回/ 月以上及び産地が変わった 場合。			0	確認箇所										
								コメント										

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
	A Salah .	нижиш-уу п	

工種	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
27 覆エ コンク リート (NATM)	料 (J I S		骨材の微粒分量 試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	工事開始前、工事中1回/月 以上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回 /週以上)	租骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒形判 定実績率が58%以上の場合は 5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 紀以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材		田付・チェック確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	マーク表示され					辞砂 9.0%以下(ただし、すりへり 作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下(ただし、 すりへ)作用を受ける場合は5.0% 以下) それ以外(砂等) 5.0%以下(ただし、すりへ)作用を受ける場合は		コメント							
	れたレディミクストコンクリ					に、9ッペッ作用を受ける場合は 3.0%以下)									
	トを		砂の有機不純物 試験	JIS A 1105	工事開始前、工事中1回/年 以上及び産地が変わった場 機不純物を含む細骨材のモ 内外工に縮強度による試験方	も圧縮強度が90%以上の場合は使		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
	使用する				法」による。		0	確認箇所							
	場合は除							コメント							
	< _		モルタルの圧縮強 度による砂の試験		試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色 より濃い場合。	圧縮強度の90%以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
							0	確認箇所							
								コメント							
			骨材中の粘土塊 量の試験	JIS A 1137	工事開始前、工事中1回/月 以上及び産地が変わった場 合。	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
							0	確認箇所							
								コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試験基	準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
27 覆工 コンク リート (NATM)	料	の	硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 5005	砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
(NATM)	J I S マ				砕砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年 以上及び産地が変わった場			0	確認箇所							
	一ク表示				合。				コメント							
	された		セメントの物理試験	JIS R 5201	工事開始前、工事中1回/月 以上		JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント)		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	レディミク						JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
	ノストコン								コメント							
	クリー		ポルトランドセメン トの化学分析	JIS R 5202	工事開始前、工事中1回/月 以上		JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント)		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	・トを使用						JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
	する場合								コメント							
	は 除 く		試験	道水以外の水の場 合:	工事開始前及び工事中1回 /年以上および水質が変わった場合。	してることを示す資料による	溶解性蒸発残留物の量:1g/L以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	J			JIS A 5308付属書 C		確認を行う。	塩化物イオン量: 200ppm以下 セメントの凝結時間の差: 始発は 30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及 び28日で90%以上	0	確認箇所							
									コメント							
				回収水の場合: JIS A 5308附属書 C	/年以上及び水質が変わっ た場合。		塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は 30分以内、終結は60分以内		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					スラッジ水の濃度は1回/ 日		モルタルの圧縮強度比: 材齢7及 び28日で90%以上	0	確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	重別 試験 区分		·試験方法	試験基	<b>準・摘要</b>	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
	製 その:	精度		工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確	セメント: ±1%以内		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
(NATM)	(プラント				認を行う。	骨材 : ±3%以内 混和材: ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は± 1%以内) 混和剤: ±3%以内	0	確認箇所							
	Ĵ							コメント							
	I S	ミキサの練混ぜ性 能試験	バッチミキサの場合:	工事開始前及び工事中1回 /年以上。		コンクリートの練混ぜ量公称容量の場合		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
	マー ク表		JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2			コンクリート内のモルタル量の偏 差率:0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏 差率:5%以下 圧縮強度の偏差率:7.5%以下		確認箇所							
	示されたレ					コンクリート内空気量の偏差率: 10%以下 コンシステンシー(スランプ)の偏差率:15%以下		コメント							
	ディミ						0								
	クストコンクリートを														
	使 用 す		連続ミキサの場合:	   工事開始前及び工事中1回  /年以上。		コンクリート中のモルタル単位容 積質量差:0.8%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
	る場合は除		土木学会規準 JSCE- I 502- 2013			コンクリート中の単位粗骨材量の 差:5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランプ差:3㎝以下	0	確認箇所							
	<b>ド</b> く シ							コメント							
		細骨材の表面水 率試験	JIS A 1111	2回/日以上	レディーミクストコンクリート 以外の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
							0	確認箇所							
								コメント							
		粗骨材の表面水 率試験	JIS A 1125	1回/日以上	レディーミクストコンクリート 以外の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
							0	確認箇所							
								コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目・試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
27 覆エ コンク リート (NATM)	エ	必須	スランプ試験 JIS A 1101	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重 要度と工事の規模に応じて 20m3~150m3ごとに1回、及 び荷卸し時に品質変化が認	スランブ5cm以上8cm未満:許容差 ±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下:許容 差±2.5cm		日付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
				められた時。			コメント							
			単位水量測定 「レディーミクストコンクリート単位		1)測定した単位水量が、配合設計 ±15kg/m3の範囲にある場合はそ		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
			水量測定要領 (案)(平成16年3 月8日事務連絡)」	回以上、重要構造物の場 合は重要度に応じて100m3 ~150m3ごとに1回、及び 荷卸し時に品質変化が認め られたときとし測定回数は多	のまま施工してよい。 2) 測定した単位水量が、配合設計 ±15を超え±20kg/m3の範囲にあ る場合は、水量変動の原因を調 査し、生コン製造者に改善を指示 し、その運搬車の生コンは打設す		確認箇所							
				い方を採用する。	る。その後、配合設計 ±15kg/m3 以内で安定するまで、運搬車の3 台毎に1回、単位水量の測定を行 なお、「15kg/m3以内で安定するま		コメント							
					はな、113kg/m3以内で安定するまでしたは、20回連続して 15kg/m3以内の値を観測することをいう。 3)配合設計±20kg/m3の指示値を越える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の配合設計±15kg/m3以内になるまで全運搬車の測定を行う。									
					なお、測定値が管理値または指示値を超えるた場合は1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施した場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。									
			コンクリートの圧 縮強度試験 JIS A 1108	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重 要度と工事の規模に応じてが20mm~25mmの場合は	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
				20m3~150m3ごとに1回、及 び荷卸し時に品質変化が認 められた時。なお、テスト ピースは打設場所で採取 し、1回につき6個(σ7…3	した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体 の試験値の平均値)		確認箇所							
				個、σ28…3個)とする。			コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験区分	試験項目·試			準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
27 覆エ コンク リート (NATM)		必須	塩化物総量規制 「コ	性向上」	コンクリートの打設が午前と 午後にまたがる場合は、午 前に1回コンクリート打設前 に行い、その試験結果が塩 化物終量の規制値の1/2以 下の場合は、午後の試験を 省略することができる。(1試	合は、「海砂の塩化物イオン 含有率試験方法」(JSCE- C502-2018,503-2018)また は設計図書の規定により行			田付・チェック確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
					験の測定回数は3回とする) 試験の判定は3回の測定値 の平均値。		<u>-</u>									
			JIS	S A 1116 S A 1118 S A 1128	・荷卸し時 1回/日または構造物の重 要度と工事の規模に応じて	合は、「海砂の塩化物イオン	土1.5%(許谷差)	H付・チ		/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
					20m3~150m3ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が	C502-2018,503-2018)また			確認箇所							
									コメント							
		の	コアによる強度試 JIS 験	S A 1107	品質に異常が認められた場 合に行う。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
		他							確認箇所							
									コメント							
			コンクリートの洗い JIS 分析試験	S A 1112	1回 品質に異常が認められ た場合に行う。		設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
27 覆コンク リート (NATM	施工後	必須	ひび割れ調査 スケールによる測定	本数	0.2mm		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
(NATM	後試験			放入いい的40種等			確認箇所							
							コメント							
			テストハンマーに よる強度推定調査 JSCE-G 504-2013	3 強度が同じブロックを1構造 再調査の平均強度が、所定物の単位とし、各単位につ の強度が得られない場合、 き3ヶ所の調査を実施。ま もしくは1ヶ所の強度が設計			日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/	/ 🗆	/ 🗆	/ -	
				た、調査の結果、平均値が 設計基準強度を下回った場 合と、1回の試験結果が設 計基準強度の85%以下と 工期等により、基準期間内	Ī		確認箇所							
				なった場合は、その箇所の 周辺において、再調査を5ヶ 所実 施。 材齢28日~91日の間に試			コメント							
		の	コアによる強度試 JIS A 1107 験	所定の強度を得られない箇 コア採取位置、供試体の抜 所付近において、原位置の き取り寸法等の決定に際し コアを採取。 ては、設置された鉄筋を損	設計基準強度		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ _	
		他		傷させないよう十分な検討を 行う。 圧縮強度試験の平均強度 が所定の強度が得られない			確認箇所							
				場合、もしくは1ヶ所の強度 が設計強度の85%を下回っ た場合は、監督職員と協議 するものとする。			コメント							

		ľ		
┃ 工事名:	対象箇所:		品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目•試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
28 吹 付けコ ンク リート (NATM)	材料	必須	応抑制対策 抑制対策について		「アルカリ骨材反応抑制対策に ついて」(平成14年7月31日付 け国官技第112号、国港環第3 5号、国空建第78号)」	0	田付・チェック確認箇所	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
							コメント							
		その他		細骨材は採取箇所または、 品質の変更があるごとに1 回。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
		J I S		こだだし、覆エコンクリートと 同一材料の場合は省略できる。 報骨材は採取箇所または、 品質の変更があるごとに1回。			確認箇所							
		マーク表					コメント							
		示され	骨材の単位容積質 UIS A 1104 量試験				日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
		たレディ				0	確認箇所							
		ミクストコ			Mathematica and I		コメント							
		ンク	骨材の密度及び吸 水率試験 JIS A 1109 JIS A 1110		絶乾密度:2.5以上 細骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		リートをは				0	確認箇所							
		使用する場			de B.L.		コメント							
		合は	骨材の微粒分量試		粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒形 判定実績率が58%以上の場合		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		除 く )			は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下(ただし、すりへ		確認箇所							
					り作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合	0	コメント							
					は5.0%以下) それ以外(砂等) 5.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)									

		•		
工事名:	対象箇所:		品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
	材料	の	砂の有機不純物試 JIS A 1105 験	細骨材は採取箇所または、・濃い場合は、JIS A 1142「オ 品質の変更があるごとに1 機不純物を含む細骨材のも りル圧縮強度による試験方法	でも圧縮強度が90%以上の場		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
U-F (NATM)		他(JIS		による。 同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに回。	Jaken Coo.	0	確認箇所							
		マーク		CICIUs			コメント							
		示さ	モルタルの圧縮強 度による砂の試験	試料となる砂の上部におけ る溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。	圧縮強度の90%以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		れたレデ				0	確認箇所							
		ィミクス					コメント							
		<b>⊢</b> □	骨材中の粘土塊量 JIS A 1137 の試験	細骨材は採取箇所または、 品質の変更があるごとに1	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下		日付・チェック	/	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ -	/ -	
		ンクリート		日の ただし、覆エコンクリートと 同一材料の場合は省略で きる。粗骨材は採取箇所ま たは、品質の変更があるご とに1回。		0	確認箇所							
		を使用		CICIU.			コメント							
			硫酸ナトリウムによ る骨材の安定性試 験	細骨材は採取箇所または、寒冷地で凍結のおそれのあ 品質の変更があるごとに1 る地点に適用する。 回。	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		場合は除く	<del>39</del> 7	回。 ただし、覆エコンクリートと 同一材料の場合は省略で きる。粗骨材は採取箇所ま たは、品質の変更があるご とに「回。		0	確認箇所							
		$\overline{}$					コメント							
			粗骨材の粒形判定   JIS A 5005 実績率試験	租骨材は採取箇所または、 品質の変更があるごとに1	55%以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
						0	確認箇所							
							コメント							
		Ī	セメントの物理試験 JIS R 5201	工事開始前、工事中1回/月 以上	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント)		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメ ント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
							コメント							

<b>工</b> 市 A	11.42 ft - 7		
工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
28 吹 付けコ ンク	材料	その他	ポルトランドセメント JIS R 5202 の化学分析	工事開始前、工事中1回/月 以上	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント)		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
リート (NATM		( ) I & P -			JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメ ント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
		- ク表示さ					コメント							
		れたレ	練混ぜ水の水質試 上水道水及び上 験 ル道水以外の水 の場合:	工事開始前及び工事中1回 上水道を使用してる場合は /年以上および水質が変 試験に換え、上水道を使用 わった場合。 てることを示す資料による硝	ン溶解性蒸発残留物の量:1g/L		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
		ディミクスト	JIS A 5308付属書 C		塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発 は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7 及び28日で90%以上	0	確認箇所							
		トコンクリー					コメント							
		ートを	練混ぜ水の水質試 回収水の場合: 験 JIS A 5308附属書	工事開始前及び工事中1回   その原水は上水道水及び」   /年以上および水質が変   水道水以外の水の規定に過   わった場合。   合するものとする。			日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
		使用する場合		スラッジ水の濃度は1回/日	モルタルの圧縮強度比:材齢7 及び28日で90%以上	0	確認箇所							
		は除く)					コメント							
	製造	その他	計量設備の計量精 度	工事開始前、工事中1回/・レディーミクストコンクリート 6ヶ月以上 の場合、印字記録により確認 を行う。			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
	(プラント	16			混和材:±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は± 1%以内) 混和剤:±3%以内	0	確認箇所							
	)						コメント							

工事名∶	対象箇所:	,	品質証明者	
		L		

工種	種別	試験 区分	試験項目·試験	<b>負方法</b>	試験基	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
28 吹 付けコ ンク リート (NATM	Î	その他	JIS	チミキサの場 S A 1119 S A 8603-1 S A 8603-2	工事開始前及び工事中1回 /年以上。		コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合 コンクリート内のモルタル量の 偏差率:0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の 偏差率:5%以下 圧縮強度の偏差率:7.5%以		日付・チェック 確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
	) J I S						下 コンクリート内空気量の偏差 率:10%以下 コンシステンシー(スランプ)の 偏差率:15%以下		コメント							
	マー ク表示されたレディミ							0								
	クストコン		合:	ミキサの場 マ学会規準	工事開始前及び工事中1回 /年以上。		コンクリート中のモルタル単位 容積質量差:0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
	クリートを		JSC 2013	E- I 502-			の差:5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランブ差:3cm以下	0	確認箇所							
	使用する場								コメント							
	場合は		細骨材の表面水率 JIS / 試験	A 1111	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以 外の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
	除 く )							0	確認箇所							
									コメント							
			粗骨材の表面水率 JIS が 試験	A 1125	1回/日以上。	レディーミクストコンクリート以 外の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								0	確認箇所							
									コメント							

	工事名: 対象箇所:	品質証明者
--	------------	-------

工種	種別	試験 区分	試験項目・	試験方法	試験基	· 準· 摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
28 吹 付けコ ンク リート (NATM)	施工	必須	塩化物総量規制	「コンクリートの耐 久性向上」	午後にまたがる場合は、午 前に1回コンクリート打設前 に行い、その試験結果が塩	・骨材に海砂を使用する場合 は、「海砂の塩化物イオン含 有率試験方法」(JSCE- C502-2018,503-2018)または 設計図書の規定により行う。	原則0.3kg/m3以下		日付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
					省略することができる。(1 試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。				コメント							
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-2013	材齢7日,28日(2×3=6供試体)なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事	C502-2018,503-2018) または設計図書の規定によ	1回の試験結果は指定した呼び 強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指 定した呼び強度以上であるこ と。 (1回の試験結果は、3個の供試 体の試験値の平均値)		田付・チェック確認箇所	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
					5cmのコアーを切り取り キャッピングを行う。1回に6 本(σ7…3本、σ28…3 本、)とする。				コメント							
			吹付けコンクリー トの初期強度(引抜 きせん断強度)		トンネル施工長40mごとに1 回	・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-	1日強度で5N/mm2以上		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
				方法 (JSCE-G561- 2010)		C502-2018,503-2018)または 設計図書の規定により行う。			確認箇所							
									コメント							
	•	その他	スランプ試験	JIS A 1101	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重 要度と工事の規模に応じて	は、「海砂の塩化物イオン含	スランプ5cm以上8cm未満:許容 差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下:許		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
		TEL.			20m3~150m3ごとに1回、	C502-2018,503-2018)または 設計図書の規定により行う。			確認箇所							
									コメント							
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重 要度と工事の規模に応じて	・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-	±1.5%(許容差)		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
					20m3~150m3ごとに1回、	C502-2018,503-2018)または 設計図書の規定により行う。			確認箇所							
									コメント							
24 吹 付けコ ンク	施工		コアによる強度試験	JIS A 1107	品質に異常が認められた場合に行う。		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
リート (NATM)									確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	•	品質証明者	
— <del></del>	7134EI/II		m2 m2 m2	

工種	種別	試験 区分	試験項目·試験方法	試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
29 ロッ クボル				材質は製造会社の試験によ る。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
(NATM	)	他				0	確認箇所							
							コメント							
	施工	必須	度試験	1)施工開始前に1回 2)施工中は、トンネル施工 延長50mごとに1回	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
				3.製造工場または品質の変 更があるごとに1回			確認箇所							
							コメント							
			值試験	1)施工開始前に1回 2)施工中または必要の都度 3)製造工場または品質の変	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
				更があるごとに「回			確認箇所							
							コメント							
			ロックボルトの引参考資料「ロックボ ルトの引抜試験」 による	掘削の初期段階は20mごと に、その後は50mごとに実 施、1断面当たり3本均等に	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
				飛行の本の表では両 行うただし、坑口部では両 側壁各1本)。			確認箇所							
							コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
— · •	772-277	H126H2 77 H	

	試験項目	・試験方法	試験基準	·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
材 必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法 便覧[4]-68		管理図を描いた上での管理 が可能な工事をいい、舗装い 施工面積が10,000m2あるに は使用する 基層および表層 用混合物の総使用量が 3,000t以上の場合が該当す	修正CBR20%以上		日付・チェック 確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ []	/ 0	
				・小規模工事は管理結果を 施工管理に反映できる規模 の工事をいい、同一工種の 施工が数日連続する場合 で、以下のいずれかに該当 するものをいう。			コメント							
				10.00m2未満 ②使用する基層および表層 用混合物の総使用量が500t 以上3.000t未満(コンクリートでは400m3以上,1.000m3未 満)。 ただし、以下に該当するもの についても小規模工事とし て取り扱うものとする。 リアスファルト舗装:同一配										
	土の粒度試験	JIS A 1204	当初及び材料の変化時		舗装再生便覧参照 接表-3.2.8路上再生路盤骨 将用素材の望ましい粒度範 囲による		田付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							コメント							
	土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料の変化時		設計図書による。		田付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							コメント							
	土の液性限界・塑 性限界試験	JIS A 1205	当初及び材料の変化時		型性指数PI:9以下		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							コメント							
		土の液性限界・塑	土の含水比試験 JIS A 1203	土の粒度試験 JIS A 1204 当初及び材料の変化時 土の含水比試験 JIS A 1203 当初及び材料の変化時 土の液性限界・塑 JIS A 1205 当初及び材料の変化時	施工面積が10,000m2あるしは使用する基層および表際 用混合物の総使用量が 3,000に以上の場合が該当する。 **。 **・ ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	施工面積が10,000m以上の場合が設当する。	施工商報が10,000m2あるいは使用する 語常および表層 用混合物の設使用量が 3,000以上の場合が終当す る。 ・小規模工事は管理に反映できる規模 の工事をいい、同一工種の 施工が設日連続する場合 で、以下のいずれかに該当するものについても必要を用混合物の設使用量が5000以上 10,000m2未満 (2)使用する基層および表層 用混合物の設使用量が5000以上 10,000m3未満 (2)で用する基層および表層 用混合物の設使用量が5000以上 10,000m3未満流。 ただし、以下に該当するもの についてもい規模工事としていり扱うものとする。 ただし、以下に該当するもの についてもい規模工事としていり扱うものとする。 合の合材が100t以上のもの 信かの合材が100t以上のもの 信が 100t以上のもの 日本の合材が100t以上のもの 材が100t以上の合材が100t以上のもの合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上の合材が100t以上のの合材が100t以上の合材が100tuthにの合材が100tuthにの合材が100tuthにの合材が100tuthにの合材が100tuthにの合材が100tuthhの合材が100tuthhの合材が100tuthhの合材が100tuthhの合材が100tuthhの合材が100tuthhの合材が100tuthhの合材が100tuthhの合材が100tuthhの合材が100tuthhの合材が100tuthhの合材が1	施工商権が1000の22を54 表示される表示 法 表示	施工面積が10,000m2表 50 は 接触 50 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は	施工商務が10,000m/あらい   1位利する基本とは実際   開発的の回便用量が   10,000 以上の部分域 (中央	接工業務が1000の000の000の000の000の0000000 は は 使用する 名類をは受ける 名類をは 受ける 名類をは 受ける 名類をは 受ける 名類をは 受ける 名類をは 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	第三面部が100ののようという   報送を所   100のは、200   100のによう   100のに	地工所称が1000m2-から401 は密切する	# 1

工事名:
------

工種	種別	試験 区分	試験項目·試験	<b>倹方法</b>	試験基準・捕	9要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
30 路上 再生路 盤工	材料	その他	セメントの物理試 JIS F 験	R 5201	工事開始前、工事中1回/月以上		JIS R 5210(ポルトランドセメ ント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセ メント) JIS R 5214(エコセメント)	0	日付・チェック確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
									コメント							
			ポルトランドセメン JIS F トの化学分析	R 5202	工事開始前、工事中1回/月以上		JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント)		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
							JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセ メント) JIS R 5214(エコセメント)	0	確認箇所							
									コメント							
	施 工	必須		[4]-256	・締固め度は、個々の測定値が基準密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下		基準密度の93%以上。 X10 95%以上 X6 95.5%以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
				換法 A1214)	を満足するものとする。 ・締固め度は、10孔の測定値の平 均値X10が規格値を満足するもの とする。また、10孔の測定値が得 がたい場合は3孔の測定値の平		X3 96.5%以上		確認箇所							
			粒径: の場 きる	合のみ適用で	均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値X6が規格値を満足して				コメント							
					いればよい、 ・・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を「ロットとし、 1ロットあたり10孔で測定する。 (例) 3,001~10,000㎡:10孔 10,001㎡以上の場合、10,000㎡毎(こ10孔)通加し、測定箇所が均等になるように設定すること。例えば12,000㎡の場合:6,000㎡/1ロット毎に10孔、合計20孔なお、1工事あたり3,000㎡以下の場合(維持工事を除く)は、1工事あたり3孔以上で測定する。											
			土の一軸圧縮試 舗装 験 便覧	調査・試験法 [4]-133	当初及び材料の変化時		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							

工事名:
------

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試験基準	隼∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
30 路_ 再生距 盤工	3 I	必須	CAEの一軸圧縮 試験	舗装調査·試験法 便覧[4]-135	当初及び材料の変化時	CAEの一軸圧縮試験とは、 路上再生アスファルト乳剤 安定処理路盤材料の一軸 圧縮試験を指す。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
						ALMBRYSK C 18 7 0			確認箇所							
									コメント							
			含水比試験	JIS A 1203	1~2回/日		設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							
31 路」 表層再 生工	上 材 料	必須	旧アスファルト針 入度	JIS K 2207	当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や 事前調査時のデータが利用 できる場合にはそれらを用			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
						いてもよい。			確認箇所							
									コメント							
			旧アスファルトの 軟化点	JIS K 2207	当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や 事前調査時のデータが利用 できる場合にはそれらを用			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
						いてもよい。			確認箇所							
				Ab 14 = 0 = 2 + 2 A A		104 = 6184 718 A.K.			コメント							
			既設表層混合物 の密度試験	舗装調査・試験法 便覧[3]-218	当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や 事前調査時のデータが利用 できる場合にはそれらを用			日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
						いてもよい。			確認箇所							
									コメント							
			既設表層混合物 の最大比重試験	舗装調査・試験法 便覧[4]-309	当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や 事前調査時のデータが利用 できる場合にはそれらを用			日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	
						いてもよい。			確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

種別	試験 区分	試験項目・記	式験方法	試験基準	•摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
	必須	のアスファルト量 便	i装調査・試験法 [覧[4]-318		十分なデータがある場合や 事前調査時のデータが利用 できる場合にはそれらを用			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
		験			いてもよい。			確認箇所							
								コメント							
					事前調査時のデータが利用			日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
				当初及び材料の変化時		「アスファルト舗装」に準じる。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
							0	確認箇所							
								コメント							
施工	必須	現場密度の測定 舗 便	覽[3]-218	準密度の96%以上を満足するも		X10 98%以上 X6 98%以上		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
				を満足するものとする。 ・締固め度は、10孔の測定値の平 均値X10が規格値を満足するもの とする。また、10孔の測定値が得		X3 98.5%以上		確認箇所							
				均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値X6が規格値を満足して				コメント							
				いればよい。 ・ 1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。 (例) 3,001~10,000㎡:10個 10,001㎡以上の場合、10,000㎡等になるように設定すること。例えば12,000㎡の場合・6,000㎡(プロット毎に10孔、合計20孔、なお、1工事あたり3,000㎡以下の場合											
	施	· 材料 必須	松   必	校	施工 が	材	対	接対   接換   接換   接換   接換   接換   接換   接換	接換   上分   一次   一次   一次   一次   一次   一次   一次   一	接別   図会の   試験項目   試験対法	(株)   (大)   (大	接換	接触性	### 20 日本	### 2017

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
— · •	772-277	H126H2 77 H	

工種	種別			・試験方法	試験基	準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
31 路上 表層再 生工	施工	必須	温度測定	温度計による。	随時	測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)	110℃以上		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							
			かきほぐし深さ	「舗装再生便覧」付 録-8に準じる。	1,000m2毎		-0.7cm以内		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							
		その他	粒度(2.36mmフル イ)	舗装調査・試験法 便覧[2]-16	適宜	目標値を設定した場合のみ 実施する。	2.36mmふるい: ±12%以内		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							
			粒度 (75 $\mu$ mフル イ)	舗装調査·試験法 便覧[2]-16	適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。	75μmふるい: ±5%以内		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							
			アスファルト量抽 出粒度分析試験	舗装調査·試験法 便覧[4]-318	適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。	アスファルト量: ±0.9%以内		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別			•試験方法	試験基準		規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
32 排 性舗装 工·透 水性部 装工	料	必須	骨材のふるい分け 試験	JIS A 1102	- 中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 - 小規模以下の工事: 施工前	・中規模以上の工事上は、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積 が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の約使 用量が3,000以上の場合が該 当する。 ・小規模工事は管理結果を施	「舗装施工便覧」3-3-2(3)に よる。		田付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
						工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工程の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用混		0	コメント							
			骨材の密度及び 吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	・中規模以上の工事:施工前、材 料変更時	合物の総使用量が500t以 上,3,000t未満(コンクリートでは	砕石・玉砕、製鋼スラグ (SS)		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					<ul><li>・小規模以下の工事:施工前</li></ul>	扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合 の合材が100t以上のもの	表乾比重:2.45以上 吸水率:3.0%以下		確認箇所							
								0	コメント							
					1 40 4° 00 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0						T					
			骨材中の粘土塊 量の試験	JIS A 1137	<ul><li>・中規模以上の工事:施工前、材料変更時</li><li>・小規模以下の工事:施工前</li></ul>		粘土、粘土塊量:0.25%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
									確認箇所							
								0	コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別			·試験方法	試験基準		規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
32 排水 性舗装 工·透 水性舗 装工	料	必須	粗骨材の形状試 験	便覧[2]-51	<ul><li>・中規模以上の工事:施工前、材料変更時</li><li>・小規模以下の工事:施工前</li></ul>	図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積 が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該	細長、あるいは偏平な石片: 10%以下		日付・チェック確認箇所	/	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。		0	コメント							
				WO 4 5000	+9#NL07= #7* #	①施工面積で1,000m2以上 10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用混 合物の総使用量が500t以 上3,000t未満(コンクリートでは 400m3以上,1,000m3未満)。	[									
			フィラーの粒度試験		<ul><li>・中規模以上の工事:施工前、材料変更時</li><li>・小規模以下の工事:施工前</li></ul>	ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り 扱うものとする。	舗装施工便覧]3-3-2(4)に  よる。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					17000010747.0040	が7000とする。 1)アスファルト舗装:同一配合 の合材が100t以上のもの			確認箇所							
								0	コメント							
			フィラーの水分試験		・中規模以上の工事:施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前		1%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					17000010747.162419				確認箇所							
								0	コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分		・試験方法	試験基準・	摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
32 排水 性舗装 工·透 水性舗 装工	料	その他	フィラーの塑性指数試験	JIS A 1205	・小規模以下の工事:施工前 が が が が が が が が が が が が が	中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積 が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の終使 用量が3,000t以上の場合が該 当する。 小規模工事は管理結果を施	4以下		田付・チェック 確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					- T R 80 U 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 1	工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。		0	コメント							
				Abutan + abu	G 1	10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以 上3,000t未満(コンクリートでは 400m3以上1,000m3未満)。										
			フィラーのフロー 試験	舗装調査・試験法 便覧[2]-83	・中規模以上の工事: 施工削、材 / 料変更時	ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り	50%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
						扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合 の合材が100t以上のもの		0	確認箇所							
									コメント							
			製鋼スラグの水浸膨張性試験		・中規模以上の工事:施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前		水浸膨張比:2.0%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
					17.元氏以下 V/上字 . 池上前			0	確認箇所							
									コメント							
			粗骨材のすりへり 試験		・中規模以上の工事:施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前		砕石・玉砕、製鋼スラグ (SS):30%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					・小졌侯以下の工争: 爬工削			0	確認箇所							
									コメント							

		T .		
工事名:	対象箇所:		品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試験基準	·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
	材料		硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験			・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積 が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層 用混合物の終度 用量が3,000t以上の場合が該 当する。 ・小規模工事は管理結果を施	損失量: 12%以下	0	日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
						工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工程の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m2以上10,000m2未満			コメント							
						②使用する基層及び表層用混					,		T	T	1	
			粗骨材中の軟石 量試験	JIS A 1126	・中規模以上の工事:施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前	合物の総使用量か500t以 上,3,000t未満(コンクリートでは 400m3以上,1,000m3未満)。 ただし、以下に該当するものに	軟石量:5%以下		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
						ついても小規模工事として取り 扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合 の合材が100t以上のもの		0	確認箇所							
									コメント							
			針入度試験	JIS K 2207	<ul><li>・中規模以上の工事:施工前、材料変更時</li><li>・小規模以下の工事:施工前</li></ul>		40(1/10mm)以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
									確認箇所							
									コメント							
			軟化点試験	JIS K 2207	・中規模以上の工事:施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前		80.0℃以上		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					アルスクト ソーナ・ルニードリ			0	確認箇所							
									コメント							

工事名: 対象箇所:		品質証明者	
------------	--	-------	--

工種	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基準	・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認	チェック内容				備考			
32 排水 性舗装 工·透 水性舗 装工	材料	その他	伸度試験	JIS K 2207	・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事とは、管理 図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積 が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000以上の場合が該 当する。 ・パ・規模工事は管理結果を施 工管理に反映できる規模の工	50cm以上(15℃)	0	日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
						事をいい、同一工種の施工が 数日連続する場合で、以下の いずれかに該当するものをい う。 ①施工面積で1,000m2以上 10,000m2未満			コメント							
			引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	<ul><li>・中規模以上の工事:施工前、材料変更時</li><li>・小規模以下の工事:施工前</li></ul>	上,3,000t未満(コングリートでは 400m3以上,1,000m3未満)。 ただし、以下に該当するものに	260℃以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
				515 K 2255 4		ついても小規模工事として取り 扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合 の合材が100t以上のもの		0	確認箇所							
									コメント							
			薄膜加熱質量変 化率	JIS K 2207	・中規模以上の工事:施工前、材 料変更時		0.6%以下		日付・チェック		/ 0		/ 0	/ 0	/ 0	
			16-4-		・小規模以下の工事:施工前			0	確認箇所					· -		
									コメント							
			薄膜加熱針入度	.IIS K 2207	·中規模以上の工事:施工前、材	·	65%以上				T		Т		Т	
			残留率	010 11 2207	料変更時・小規模以下の工事:施工前		0000		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							

工事名: 対象箇所:		品質証明者	
------------	--	-------	--

工種	種別	試験 区分	試験項目	•試験方法	試験基準	∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
32 排水 性舗装 工・透	材料		タフネス・テナシ ティ試験	舗装調査·試験法 便覧[2]-289	料変更時	図を描いた上での管理が可能 な工事をいい、舗装施工面積	タフネス:20N·m		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
水性舗 装工		IE.			1,00001101=1,00=19	が10,000m2あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該 当する。			確認箇所							
						・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをい		0	コメント							
						)。 ①施工面積で1,000m2以上 10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用混										
			密度試験	JIS K 2207	・中規模以上の工事:施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前	上,3,000t未満(コンクリートでは 400m3以上,1,000m3未満)。			日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
					,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り 扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合 の合材が100t以上のもの		0	確認箇所							
									コメント							
00 Ht =k	-	.Sy	₩ <b>広</b> /0.00 ¬#		古根株以上の工事 ウザやナナ	- 中担持いトのエネトは 第四	0.00 2.712 1.40012179				T		T	T		
32 排水 性舗装 エ・透	シ	必須		舗装調査・試験法 便覧[2]-16	<ul><li>・中規模以上の工事:定期的または随時。</li><li>・小規模以下の工事:異常が認め</li></ul>	図を描いた 上での管理が可能	2.30mmふるい: エ12%以内 基準粒度		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
水性舗 装工	٢				られたとき。 印字記録の場合:全数または抽 出・ふるい分け試験 1~2回/日	基層及び表層用混合物の総使 用量が3,000t以上の場合が該 当する。 ・小規模工事は管理結果を施		0	確認箇所							
						工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。			コメント							
						①施工面積で1,000m2以上 10,000m2未満 ②使用する基層及び表層用混			,							
			粒度(75 µ mフル イ)	舗装調査・試験法 便覧[2]-16	・中規模以上の工事: 定期的または随時。 ・小規模以下の工事: 異常が認め	上,3,000t未満(コンクリートでは 400m3以上,1,000m3未満)。	75μmふるい: ±5%以内基 準粒度		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
					られたとき。 印字記録の場合:全数または抽 出・ふるい分け試験 1~2回/日	ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの		0	確認箇所							
									コメント							

	工事名: 対象箇所	箇所: ┃	品質証明者	
--	-----------	-------	-------	--

工種	種別	試験区分	試験項目	·試験方法	試験基準		規格値	試験成績 表等によ る確認	-よ┃ チェック内容				備考			
32 排7 性舗装	麦 ラ	必須	アスファルト量抽 出粒度分析試験	舗装調査・試験法 便覧[4]-318	・中規模以上の工事:定期的または随時。	図を描いた上での管理が可能	アスファルト量: ±0.9%以内		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
工·透水性部 装工	甫ト				・小規模以下の工事: 異常が認められたとき。 印字記録の場合: 全数または抽出・ふるい分け試験 1~2回/日	は工事といい、調装施工国債が10,000m2あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施			確認箇所							
						70次はエデルを日本日本とル 工管理に反映できる規模の工 事をいい、同一工種の施工が 数日連続する場合で、以下の いずれかに該当するものをい う。		0	コメント							
						①施工面積で1,000m2以上 10,000m2末満 2使用する基層及び表層用混 合物の総使用量が500t以 上3,0004末滴(コンクリートでは 400m3以上,1000m3末滴) ただし、以下に該当するものに ついても小規模工事として取り 扱うものとする。										
			温度測定(アス ファルト・骨材・混 合物)	温度計による	随時	1)アスファルト舗装:同一配合 の合材が100t以上のもの	配合設計で決定した混合温度。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
			L 190)					0	確認箇所							
									コメント							
32 排7 性舗装 工・透	支 ラ	の	水浸ホイールト ラッキング試験	舗装調査・試験法 便覧[3]-65	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥 離性の確認	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
水性部装工	をした。	他						0	確認箇所							
									コメント							
			ホイールトラッキン グ試験	舗装調査・試験法 便覧[3]-44	設計図書による。	アスファルト混合物の耐流 動性の確認	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								0	確認箇所							
									コメント							
			ラベリング試験	舗装調査・試験法 便覧[3]-18	設計図書による。	アスファルト混合物の耐摩 耗性の確認	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
								0	確認箇所							
									コメント							

	工事名: 対象箇所	箇所: ┃	品質証明者	
--	-----------	-------	-------	--

工種	種別	試験 区分	試験項目	・試験方法	試験基準	∙摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認	横 よ チェック内容					備考		
32 排水 性舗装 工·透	プラン	その他	カンタブロ試験	舗装調査・試験法 便覧[3]-110	設計図書による。	アスファルト混合物の骨材 飛散抵抗性の確認	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
水性舗装工	ント	ᄩ						0	確認箇所							
									コメント							
	舗設現	必須	温度測定(初転圧 前)	温度計による	随時	測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)	<del>140~160°C</del>		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/	/ 0	/ 0	/ 🗆	
	場								確認箇所							
									コメント							
			現場透水試験	舗装調査・試験法 便覧[1]-154	1,000m2ごと。		X10 1,000mL/15sec以上 X10 300mL/15sec以上 (歩道箇所)		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
							(少是自劢)		確認箇所							
									コメント							
			現場密度の測定	便覧[3]-224	・締固め度は、個々の測定値が 基準密度の94%以上を満足する ものとし、かつ平均値について以		基準密度の94%以上。 X10:96% 以上 X6: 96% 以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
					下を満足するものとする。 ・締固め度は、10孔の測定値の 平均値X10が規格値を満足するも のとする。また、10孔の測定値が		X3: 96.5%以上 歩道箇所:設計図書による		確認箇所							
					得がたい場合は3孔の測定値の 平均値X3が規格値を満足するも のとするが、X3が規格値をはず れた場合は、さらに3孔のデータ を加えた平均値X6が規格値を満				コメント							
					足していればよい。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・											

品質証明チェックシー	ト(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日

<b>□</b> 事名:	対象箇所:		品質証明者	
--------------	-------	--	-------	--

工種	種別	試験 区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
32 排水性舗装 工·透水性舗 装工	舗設現場	必須	外観検査(混合 目視物)	随時				田付・チェック確認箇所	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
								コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目	·試験方法	試験基準	•摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
33 プラ ント再 生舗装	老江	須	再生骨材 アスファルト抽出 後の骨材粒度	舗装調査・試験法 便覧[2]-16	再生骨材使用量500tごとに1回。				日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
I								0	確認箇所							
									コメント							
			再生骨材 旧アスファルト含 有量		再生骨材使用量500tごとに1回。		3.8%以上		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							
			再生骨材 旧アスファルト針 入度	試験による再生骨	再生混合物製造日ごとに1回。 1日の再生骨材使用量が500tを 超える場合は2回。		20(1/10mm)以上(25°C)		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	
					1日の再生骨材使用量が100t未 満の場合は、再生骨材を使用しない日を除いて2日に1回とする。			0	確認箇所							
									コメント							
			再生骨材 洗い試験で失わ れる量	舗装再生便覧	再生骨材使用量500tごとに1回。	洗い試験で失われる量と は、試料のアスファルトコン クリート再生骨材の水洗前	5%以下		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	
						の75μmふるいにとどまるものと、水洗後の75μmふるいにとどまるものを気乾もしくは60°C以下の炉乾燥し、		0	確認箇所							
						その質量の差からもとめる。			コメント							
				IIO I/ 0007			U. V. 0007 T. th 7.7.7.7.1.1				Γ					
			再生アスファルト 混合物	010 K 220/	2回以上及び材料の変化		JIS K 2207石油アスファルト 規格		日付・チェック	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種	種別	試験 区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
33 プラ ント再 生舗装	プラン		粒度(2.36mmフル イ) 舗装調査・試験法 便覧[2]-16	抽出ふるい分け試験の場合:1~ 2回/日 ・中規模以上の工事:定期的また	2.36mmふるい:±12%以内 再アス処理の場合、2.36mm: ±15%以内		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
工	\ \			は随時。	印字記録による場合は、舗 装再生便覧表-2,9,5による。	0	確認箇所							
							コメント							
			粒度(75 μ mフル 舗装調査・試験法 イ) 舗装調査・試験法	抽出ふるい分け試験の場合:1~ 2回/日 ・中規模以上の工事:定期的また	75μmふるい:±5%以内 再アス処理の場合、75μm: ±6%以内		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
				は随時。	ロッ記録による場合は、舗装再生便覧表-2,9,5による。	0	確認箇所							
							コメント							
			T 1	LLUS 7OUENEA DISA						1	1			
			再生アスファルト 舗装調査・試験法 量 便覧[4]-318	2回/日	アスファルト量: ±0.9%以内 再アス処理の場合、アスファ ルト量: ±1.2%以内 印字記録による場合は、舗		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
				は随時。 ・小規模以下の工事: 異常が認め られるとき。 印字記録の場合:全数	印字記録による場合は、舗 装再生便覧表-2,9,5による。	0	確認箇所							
							コメント							
		その他	水浸ホイールト 舗装調査・試験法 ラッキング試験 便覧[3]-65	設計図書による。 耐水性の確認	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
		16				0	確認箇所							
							コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

					ı		T		ı							
工種		試験 区分	試験項目	·試験方法		試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
33 プラ ント再 生舗装	プラン	その他	ホイールトラッキン グ試験	舗装調査・試験法 便覧[3]-44	設計図書による。	耐流動性の確認	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
I	<b> </b>	16						0	確認箇所							
									コメント							
			ラベリング試験	舗装調査・試験法 便覧[3]-18	設計図書による。	耐磨耗性の確認	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
								0	確認箇所							
									コメント							
	舗設現場	必須	外観検査(混合 物)	目視	随時				日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
	場								確認箇所							
									コメント							
			温度測定(初転圧 前)	温度計による。	随時	測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)			日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種		試験 区分		試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
33 プラ ント再 生舗装	禄	必須	現場密度の測定 舗装調査・試験法 便覧[3]-218	基準密度の94%以上(再アス処	基準密度の94%以上。 X10 96%以上 X6 96%以上		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
工	場			上)を満足するものとし、かつ平 均値について以下を満足するも のとする。 ・締固め度は、10孔の測定値の	X3 96.5%以上 再アス処理の場合、基準密 度の93%以上。 X10 95%以上		確認箇所							
				平均値X10が規格値を満足するも	X6 95.5%以上 X3 96.5%以上		コベント							

品質証明チェックシー	-ト(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日)

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
		L		

工種						準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
34 工 場製作 エ	材料	必須	外観·規格 (主部材)	現物照合、帳票確認	現物とミルシートの整合性 が確認できること。 規格 品質がミルシートで確				日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
34 工 場製作 工 (鋼橋 用鋼 材)					規格、品質がミルシートで確認できること。			0	確認箇所							
									コメント							
			機械試験(JIS マーク表示品以外 かつミルシート照	JISによる	JISによる	試験対象とする材料は監督 職員と協議のうえ選定する。	JISによる		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	
			合不可な主部材)						確認箇所							
									コメント							
			外観検査 (付属部材)	目視及び計測	JISによる		JISによる		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
									確認箇所							
									コメント							

工事名: 対象箇所:	品質証明者	
------------	-------	--

工種	種別	試験 区分	試験項目·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
35 ガス 切断エ	施工	必須	表面粗さ 目視	最大表面粗さとは、JIS B 0601 (2013)に規定する最大 高さ粗さRZとする。	主要部材の最大表面粗さ : 50 / m 以下 二次部材の最大表面粗さ : 100 / m 以下 だし、切削による場合は 50 / m 以下)		日付・チェック確認箇所	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
							コメント							
			ノッチ深さ · 目視 · 計測	ノッチ深さとは、ノッチ上縁から谷までの深さを示す。	主要部材: ノッチがあってはならない こ次部材: 1mm以下		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
							確認箇所							
			スラグ 目視		塊状のスラグが点在し、付着し		日付・チェック		/ 0	/ 0	/ 0	· -	/ 0	
					ているが、痕跡を残さず容易にはく離するもの。		確認箇所	_ / U	/ [	/ [	/	/ 0	/ ⊔	
							コメント							
			上縁の溶け目視		わずかに丸みをおびているが、 滑らかな状態のもの。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
							確認箇所							
							コメント							
		その他	平面度目視		設計図書による(日本溶接協会 規格「ガス切断面の品質基準」 に基づく)		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							

品質証明チェックシー	-ト(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日)

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
------	-------	--	-------	--

	重 種別			試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
35 ガ 切断	ス 施エ エ	その他	ベベル精度 計測器による計 測		設計図書による(日本溶接協会 規格「ガス切断面の品質基準」 に基づく)		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	
							確認箇所							
							コメント							
			真直度 計測器による計 測		設計図書による(日本溶接協会 規格「ガス切断面の品質基準」 に基づく)		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	
							確認箇所							
							コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
			4

工種	重別	試験区分	試験項目	・試験方法	試験	*基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
36 溶 接工	施工	必須	引張試験:開先溶 接		試験片の形状:JIS Z 3121 1号 試験片の個数:2	・溶接方法は「日本道路協会道路 橋示方書・同解説」Ⅱ 鋼橋・鋼部材 編20.8.4溶接施工法 図-20.8.1開			日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					BA-955.7 T ♥ 7 IIII 393 2	先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以 上の条件で溶接施工試験を行い、 かつ施工経験をもつ工場では、そ			確認箇所							
						の時の試験報告書によって判断 し、溶接施工試験を省略すること ができる。		0	コメント							
			型曲げ試験 (19mm未満裏曲 ば)	JIS Z 3122	試験片の形状:JIS Z 3122 試験片の個数:2	・溶接方法は「日本道路協会道路 橋示方書・同解説」Ⅱ 鋼橋・鋼部材 編20.8.4溶接施工法 図-20.8.1開	ただし、亀裂の発生原因がプ		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
			(19mm未満側曲 げ):開先溶接			先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、 かつ施工経験をもつ工場では、そ	き込みであることが確認され、 かつ、亀裂の長さが3mm以下		確認箇所							
						の時の試験報告書によって判断 し、溶接施工試験を省略すること ができる。		0	コメント							
			衝擊試験:開先溶接		Vノッチ	・溶接方法は「日本道路協会道路 橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材 編20.8.4溶接施工法 図-20.8.1開	で母材の要求値以上(それぞ		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					道路協会道路橋示方書·同解説」II鋼橋·鋼部材編 20.8.4溶接施工法 図- 20.8.2衝撃試験片	先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以 上の条件で溶接施工試験を行い、 かつ施工経験をもつ工場では、そ			確認箇所							
					試験片の値数:各部位につき3	の時の試験報告書によって判断 し、溶接施工試験を省略すること ができる。		0	コメント							
													•			
			マクロ試験:開先溶接	JIS G 0553に準じる	試験片の個数:1	・溶接方法は「日本道路協会道路 橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材 編20.8.4溶接施工法 図-20.8.1開	欠陥があってはならない		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
						先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以 上の条件で溶接施工試験を行い、 かつ施工経験をもつ工場では、そ			確認箇所							
						の時の試験報告書によって判断 し、溶接施工試験を省略すること ができる。		0	コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
			4

工利	重 種別	分		試験基準·摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認	横 よ よ !							備考
36 洋 接工	修 施工	必須	非破壊試験:開先 溶接 路橋示方書·同解 説」II 鋼橋·鋼部	試験片の個数:試験片継手・溶接方法は「日本道路協会道路 全長 橋示方書・同解説」II 鋼橋・鋼部材 編20.8.4溶接施工法 図-20.8.1開	同解説」Ⅱ 鋼橋・鋼部		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
			武」11 判例信: 判印 村編20.8.6外部き ず検査 20.8.7内 部きず検査の規定 による	##20.8-4/浴 技施工法 図 Z 20.8.1 所 先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以 上の条件で溶接施工試験を行い、 かつ施工経験をもつ工場では、そ の時の試験報告書によって判断	20.8.7内部きず検査の規定		確認箇所							
				し、溶接施工試験を省略すること ができる。 (非破壊試験を行う者の資格) ・磁粉探傷試験または浸透探傷試			コメント							
				験を行う者は、それぞれの試験の 種類に対応した。JIS 2 2016(非検 壊試験-技術者の資格及び認証) に規定するレベル2以上の資格を 有していなければならない。 ・放射線透過試験を行う場合は、 放射線透過試験におけるレベル2 以上の資格とする。 ・超音波自動探傷試験を行う場合 は、超音波探傷試験を行う場合 は、超音波探傷試験を行う場合 は、超音波探傷試験を行う場合 は、超音波探傷試験を行う場合 は、超音波探傷試験を行う場合 は、超音波探傷試験におけるレベル3の資格とする。 ・手探傷による超音波探傷試験におけるレベル2以上の資格とする。		0								

	工事名: 対象箇	箇所:		品質証明者	
--	----------	-----	--	-------	--

工種	種別	試験区分	試験項目	•試験方法	試験	基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認	横よ チェック内容						備考	
36 溶 接工	施工	必須	マクロ試験:すみ 肉溶接		協会道路橋示方書·同解 説 I II 鋼橋·鋼部材編20.8.4	・溶接方法は「日本道路協会道路 橋示方書・同解説」Ⅱ 鋼橋・鋼部材 編20.8.4溶接施工法 図-20.8.3す み肉溶接試験(マクロ試験)溶接方	欠陥があってはならない		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					試験(マクロ試験)溶接方法 及び試験片の形状 試験片の個数:1	法及び試験片の形状による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以 上の条件で溶接施工試験を行い、			確認箇所							
						かつ施工経験をもつ工場では、そ の時の試験報告書によって判断 し、溶接施工試験を省略すること ができる。		0	コメント							
			引張試験:スタッド 溶接		試験片の個数:3	・過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の	張強さは 400~550N/mm2、伸びは20%以上とする。ただし溶		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
						試験報告書によって判断し、溶接 施工試験を省略することができる。	接で切れてはいけない。		確認箇所							
								0	コメント							
			曲げ試験:スタッド 溶接	JIS Z 3145	試験片の個数:3	・過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の	溶接部に亀裂を生じてはならな い。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
						試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。			確認箇所							
								0	コメント							

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
------	-------	--	-------	--

工種	種別	試験区分	試験項目	·試験方法	試懸	ま 準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認						備考		
36 溶 接工		須		JIS Z 3104 JIS Z 3060	放射線透過試験の場合は JIS Z 3104による。 超音波探傷試験(手探傷)	・「日本道路協会道路橋示方 書・同解説」Ⅱ 鋼橋・鋼部材編表- 解20.8.6及び表-解20.8.7に各継手	試験で検出されたきず寸法は、 設計上許容される寸法以下で なければならない。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	
			, A		の場合はJIS Z 3060による。	の強度等級を満たす上での内部きず寸法の許容値が示されている。なお、表-解20.8.6 及び表-解20.8.7に示されていない	ただし、寸法によらず表面に開口した割れ等の面状きずはあってはならない。 なお、放射線透過試験による		確認箇所							
						強度等級を低減させた場合などの 継手の内部きず寸法の許容値は、 「日本道路協会道路橋示方書・同 解説」II 銅橋・銅部村編 8.3.2継手 の強度等級に示されている。	下の試験の結果については、 以下を満たす場合には合格と		コメント							
						(非破壊試験を行う者の資格) ・放射線透過試験を行う場合 は、放射線透過試験を行う場合 は、放射線透過試験におけるレベ ル2以上の資格とする。 ・超音波探傷試験を行う場合 は、超音波探傷試験におけるレベ ル3の資格とする。 ・手探傷による超音波探傷試験を 行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル2以上の資格とする。	US 2 3104附属書4(透過写真によるきずの像の分類方法)に示す2類以上とする。 ・圧縮応力を受ける溶接部は、 い 3 2 310料原書4(透過写真によるきずの像の分類方法)に示す3類以上とする。 なお、板厚が25mmを超える場									
			外観検査(割れ)	•目視	にした上で目視検査する。	磁粉探傷試験または浸透探傷試験を行う者は、それぞれの試験の種類に対応したJIS Z 2305(非破	あってはならない。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
					だし、判定が困難な場合は、磁粉深傷法試験又は	種類に対応している。 様試験一技術者の資格及び認証) に規定するレベル2以上の資格を 有していなければならない。			確認箇所							
									コメント							
			外観形状検査 (ビード表面のピット)		検査体制、検査方法を明確 にした上で、目視確認によ り疑わしい箇所を測定す		断面に考慮する突合せ溶接継手、十字溶接継手、下溶接継手、下溶接継手には、ビード表面に		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
					る。目視は全延長実施す る。		ピットがあってはならない。その 他のすみ肉溶接及び部分溶込 み開先溶接には、1継手につき 3個又は継手長さ1mにつき3個		確認箇所							
							までを許容する。ただし、ビットの大きさが「mm以下の場合」は、3個を1個として計算するものとする。		コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

施			・試験方法	試懸	基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認	式験成績 表等によ る確認					備考		
エ	必須	外観形状検査 (ビード表面の凹 凸)	による計測	検査体制、検査方法を明確 にした上で、目視確認によ り疑わしい箇所を測定す		ビード表面の凹凸は、ビード長さ25mmの範囲で3mm以下。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
				る。目視は全延長実施する。				確認箇所							
								コメント							
		外観形状検査(ア ンダーカット)	・目視及びノギス等 による計測	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認によ	「日本道路協会道路橋示方書·同解説」Ⅱ鋼橋·鋼部材編表-解	「日本道路協会道路橋示方書・ 同解説」Ⅱ鋼橋・鋼部材編		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
				る。目視は全延長実施す る。	強度等級を満たすうえでのアン ダーカットの許容値が示されてい る。表-解20.8.4及び表-解20.8.5に 示されていない継手のアンダー	<b>వ</b> .		確認箇所							
					道路橋示方書・同解説」Ⅱ 鋼橋・鋼 部材編8.3.2継手の強度等級に示			コメント							
			外観形状検査(アンダーカット)	外観形状検査(ア・目視及び/ギス等 ンダーカット) による計測	が観形状検査(アン・目視及びノギス等レダーカット) ・目視及びノギス等による計測 にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。	る。目視は全延長実施する。  ・目視及びノギス等 検査体制、検査方法を明確 「日本道路協会道路橋示方書・同にした上で、目視確認によ 解説、II 鋼橋・鋼部村編 表 一解 20.8 4 及び表 一解 20.8 5 に 各継手の 強度等級を満たすうえでのアン る。  ・目視は全延長実施する。目視は全延長実施する。目視は全延長実施する。その 20.8 4 及び表 一解 20.8 4 及び表 一解 20.8 5 に 不されていない 継手のアンダーカットの評を値が示されていない 継手のアンダーカットの評を値が示されていない 継手のアンダーカットの評を値が示されていない 継手のアンダーカットの評を値は、「日本道路協会	る。目視は全延長実施する。    ・日視及びノギス等   検査体制、検査方法を明確		る。目視は全延長実施する。  ・目視及びノギス等 検査体制、検査方法を明確 「日本道路協会道路橋示方書・同 にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。目視は全延長実施する。自視は全延長実施する。自視は全延長実施する。自視は全延長実施する。自視は全が表示を消化している。表解20.8.4及び表一解20.8.6以前の許容値が示されている。表解20.8.4及び表一解20.8.6以前であれている。表解20.8.4及び表の許容値が示されている。表解20.8.4及び表の許容値が示されている。表解20.8.4及び表の許容値が示されている。表解20.8.4及び表の解20.8.5に示されている。表解20.8.4及び表の解20.8.5に示されている。表解20.8.4及び表の解20.8.5に示されている。表解20.8.4及び表の解20.8.5に示されている。表解20.8.4及び表の解20.8.5に示されている。表解20.8.4及び表の解20.8.5に示されている。表解20.8.4及び表の解20.8.5に示されている。表解20.8.4及び表の解20.8.5に示されている。表解20.8.4及び表の解20.8.5に示されている。表解20.8.4及び表の解20.8.5に示されている。表解20.8.4及び表の解20.8.5に対象が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が		る。目視は全延長実施する。	5. 目視は全延長実施する。	る。目視は全延長実施する。		5. 目視は全延長実施する。

工事名:	対象箇所:		品質証明者	
------	-------	--	-------	--

工利	重 種別	試験区分	試験項目	·試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認	チェック内容				備考			
36 落 接工		必須	外観検査(オバー ラップ)	・目視	検査体制、検査方法を明確 にした上で目視検査する。	あってはならない。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							
			外観形状検査(す み肉溶接サイズ)		検査体制、検査方法を明確 にした上で、目視確認によ り疑わしい箇所を測定す	すみ肉溶接のサイズ及びのど 厚は、指定すみ肉サイズ及び のど厚を下回ってはならない。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					る。目視は全延長実施する。	だだし、1溶接線の両端各 50mmを除く部分では、溶接長 さの10%までの範囲で、サイズ 及びのど厚ともに-1.0mmの誤 差を認める。		確認箇所							
								コメント							
			外観形状検査(余 盛高さ)	<ul><li>目視及びノギス等</li><li>による計測</li></ul>	検査体制、検査方法を明確 にした上で、目視確認によ り疑わしい箇所を測定す	設計図書による。 設計図書に特に仕上げの指定 のない開先溶接は、以下に示		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					る。目視は全延長実施する。	す範囲内の余盛りは仕上げなくてよい。余盛高さが以下に示す値を超える場合は、ビード形状、特に止端部を滑らかに仕上げるものとする。		確認箇所							
						ビード幅(B[mm]) 余盛高さ(h[mm]) B<15 : h≦3		コメント							
						15≦B<25 : h≤4 25≤B : h≤(4/25)⋅B									
			外観形状検査 (アークスタッド)	・目視及びノギス等による計測	検査体制、検査方法を明確 にした上で、目視確認によ り疑わしい箇所を測定す	・余盛り形状の不陸:余盛りは 全周にわたり包囲していなけれ ばならない。なお、余盛りは高		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
					る。目視は全延長実施する。	さ1mm、幅0.5mm以上。 ・割れ及びスラグ巻込み:あってはならない。 ・アンダーカット:するどい切欠 状アンダーカットがあってはな		確認箇所							
						らない。だたし、グラインダー仕 上げ量が0.5mm以内に納まる ものは仕上げて合格とする。 ・スタッドジベルの仕上り高さ:		コメント							
						(設計値±2mm)を超えてはならない。									
36 渚 接工	施工	の		ハンマー打撃	外観検査の結果が不合格 ・余盛が包囲して となったスタットジベルについ に全数。 ・	こいないスタット・ジペー 割れ等の欠陥を生じないもの た反対の15°の角を合格		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		他			大きない。 外観検査の結果が合格のス・15°曲げでも次 タッドシベルの中から1%について、たこ戻すないでは、元に戻すないではき取り曲げ検査を行うものとする。	て陥の生じないも ことなく、曲げたま		確認箇所							
								コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種		試験区分	試験項目∙試		試験基準・摘要		試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
37 中 層混合 処理	材 料	必須	土の含水比試験 JI	IS A 1203	当初及び土質の変化したと 配合を定めるための試験である。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
を 全 変 は の 場 高 に の								確認箇所							
混合処理改良体(コラ								コメント							
7 を造る 法には 適用し															
がい			土の湿潤密度試験 JI	IS G 0191	当初及び土質の変化したと 配合を定めるための試験で ある。	設計図書による。		日付・チェック	/	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							
			テーブルフロー試 JI 験	IS R 5201	当初及び土質の変化したと 配合を定めるための試験できる。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							
			1 0 +LT (0=4EA )			50 51 CD 351 - 1 7									
			土の一軸圧縮試験 JI (改良体の強度)	IS A 1216	当初及び土質の変化したと 配合を定めるための試験で き	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種		試 験 区 分		試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
37 中 層混合 処理	材 料	そ 土粒子( の 他	密度試験	JIS A 1202	土質の変化したとき必要に 応じて実施する。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
※全面								確認箇所							
へ改場適混理体ム 主良合用合改コ のに。処良ラ								コメント							
イをす法適用 はこはしない			-2484			50 5 1 CT 45 1 - 1 7									
74.1		土の粒原	試験	JIS A 1204	土質の変化したとき必要に 応じて実施する。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							
		土の液性 性限界記	限界·塑 【験	JIS A 1205	土質の変化したとき必要に 応じて実施する。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							
		土の一種	圧縮試験	JIS A 1216	土質の変化したとき必要に 応じて実施する。	設計図書による。		日付・チェック	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							
												•			

品質証明チェックシート(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	

工種		試験区分	試験項目・		試験基準	規格値	試験成績 表等によ る確認				チェック内容				備考
37 中 層混合 処理	材料	その他	土の圧密試験	JIS A 1217	土質の変化したとき必要に 応じて実施する。	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	/ 🗆	
		먠						確認箇所							
※改場適混理体ムをす法適全良合用合改(つ)造るに用面のに。処良ラ 成工はし								コメント							
を造成する工法には															
適用し ない			土懸濁液のpH試験	JGS 0211	有機質土の場合は必要に 応じて実施する	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 0	
								確認箇所							
								コメント							
													1		
			土の強熱減量試験	JGS 0221	有機質土の場合は必要に 応じて実施する	設計図書による。		日付・チェック	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 🗆	/ 🗆	
								確認箇所							
								コメント							

品質証明チェックシート(品質)	(期間:	年	月	日~	年	月	日)
-----------------	------	---	---	----	---	---	----

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
— , <del>—</del> ,	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	H12(12 )) [	

工種	種別	試験区分	試験項目·試験方法		試験基準・摘要		規格値	試験成績 表等によ る確認		チェック内容						備考
37層処 ※改場適混理体ムをす法適な中混理 全良合用合改(二)造るに用いて温をである。 成工はし	工 : :	必須	認(均質性)	ボーリングコアの 目視確認	1,000m3-4,000m3につき1回の割合で行う。 回の割合で行う。 試料採取器またはボーリングコアで採取された改良体 上、中、下において連続さを フェノールフタレイン反応試験により均質性を目視確認する。 現場の条件、規模等により 上記によりがたい場合は監督員の指示による。	の協議による。 2.ボーリング等により供試体	採取した試料のフェノールフ タレイン反応試験による均 質性の目視確認		日付・チェック 確認箇所	/ []	/ [	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	
			土の一軸圧縮試験 (改良体の強度)		1,000m3~4,000m3につき1 回の割合で行う。 試験は改良体について上、 中、下ぞれぞれ1供試体で1 回とする。 現場の条件、規模等により 上記によりがたい場合は監 替員の指示による。	協議による。	①各供試体の試験結果は改良地盤設計強度の85%以上。 ②1回の試験結果は改良地盤設計強度以上。 ②1回の試験結果は改良地盤設計強度以上。 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験値の平均値で表したもの		日付・チェック 確認箇所	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	/ 0	